

基本計画書

基本計画								
事項		記入欄						備考
計画の区分		学部設置						
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン トウヨウダイガク 学校法人 東洋大学						
フリガナ 大学の名称		トウヨウダイガク 東洋大学 (Toyo University)						
大学本部の位置		東京都文京区白山五丁目28番20号						
大学の目的		創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、「国際化」「キャリア教育」そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを教育の柱とし、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財」を育成することを目的とする。						
新設学部等の目的		情報連携学部では、コンピュータ・サイエンス教育を基盤とし、チームを組んで、コンピュータを使いこなし、情報を通して連携し、素早くアイデアを形にできるような人材を養成することを目的とする。そのために、一人でゼロから始めるのではなく、様々な人々とシステムを連携させ、情報分野の専門スキル、グローバルなコミュニケーション能力、チームで問題解決する能力を修得させる。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	情報連携学部 [Faculty of Information Networking for Innovation and Design]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	情報連携学科 [Department of Information Networking for Innovation and Design]	4	400	—	1,600	学士 (情報連携学)	平成29年4月 第1年次	東京都北区赤羽台 1丁目7番11号
	計		400	—	1,600			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		○学部等設置 文学部第1部 国際文化コミュニケーション学科 (100) (平成28年4月届出予定) 国際学部 (平成28年4月届出予定) グローバル・イノベーション学科 (100) 国際地域学科国際地域専攻 (210) 国際地域学科地域総合専攻 (80) 国際観光学部 (平成28年4月届出予定) 国際観光学科 (366) 情報連携学研究科 (平成28年4月届出予定) 情報連携学専攻 (20) ○入学定員変更 文学部第1部 日本文学文化学科〔定員減〕 (△67) (平成29年4月) 文学部第2部 日本文学文化学科〔定員減〕 (△30) (平成29年4月) ○廃止 文学部第1部 英語コミュニケーション学科 (廃止) (△100) ※平成29年4月学生募集停止 国際地域学部 (廃止) 国際地域学科国際地域専攻 (△180) 国際地域学科地域総合専攻 (△110) 国際観光学科 (△200) ※平成29年4月学生募集停止						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	情報連携学部 情報連携学科	講義	演習	実験・実習	計			
		122科目	66科目	11科目	199科目	124単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	情報連携学部	情報連携学科	20人 (13)	10人 (5)	5人 (5)	8人 (4)	43人 (27)	0人 (0)	40人 (41)	平成28年4月 届出
	文学部 第1部	国際文化コミュニケーション学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	262 (209)	
	国際学部	グローバル・イノベーション学科	9 (7)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	14 (10)	0 (0)	54 (41)	平成28年4月 届出
	国際学部	国際地域学科	15 (14)	6 (7)	4 (4)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	235 (205)	平成28年4月 届出
	国際観光学部	国際観光学科	14 (14)	10 (7)	9 (6)	0 (0)	33 (27)	0 (0)	194 (172)	平成28年4月 届出
	計		65 (55)	31 (22)	22 (19)	8 (4)	126 (100)	0 (0)	— (—)	
既 設 分	文学部 第1部	哲学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	30 (30)	平成28年4月 届出
		東洋思想文化学科	7 (7)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (10)	0 (0)	36 (36)	
		日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	100 (100)	
		英米文学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	28 (28)	
		史学科	9 (9)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	38 (38)	
		教育学科	11 (11)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	43 (43)	
	経済学部 第1部	経済学科	9 (9)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	52 (52)	
		国際経済学科	12 (12)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	14 (14)	
		総合政策学科	13 (14)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	20 (21)	0 (0)	17 (17)	
	経営学部 第1部	経営学科	14 (12)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	29 (27)	0 (0)	38 (38)	
		マーケティング学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)	
		会計ファイナンス学科	10 (10)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	10 (10)	
	法学部 第1部	法律学科	11 (11)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	22 (22)	
		企業法学科	18 (18)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	27 (27)	
	社会学部 第1部	社会学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	25 (25)	
		社会文化システム学科	9 (11)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (16)	0 (0)	35 (35)	
		メディアコミュニケーション学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	20 (20)	
		社会心理学科	11 (11)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	20 (20)	
		社会福祉学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	21 (21)	
	理工学部	機械工学科	11 (11)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	15 (15)	
		生体医工学科	12 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	33 (33)	
		電気電子情報工学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)	
		応用化学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	18 (18)	
		都市環境デザイン学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	12 (12)	
		建築学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	29 (29)	
	生命科学部	生命科学科	12 (12)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	16 (16)	
		応用生物科学科	8 (8)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	既 設	ライフデザイン学部 生活支援学科	12 (12)	10 (10)	2 (2)	9 (9)	33 (33)	0 (0)	36 (36)
		健康スポーツ学科	12 (12)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	42 (42)
		人間環境デザイン学科	9 (9)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	3 (3)	43 (43)
		総合情報学部 総合情報学科	19 (20)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	30 (31)	0 (0)	19 (19)
		食環境科学部 食環境科学科	12 (12)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
		健康栄養学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	5 (5)	7 (7)
		文学部 第2部 東洋思想文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		日本文学文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		教育学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	分	経済学部 第2部 経済学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		経営学部 第2部 経営学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		法学部 第2部 法律学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		社会学部 第2部 社会学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		社会福祉学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		国際教育センター	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)
		IR室	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		計	355 (357)	164 (165)	61 (61)	45 (45)	625 (628)	8 (8)	－ (－)
		合 計	420 (412)	195 (187)	83 (80)	53 (49)	751 (728)	8 (8)	－ (－)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		370 人 (370)		187 人 (187)		557 人 (557)		
	技 術 職 員		0 (0)		59 (59)		59 (59)		
	図 書 館 専 門 職 員		30 (30)		8 (8)		38 (38)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		2 (2)		2 (2)		
	計		400 (400)		256 (256)		656 (656)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体 借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 H11/4/18～ H41/4/17
	校 舎 敷 地	336,410.11㎡	0㎡		0㎡		336,410.11㎡		
	運 動 場 用 地	189,576.05㎡	0㎡		0㎡		189,576.05㎡		
	小 計	525,986.16㎡	0㎡		0㎡		525,986.16㎡		
	そ の 他	282,259.15㎡	0㎡		0㎡		282,259.15㎡		
	合 計	808,245.31㎡	0㎡		0㎡		808,245.31㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
		219,247.12㎡ (219,247.12㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		219,247.12㎡ (219,247.12㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	333室	107室	456室		33室 (補助職員 27人)		7室 (補助職員 0人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			情報連携学研究 科と共用	
		情報連携学部 情報連携学科			70 室				

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	情報連携学部 情報連携学科		1,704,218 [379,241] (1,559,766 [356,737])	17,549 [5,514] (17,549 [5,514])	25,731 [25,099] (25,731 [25,099])	26,347 (25,127)	－ (－)	－ (－)			
	計		1,704,218 [379,241] (1,559,766 [356,737])	17,549 [5,514] (17,549 [5,514])	25,731 [25,099] (25,731 [25,099])	26,347 (25,127)	－ (－)	－ (－)			
図書館			面積 17,821.10㎡		閲覧座席数 2,780席		収 納 可 能 冊 数 2,095,750冊		大学全体		
体育館			面積 19,966.44㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、サッカー場2面 テニスコート13面 等				大学全体		
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体	
		教員1人当り研究費等		(千円) 教 授：694 准教授：641 講 師：589	(千円) 教 授：694 准教授：641 講 師：589	(千円) 教 授：694 准教授：641 講 師：589	(千円) 教 授：694 准教授：641 講 師：589	－千円	－千円		
		共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	－千円	－千円		
		図 書 購 入 費	21,401千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円	－千円	－千円		
		設 備 購 入 費	901,073千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次 1,500千円	第2年次 1,250千円	第3年次 1,250千円	第4年次 1,250千円	第5年次 －千円	第6年次 －千円	図書費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費 (運用コスト含 む。)を含む。		
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。							
既設大学の状況	大 学 の 名 称		東洋大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	大学院 修士・博士前期課程										
	文学研究科										
	哲学専攻		2	5	－	10	修士(文学)	1.10	昭和27年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	インド哲学仏教学専攻		2	4	－	8	修士(文学)	1.37	昭和27年度	同上	
	日本文学文化専攻		2	10	－	20	修士(文学)	1.15	昭和27年度	同上	
	中国哲学専攻		2	4	－	8	修士(文学)	1.37	昭和29年度	同上	
	英文学専攻		2	5	－	10	修士(文学)	0.40	昭和31年度	同上	
	史学専攻		2	6	－	12	修士(文学)	0.33	昭和42年度	同上	
	教育学専攻		2	20	－	40	修士(教育学)	0.12	平成6年度	同上	
	英語コミュニケーション専攻		2	10	－	20	修士 (英語コミュニケーション)	0.40	平成16年度	同上	
	社会学研究科										
	社会学専攻		2	10	－	20	修士(社会学)	0.60	昭和34年度	同上	
	社会心理学専攻		2	12	－	24	修士 (社会心理学)	0.45	平成16年度	同上	
	法学研究科										
	私法学専攻		2	10	－	20	修士(法学)	0.45	昭和39年度	同上	
	公法学専攻		2	10	－	20	修士(法学)	0.80	昭和51年度	同上	

既設大学の状況	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定 員 超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経営学研究科									
	経営学専攻	2	10	—	20	修士(経営学)	1.20	昭和47年度	同上	
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.90	平成18年度	同上	
	マーケティング専攻	2	10	—	20	修士 (マーケティング)	0.45	平成22年度	同上	
	理工学研究科									
	生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.94	平成26年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	0.74	平成26年度	同上	
	機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.43	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.85	平成26年度	同上	
	都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士(工学)	0.50	平成26年度	同上	
	建築学専攻	2	14	—	28	修士(工学)	1.35	平成26年度	同上	
	工学研究科									
	機能システム専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	
	バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	
	環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	
	情報システム専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	
	経済学研究科									
	経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.85	昭和51年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.66	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域学)	1.16	平成13年度	同上	
	国際観光学専攻	2	10	—	20	修士 (国際観光学)	1.15	平成17年度	同上	
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.30	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会デザイン研究科									
	社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又は 修士(ソーシャルワーク)	0.30	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又は 修士(社会学)	0.27	平成18年度	同上	
	ヒューマンデザイン専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又は 修士(健康デザイン学)	0.57	平成18年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
	人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.50	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科									
	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナ ノサイエンス融合)	0.58	平成23年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	

既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	総合情報学研究科								
	総合情報学専攻	2	15	—	15	修士(情報学)	0.60	平成28年度	同上
	食環境科学研究科								
	食環境科学専攻	2	10	—	10	修士(食環境 科学)	1.20	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号
	大学院 博士後期課程								
	文学研究科								
	哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	1.11	昭和43年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
	インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.77	昭和29年度	同上
	日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和29年度	同上
	中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	平成11年度	同上
	英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	昭和39年度	同上
	史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	平成11年度	同上
	教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上
	英語コミュニケーション専攻	3	5	—	15	博士 (英語コミュニケーション)	0.06	平成19年度	同上
	社会学研究科								
	社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.77	昭和34年度	同上
	社会心理学専攻	3	5	—	15	博士 (社会心理学)	0.40	平成18年度	同上
	法学研究科								
	私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	昭和41年度	同上
	公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.20	平成12年度	同上
	経営学研究科								
	経営学専攻	3	5	—	15	博士(経営学)	0.13	平成11年度	同上
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	5	—	15	博士(経営学)または 博士(会計・ファイ ナンス)	0.20	平成22年度	同上
	マーケティング専攻	3	3	—	9	博士 (マーケティング)	0.11	平成24年度	同上
	理工学研究科								
	生体医工学専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.11	平成26年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地
	応用化学専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.00	平成26年度	同上
	機能システム専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.00	平成26年度	同上
	電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.33	平成26年度	同上
	建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.33	平成26年度	同上

既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	工学研究科									
	機能システム専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	平成26年より学生 募集停止
	バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年より学生 募集停止
	環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年より学生 募集停止
	情報システム専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年より学生 募集停止
	経済学研究科									
	経済学専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	0.44	昭和53年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	3	5	—	15	博士 (国際地域学)	0.80	平成15年度	同上	
	国際観光学専攻	3	3	—	9	博士 (国際観光学)	0.55	平成23年度	同上	
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (生命科学)	0.33	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会デザイン研究科									
	社会福祉学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学) 又 は博士(ソーシャルワーク)	1.46	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	ヒューマンデザイン専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学) 又 は博士(健康デザイン学)	0.86	平成18年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
	人間環境デザイン専攻	3	4	—	12	博士 (人間環境デザイン学)	0.33	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科									
	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナノ サイエンス融合)	0.50	平成19年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	専門職大学院 法務研究科									
	法務専攻(法科大学院)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成16年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成28年より学生 募集停止

学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
文学部 第1部						1.15			
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.20	昭和24年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.21	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和24年度	同上	平成25年より学生 募集停止
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和24年度	同上	平成25年より学生 募集停止
日本文学文化学科	4	200	—	780	学士(文学)	1.16	平成12年度	同上	平成27年度入学生 員増(10人)
英米文学科	4	133	—	506	学士(文学)	1.14	昭和24年度	同上	平成27年度入学生 員増(13人)
英語コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.19	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	486	学士(文学)	1.13	昭和24年度	同上	平成27年度入学生 員増(23人)
教育学科						1.07	昭和39年度	同上	
教育学科人間発達専攻	4	100	—	320	学士(教育学)	1.14	平成20年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)
教育学科初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.98	平成20年度	同上	
経済学部 第1部						1.15			
経済学科	4	250	—	960	学士(経済学)	1.17	昭和25年度	同上	平成27年度入学生 員増(20人)
国際経済学科	4	183	—	716	学士(経済学)	1.14	平成12年度	同上	平成27年度入学生 員増(8人)
総合政策学科	4	183	—	706	学士(経済学)	1.14	平成20年度	同上	平成27年度入学生 員増(13人)
経営学部 第1部						1.17			
経営学科	4	316	—	1252	学士(経営学)	1.17	昭和41年度	同上	平成27年度入学生 員増(6人)
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.19	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	852	学士(経営学)	1.14	平成18年度	同上	平成27年度入学生 員増(6人)
法学部 第1部						1.17			
法律学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.17	昭和31年度	同上	
企業法学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.17	昭和40年度	同上	
社会学部 第1部						1.13			
社会学科	4	150	—	520	学士(社会学)	1.14	昭和34年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)
社会文化システム学科	4	150	—	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)
社会心理学科	4	150	—	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)
社会福祉学科	4	150	—	520	学士(社会学)	1.13	平成4年度	同上	平成27年度入学生 員増(40人)

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既 設 大 学 等 の 状 況	理工学部						1.13			
	機械工学科	4	180	—	660	学士(理工学)	1.11	平成21年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	平成27年度入学定 員増 (30人)
	生体医工学科	4	113	—	426	学士(理工学)	1.13	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (13人)
	電気電子情報工学科	4	113	—	446	学士(理工学)	1.12	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (3人)
	応用化学科	4	146	—	532	学士(理工学)	1.13	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (26人)
	都市環境デザイン学科	4	113	—	426	学士(工学)	1.14	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (13人)
	建築学科	4	146	—	572	学士(工学)	1.15	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (6人)
	工学部						—			
	情報工学科	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和51年度	同上	平成21年より学生 募集停止
	コンピュータショナル工学科	—	—	—	—	学士(工学)	—	平成13年度	同上	平成21年より学生 募集停止
	国際地域学部						1.15			
	国際地域学科						1.13	平成9年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	180	—	720	学士 (国際地域学)	1.19	平成22年度	同上	
	国際地域学科 地域総合専攻	4	110	—	440	学士 (国際地域学)	1.04	平成22年度	同上	
	国際観光学科	4	200	—	800	学士 (国際観光学)	1.19	平成13年度	同上	
	生命科学部						1.11			
	生命科学科	4	113	—	426	学士 (生命科学)	1.11	平成9年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	平成27年度入学定 員増 (13人)
	応用生物科学科	4	113	—	426	学士 (生命科学)	1.12	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (13人)
	食環境科学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成21年度	同上	平成25年より学生 募集停止
	ライフデザイン学部						1.11			
	生活支援学科						1.08	平成17年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
	生活支援学科 生活支援学専攻	4	116	—	432	学士 (生活支援学)	1.15	平成21年度	同上	平成27年度入学定 員増 (16人)
	生活支援学科 子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	1.00	平成21年度	同上	
	健康スポーツ学科	4	180	—	660	学士 (健康スポーツ学)	1.12	平成17年度	同上	平成27年度入学定 員増 (30人)
	人間環境デザイン学科	4	160	—	620	学士 (人間環境デザイン 学)	1.14	平成18年度	同上	平成27年度入学定 員増 (10人)
	総合情報学部						1.17			
	総合情報学科	4	260	—	1040	学士(情報学)	1.17	平成21年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	食環境科学部						1.09			
	食環境科学科						1.17	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.17	平成25年度	同上	
	スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.17	平成25年度	同上	
	健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.99	平成25年度	同上	

既設大学等の状況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	平成25年より学生 募集停止
		年	人	年次 人	人		倍			
	文学部 第2部						1.05			
	東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士(文学)	1.05	平成25年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和31年度	同上	
	日本文学文化学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.04	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	—	160	学士(教育学)	1.05	昭和39年度	同上	
	経済学部 第2部						1.08			
	経済学科	4	150	—	600	学士(経済学)	1.08	昭和32年度	同上	
	経営学部 第2部						1.04			
	経営学科	4	110	—	440	学士(経営学)	1.04	昭和41年度	同上	
	法学部 第2部						1.07			
	法律学科	4	120	—	480	学士(法学)	1.07	昭和31年度	同上	
	社会学部 第2部						1.02			
	社会学科	4	130	—	520	学士(社会学)	1.04	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	45	3年次 10	200	学士(社会学)	0.95	平成13年度	同上	
	通信教育部									
	文学部 日本文学文化学科	4	1000	—	4000	学士(文学)	0.04	昭和39年度	同上	
	法学部 法律学科	4	1000	—	4000	学士(法学)	0.01	昭和41年度	同上	
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報連携学部 情報連携学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 盤 教 育	哲学・思想	井上円了と日本近代思想	1・2・3・4①・③	2		○				1				隔年 隔年 兼1 兼1 兼2 オムニバス・ 共同(一部)
		哲学概論	1・2・3・4②・④	2		○				1				
		異文化交渉論	1・2・3・4①・③	2		○				1				
		情報技術者の倫理	1・2・3・4①・③	2		○				1				
		世界の歴史Ⅰ	1・2・3・4②・④	2		○								
		世界の歴史Ⅱ	1・2・3・4①・③	2		○								
		情報と法	1・2・3・4②・④	2		○								
		小計 (7科目)	—	0	14	0	—		0	1	0	0	0	兼3
	経済・金融	ミクロ経済学	1・2・3・4①・③	2		○			1					
		マクロ経済学	1・2・3・4②・④	2		○			1					
		国際経済学(貿易・開発)	1・2・3・4①・③	2		○			1					
		国際経済学(金融・通貨)	1・2・3・4②・④	2		○			1					
		金融市場と構造	1・2・3・4①・③	2		○			1					
		企業金融と金融健全性	1・2・3・4②・④	2		○			1					
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—		1	0	0	0	0	0
	国際人の形成	国際キャリア概論	1・2・3・4③	2		○								兼1
		留学のすすめ	1・2・3・4④	2		○								兼1
		日本事情A	1・2・3・4①	2		○								兼1
		日本事情B	1・2・3・4②	2		○								兼1
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼2
	キャリア・健康	キャリアデベロップメント論A	1・2・3・4①	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論B	1・2・3・4②	2		○								兼1
		スポーツ健康科学実技ⅠA	1・2・3・4前	1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1・2・3・4後	1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1・2・3・4前	1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1・2・3・4後	1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1・2・3・4前	1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4後	1				○						兼12
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前・後	2		○								兼2
		スポーツ健康科学講義ⅡA	1・2・3・4前	2		○								兼3
		スポーツ健康科学講義ⅡB	1・2・3・4後	2		○								兼3
		スポーツ健康科学演習Ⅰ	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		小計 (12科目)	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼13
	総合・学際	全学総合ⅠA	1・2・3・4前	2		○								兼4
		全学総合ⅠB	1・2・3・4後	2		○								兼4
		全学総合ⅡA	1・2・3・4前	2		○								兼3
		全学総合ⅡB	1・2・3・4後	2		○								兼2
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼7
	留学支援	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅠA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	2		○							兼5
			English for Academic Purposes ⅠB Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2		○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	2		○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2		○							兼5
			Pre-Study Abroad College Study Skills	1・2・3・4前・後	1		○							兼1
			Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1・2・3・4前・後	1		○							兼1
			Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1・2・3・4前・後	1		○							兼1
			Business English Communication	1・2・3・4前・後	2		○							兼1
		小計 (8科目)	—	0	13	0	—		0	0	0	0	0	兼6

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基盤教育	日本語・日本文化教育科目 留学支援	Integrated Japanese I		4			○							兼1	
		Integrated Japanese II		4			○							兼1	
		Integrated Japanese III		4			○							兼1	
		Integrated Japanese IV		4			○							兼1	
		Japanese Reading and Composition I		1			○							兼1	
		Japanese Reading and Composition II		1			○							兼1	
		Japanese Reading and Composition III		1			○							兼1	
		Japanese Reading and Composition IV		1			○							兼1	
		Kanji Literacy I		1			○							兼1	
		Kanji Literacy II		1			○							兼1	
		Kanji Literacy III		1			○							兼1	
		Kanji Literacy IV		1			○							兼1	
		Project Work I		1			○							兼1	
		Project Work II		1			○							兼1	
		Project Work III		1			○							兼1	
		Project Work IV		1			○							兼1	
		Japanese Listening Comprehension I		1			○							兼1	
		Japanese Listening Comprehension II		1			○							兼1	
		Japanese Listening Comprehension III		1			○							兼1	
		Japanese Listening Comprehension IV		1			○							兼1	
		Japanese Culture and Society A		2			○							兼1	
		Japanese Culture and Society B		2			○							兼1	
		Introduction to Japanology A		2			○							兼1	
		Introduction to Japanology B		2			○							兼1	
		小計 (24科目)	—	0	40	0	—	—	0	0	0	0	0	兼5	
情報連携学基盤科目	基盤科目	情報連携学概論	2			○			8						オムニバス
		情報連携のための数学A		2		○				1					
		情報連携のための数学B		2		○				1					
		情報連携のための確率・統計学A		2		○				1					
		情報連携のための確率・統計学B		2		○				1					
		情報連携のための物理学A		2		○								兼1	
		情報連携のための物理学B		2		○								兼1	
		小計 (7科目)	—	2	12	0	—	—	8	2	0	0	0	兼1	
	分野別科目	情報連携ビジネス概論		2		○			2						オムニバス・ 共同(一部)
		情報連携シビルシステム概論		2		○			1						
		情報連携エンジニアリング概論		2		○			2						オムニバス・ 共同(一部)
		情報連携デザイン概論		2		○			2						オムニバス・ 共同(一部)
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	7	1	0	0	0	0	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習 I (英語)		4			○				3				
		リスニング・スピーキング演習 II (英語)		4			○				3				
		リーディング・ライティング演習 I (英語)		2			○				2				
		リーディング・ライティング演習 II (英語)		2			○				2				
		リスニング・スピーキング演習 I (日本語)		4			○							兼1	
		リスニング・スピーキング演習 II (日本語)		4			○							兼1	
		リーディング・ライティング演習 I (日本語)		2			○							兼1	
		リーディング・ライティング演習 II (日本語)		2			○							兼1	
		小計 (8科目)	—	24	0	0	—	—	0	0	5	0	0	兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅲ（英語）	2前		2			○					3			兼1 兼1 兼1 兼1	
		リスニング・スピーキング演習Ⅳ（英語）	2後		2			○					3				
		リーディング・ライティング演習Ⅲ（英語）	2前		2			○					3				
		リーディング・ライティング演習Ⅳ（英語）	2後		2			○					3				
		リスニング・スピーキング演習Ⅲ（日本語）	2前		2			○									
		リスニング・スピーキング演習Ⅳ（日本語）	2後		2			○									
		リーディング・ライティング演習Ⅲ（日本語）	2前		2			○									
		リーディング・ライティング演習Ⅳ（日本語）	2後		2			○									
		小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	5	0	0	兼2		
専門科目	情報連携基礎科目	コンピュータシステム概論Ⅰ	1①・②	2			○			1	3						
		コンピュータシステム概論Ⅱ	1③・④	2			○			1	3						
		ソフトウェア開発概論Ⅰ	1①・②	2			○			1	3						
		ソフトウェア開発概論Ⅱ	1③・④	2			○			1	3						
		コンピュータ社会概論	1③・④	2			○			1	1						
	小計（5科目）	—	10	0	0	—			2	4	0	0	0	0			
	情報連携応用科目	ビジネス分野	会計論Ⅰ	2①・②		2		○			1						
			経営論Ⅰ	2①・②		2		○			1						
			統計とデータ分析Ⅰ	2①・②		2		○				1					
			会計論Ⅱ	2③・④		2		○			1						
			経営論Ⅱ	2③・④		2		○			1						
			統計とデータ分析Ⅱ	2③・④		2		○				1					
			経営論Ⅲ	3①・②		2		○			1						
			データ・マイニング論	3①・②		2		○			1						
			人工知能	3①・②		2		○			1						
			ディープ・ラーニング	3③・④		2		○			1						
			知的財産権論	3③・④		2		○				1					
			ビックデータ解析	3③・④		2		○			1						
			ビジネス・インキュベーション論Ⅰ	4①		2		○			1						
			ビジネス・インキュベーション論Ⅱ	4②		2		○			1						
			ビジネス・インキュベーション論Ⅲ	4③		2		○			1						
			ビジネス・インキュベーション論Ⅳ	4④		2		○				1					
		小計（20科目）	—	0	40	0	—			4	2	0	0	0	0		
		シビルシステム分野	環境科学と政策	2①・②		2		○				1					
			建築デザイン	2①・②		2		○			1						
			インフラマネジメント	2①・②		2		○			1						
			エネルギーと環境インフラ	2③・④		2		○				1					
			産業エコロジー	2③・④		2		○			1						
			都市・地域マネジメント	2③・④		2		○				1					
			地理情報システム	3①・②		2		○			1						
			社会資本経営	3①・②		2		○			1						
			ユビキタスネットワークと生活	3①・②		2		○			1						
			ライフラインマネジメント	3③・④		2		○			1						
			交通と情報マネジメント	3③・④		2		○				1					
	持続可能社会と情報マネジメント		3③・④		2		○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	シ ビ ル シ ス テ ム 分 野	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅰ	4①	2		○			1					
		クオリティ・オブ・ライフ論Ⅱ	4②	2		○			1					
		クオリティ・オブ・ライフ論Ⅲ	4③	2		○				1				
		クオリティ・オブ・ライフ論Ⅳ	4④	2		○				1				
		小計 (20科目)	—	0	40	0	—		5	3	0	0	0	0
	エ ン ジ ニ ア リ ン グ 分 野	コンピュータ・アーキテクチャ	2①・②	2		○			1					
		プログラミング言語Ⅰ	2①・②	2		○				1				
		情報数学	2①・②	2		○				1				
		コンピュータ・ネットワークⅠ	2③・④	2		○			1					
		プログラミング言語Ⅱ	2③・④	2		○				1				
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2③・④	2		○				1				
		コンピュータ・ネットワークⅡ	3①・②	2		○			1					
		ソフトウェア・エンジニアリング	3①・②	2		○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	3①・②	2		○				1				
		オペレーティング・システム	3③・④	2		○			1					
		データベース	3③・④	2		○			1					
		コンピュータ・システム	3③・④	2		○			1					
		コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅰ	4①	2		○			1					
		コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅱ	4②	2		○				1				
		コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅲ	4③	2		○				1				
		コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅳ	4④	2		○			1					
		コンピュータ・ネットワーク論Ⅰ	4①	2		○			1					
		コンピュータ・ネットワーク論Ⅱ	4②	2		○			1					
		コンピュータ・ネットワーク論Ⅲ	4③	2		○			1					
		コンピュータ・ネットワーク論Ⅳ	4④	2		○			1					
		小計 (20科目)	—	0	40	0	—		4	3	0	0	0	0
	デ ザ イ ン 分 野	デザイン理論Ⅰ	2①・②	2		○			1					
		ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅠ	2①・②	2		○			1					
		コンピュータ支援設計Ⅰ	2①・②	2		○			3					オムニバス
		デザイン理論Ⅱ	2③・④	2		○			1					
		デザイン理論Ⅲ	2③・④	2		○			1					
		ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅡ	2③・④	2		○			1					
		WEBデザインⅠ	3①・②	2		○			1					
		ユーザ・エクスペリエンス評価	3①・②	2		○			1					
		コンピュータ支援設計Ⅱ	3①・②	2		○			1					
		WEBデザインⅡ	3③・④	2		○			1					
		コンピュータ・グラフィクス	3③・④	2		○				1				
		工業デザイン	3③・④	2		○			3					オムニバス
		デジタル・デザイン論Ⅰ	4①	2		○			1					
		デジタル・デザイン論Ⅱ	4②	2		○			1					
		デジタル・デザイン論Ⅲ	4③	2		○			1					
		デジタル・デザイン論Ⅳ	4④	2		○			1					
		ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅰ	4①	2		○				1				
		ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅱ	4②	2		○				1				
		ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅲ	4③	2		○			1					
		ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅳ	4④	2		○			1					
		小計 (20科目)	—	0	40	0	—		5	1	0	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
演習・実習	情報連携基礎演習	情報連携基礎演習	1通	4				○			1		3				
		小計（1科目）	—	4	0	0	—		0	1	0	3	0	0			
	ビジネス演習	情報連携ビジネス演習Ⅰ	2通		4			○		1			2				
		情報連携ビジネス演習Ⅱ	2通		4			○		1			2				
		情報連携ビジネス演習Ⅲ	3通		4			○		2	1						
		情報連携ビジネス演習Ⅳ	3通		4			○		2	1						
		小計（4科目）	—	0	16	0	—		4	2	0	4	0	0			
		シビルシステム演習 エンジニアリング演習	情報連携シビルシステム演習Ⅰ	2通		4			○					3		兼1	共同（一部）
			情報連携シビルシステム演習Ⅱ	2通		4			○					3			
			情報連携シビルシステム演習Ⅲ	3通		4			○					3			
			情報連携シビルシステム演習Ⅳ	3通		4			○					3			
			小計（4科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	4	0	兼1		
			情報連携エンジニアリング演習Ⅰ	2通		4			○			2		1			
			情報連携エンジニアリング演習Ⅱ	2通		4			○		2			1			
			情報連携エンジニアリング演習Ⅲ	3通		4			○		1	2					
		情報連携エンジニアリング演習Ⅳ	3通		4			○		2	1						
		小計（4科目）	—	0	16	0	—		3	3	0	1	0	0			
		デザイン演習	情報連携デザイン演習Ⅰ	2通		4			○		3						
	情報連携デザイン演習Ⅱ		2通		4			○		1	1		1				
	情報連携デザイン演習Ⅲ		3通		4			○		3							
	情報連携デザイン演習Ⅳ		3通		4			○		2	1						
	小計（4科目）		—	0	16	0	—		5	1	0	1	0	0			
	情報連携実習	情報連携実習Ⅰ	1通	2					○	7	4		1				
		情報連携実習Ⅱ	2通	2					○	8	3		1				
		情報連携実習Ⅲ	3通	4					○	8	5		1				
		情報連携実習Ⅳ	4通	4					○	9	8		1				
		小計（4科目）	—	12	0	0	—		17	9	0	4	0	0			
	卒業論文	卒業研究	4通	4				○	18	0							
		小計（1科目）	—	4	4	0	—		18	0	0	0	0	0			
	合計（199科目）			—	56	377	0	—		20	10	5	8	0	兼39		
	学位又は称号		学士（情報連携学）		学位又は学科の分野				工学関係 経済学関係								
	卒業要件及び履修方法									授業期間等							
	[卒業の条件] ①基盤教育科目は哲学・思想から6単位以上、経済・金融から4単位以上を修得し、情報連携学基盤科目は必修科目2単位を含む10単位以上を修得すること。 ②専門科目のうち情報連携応用科目は、指定された科目24単位を含む36単位以上を修得すること。 ③演習・実習のうち情報連携応用演習は、指定された科目16単位以上を修得すること。 ④コミュニケーション科目は、日本語を母語とする学生は英語科目の、それ以外の留学生を主とする学生は日本語科目の、それぞれ12単位以上を修得すること。 ⑤全体で124単位以上修得すること。 [履修科目の登録の上限] 年間48単位とする。									1 学年の学期区分				4期			
										1 学期の授業期間				8週			
										1 時限の授業時間				90分			

授業科目の概要				
（情報連携学部 情報連携学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想	井上円了と日本近代思想	この授業科目の目的は、井上円了の哲学に対する基本的な理念と、東アジア、インド及びヨーロッパの哲学のための研究機関である、東洋大学の歴史を学ぶことである。 さらには、広く学びの場で用いられている哲学理念を理解しそれを発展させることと、哲学的な考え方、読み方、書き方そして議論の方法を身に付ける。また、江戸時代と現代の哲学者を比較して学ぶことにより、明治初期の哲学者が啓蒙した事柄を考察する。	
基盤教育	哲学・思想	哲学概論	理論哲学の基本は真実の探求である。形而上学の概念の説明から始まり、カントの認識論へと進み、その後、ヘーゲルの弁証法、現象学、言語の分析哲学を学ぶ。一方、実践哲学の基本は善である。徳倫理学、道徳感覚論、カントの道徳哲学、および功利主義という、4つの異なるアプローチの概要を体系的に学ぶ。哲学入門として、理論哲学と実践哲学の違いを明確にして理解を深める。	
基盤教育	哲学・思想	異文化交渉論	この授業の目的は、異文化哲学と異文化コミュニケーションの歴史的、文化的、語学的な前提を理解することにある。井上円了の哲学堂公園を仮想散歩すると、偉大な哲学の伝統、世界の諸語族や文化圏について観察することが出来る。インターネット時代において、前近代哲学や言葉の遺産がどのあたりに位置するのを見定めるものである。	隔年
基盤教育	哲学・思想	情報技術者の倫理	この授業科目の目的はインターネットの倫理と政策を学ぶことである。日々進化するインターネットは、常に新しい倫理と政策の問題を生じ、そしてそれらの問題は3つの分野に区分することができる。 ①インターネットアクセス、インターネットテクノロジー、インターネットメンテナンスに関するインターネットガバナンス ②インターネットの使用と内容に関するネット政策 ③インターネットを通じた新しい民主制の可能性に関するデジタルデモクラシー この講義を通して、学生は、倫理に関する事項を自分の仕事に反映できるようになる。	隔年
基盤教育	哲学・思想	世界の歴史Ⅰ	ヨーロッパの歴史を中心に、古代から近代に至る各時代から初学者にも比較的なじみのある「出来事」やマクロなテーマ（戦争と平和、自由と隷属、政治と宗教、国家と国民、中央と周縁、統合と分離、等）を取り上げ、その概要と問題点を検証する。同時代の証言や史料を参照しつつ、高校教科書や参考書から一歩踏み込んだ、多角的な歴史の理解と関心につなげる。さらに、その出来事やテーマに関する「語られ方」の変遷やさまざまな受容のあり方も探りたい。	
基盤教育	哲学・思想	世界の歴史Ⅱ	「都市と文化」をテーマに、文化のあり方を都市との関係性から理解する。古の時代から「都市」は政治経済の中心であると同時に、学問、芸術、教育、布教、出版といったさまざまな知的活動の拠点でもあった。この講義では、ヨーロッパ諸都市の歴史をひもときつつ、それぞれの都市社会に固有の空間、制度、慣習、社会関係がこうした知的活動にどのような性格を与えたか、また、これらの活動が都市の外観や生活を豊かにする上でどのような役割を演じたかを考える。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想	情報と法	(概要) 本講義は、「情報」の利用に関する基本ルールである法の内容、実際生じている問題、また、法発展の方向を学ぶことで、社会システムの構築やビジネスモデル・商品の開発等に際し、法令を遵守した活動のできる能力の養成を目的とするものである。 (オムニバス方式／全15回) (50 清水宏・10 早川和宏/1回) (共同) 導入教育を共同で担当する。 (51 早川和宏/7回) 憲法上の諸原則、情報倫理、情報公開、個人情報保護、行政情報化等を担当する。 (50 清水宏/7回) データ利用、電子商取引、知的財産権保護、刑事法による情報保護等を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
基盤教育	経済・金融	ミクロ経済学	個人・企業などの行動、あるいは経済・社会全体の動向について、経済理論がどのような働きをするのかを学ぶ。 経済学の役割を理解した上で、ミクロ経済理論を修得し、個人や企業の多様な行動をミクロ経済理論により説明できるようにする。 具体的には、需要と供給の均衡と価格との関係、消費者行動の原理と効用、生産者(供給者)の行動原理と利潤、市場原理の役割とその限界、情報の不完全性と市場、といった点を中心に学ぶ。	
基盤教育	経済・金融	マクロ経済学	個人・企業などの行動、あるいは経済・社会全体の動向について、経済理論がどのような働きをするのかを学ぶ。 経済全体を捉える視点を理解し、マクロ経済理論を修得し、経済成長、消費・投資の理論、財政・金融政策の役割、為替レートの影響などをマクロ経済理論を用いて説明できるようにする。 具体的には、国民経済計算の3面等価、GDPの各要素の決定要因、マネーの機能、金融・財政政策の役割、失業とインフレ、経済成長・発展と情報の役割、といった点を中心に学ぶ。	
基盤教育	経済・金融	国際経済学(貿易・開発)	世界経済全体、及び主要国間(とくに日本と諸外国)との経済関係を、実体経済の側面から捉える。まず、貿易と国際分業の基本理論を習得し、国際労働移動、海外直接投資のメカニズムと経済への影響を考察する。また関税と自由貿易の経済的な意味を理解し、WTO・FTA・自由貿易圏(TPP・RCEP等)の位置づけを考える。 さらに、発展途上国の経済開発・経済成長の条件を考察する。最後に、経済のグローバリゼーションの意味と実態、及びその原因を探り、各国経済への影響を考察する。	
基盤教育	経済・金融	国際経済学(金融・通貨)	世界経済全体、及び主要国間(とくに日本と諸外国)との経済関係を、金融・通貨の側面から捉える。まず為替レートの決定要因とマクロ経済との関係を理解する。また、為替レートと金融政策等の経済政策との関係を学ぶ。 また、EUやASEAN等の主要地域圏における経済統合の動向とその影響を考える。さらにリーマンショック後の国際資本市場・国際銀行市場の動向と管理の在り方を考える。	
基盤教育	経済・金融	金融市場と構造	金融の仕組みと経済社会における役割・位置づけを理解する。その上で、金融構造・システムの捉え方、日本の金融構造・システムの特徴を理解する。 さらに、金融市場の構造とそのメカニズム、金融政策の理論とその実態、金融機関の役割と各金融業態の動向を学ぶ。また金融分野におけるIT化、及び擬似通貨の動向を知り、その影響と管理策について考察する。 その上で、日本の金融構造・システムの問題点とその是正策を考える。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	経済・金融	企業金融と金融健全性	企業金融、金融システムの安定性・健全性、バブル経済の原因とその防止策、を中心に考察する。その際、情報の不完全性との関連を重視する。企業金融については、企業の資金調達構造、及び調達手段の選択原理を学び、日本企業の資金調達構造を捉える。とくに中小企業の資金調達構造の特徴と問題点について、深く考察する。金融システムの安定性・健全性については、金融機関の財務の健全性と、その達成の為のバーゼル規制などの国際合意、及び日本政府の取り組みを学ぶ。さらに、これらを踏まえた上でバブル経済防止の為の方策を考察する。	
基盤教育	国際人の形成	国際キャリア概論	本講座では留学の歴史的役割や概念を振り返るとともに、留学が持つ社会的意義、個人の成長やキャリア形成にもたらす役割について実例をもとに学ぶ。カルチャーショックやアイデンティティー危機など留学を通じて得られる異文化体験についても分析する。また、海外での学習において準備しておくべき事項として、語学力の強化、綿密な学習計画、単位互換、安全面や健康面での危機管理などについて認識を高めていく。海外インターンシップ、ボランティア、フィールドワークなど多様な海外学習体験について紹介し、受講者に自らのキャリア・デザインの在り方を客観的に分析する機会を提供する。	
基盤教育	国際人の形成	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、大学生がどのように国際的なキャリア形成をめざすべきか、ガイダンスすることを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家などを招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（とくに大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	
基盤教育	国際人の形成	日本事情A	この授業科目は留学生が日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身に付けることを目的とする。日本事情Aでは、現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。取り上げるテーマは、住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題で、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、受講者によるプレゼンテーションの機会を多く設定する。	
基盤教育	国際人の形成	日本事情B	この授業科目は留学生が日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身に付けることを目的とする。日本事情Bでは、日本の行事、日本人の自然とのかかわり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。取り上げるテーマは、結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄について、考察を深め比較しディスカッションしていく。また、受講者によるプレゼンテーションの機会を多く設定する。	
基盤教育	キャリア・健康	キャリアデベロップメント論A	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を学ぶこととする。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観の分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習し大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを考えていきたい。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・健康	キャリアデベロップメント論B	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから学んでいくこととする。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索していきたい。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅠA	バスケットボールは、年間を通して天候に左右されずに楽しむことができるスポーツで、現在、世界中に普及しています。この授業では、まずゲームを楽しむことから始めます。バスケットボールというゲームの全体像を理解することができたら、今度はゲームで成功するために最低限必要な技術や戦術を身につけていきます。ゲーム形式の学習を繰り返し行ない、合間を利用して、ゲームを楽しむために必要な技術・戦術を、ポイントを絞って解説していきます。そして、その内容を意識した上で、再度ゲーム形式の学習にもどっていくことで、ゲームの質の向上をはかります。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅠB	各学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、段階的に運動の基礎を充実するための基礎となる授業を展開する。バドミントンは誰でも気軽に楽しめるスポーツであり、生涯にわたり楽しむことのできるスポーツであるといえます。授業の内容は、主に初心者を対象として、健康・体力向上を図るとともに、必要な基礎知識、基礎技術、ゲームの進め方を学びます。また、スポーツを通じて、他人との協調性を持つことも授業の目的です。授業の期間中だけでなく、その後運動することが習慣となり、生涯にわたり健康維持増進、社会的コミュニケーションや親睦を積極的に図ることのできるような意識を養うことを目的とします。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅡA	サッカーは世界中で親しまれているスポーツである。親しまれる要因としては、用具が少なく済むこと、人数やレベルに合わせてピッチの大きさを変化させることにより、運動量を確保することができ、技術発揮状況を作り出すことができることが挙げられる。本授業ではサッカーの楽しさと喜びを実感するとともに、自身の健康と体力向上を図り、技術・戦術の向上やゲーム運営、審判の実践を通じて生涯スポーツの基礎となる実践力を高めることを目的とする。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅡB	卓球は男女を問わず、年齢や体力に合わせて楽しむことのできるスポーツであり、生涯付き合うのに最も適したスポーツの一つであります。この授業では、卓球のスイングやサーブなどの基本技術や戦術を習得し、さらに試合でのマナーやダブルスでのチームワーク、審判法などの実践的な能力を獲得することで、卓球を生涯行うことのできる能力を身に付けてもらいたい。また、体力に合わせてゲームを楽しむためのトレーニング方法などについても学習します。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅢA	本授業では、フィットネストレーニングを取り扱うが、体を鍛える為の授業ではなく、一生涯を通じて健康維持・増進する方法論として体と知を育む授業を目的とする。初心者から上級者まで受講することができるが、筋トレマシーンやダンベルなどを使ってトレーニングするだけの授業ではない。自分の体を知る・見直す機会を持つために、授業中に課題や身体組成の測定を行う。その後、履修する学生一人ひとりに応じたオリジナルのトレーニングメニューが作成できるように分かりやすく指導を行う。勿論、バーベルを使った本格的なトレーニング（ベンチプレス・スクワット・ハイクリーンなど）を希望する学生に対しては、正しいフォームから指導を行う。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学実技ⅢB	急速な情報化社会が進展する現在において、デジタルツールの拡大により私たちの生活は便利になりましたが、それにともない人々の「運動不足」による問題が深刻化しています。私たちの日常生活において、食事による摂取カロリーは昔に比べて増えているにもかかわらず、肉体労働は減る一方なのです。 このような状況から、私たちが生涯に向けてより快適に過ごすためには、ハイカロリーな食生活の改善と運動不足の解消はもとより、「基礎代謝」を上げることが非常に重要です。本授業では、脂肪を燃焼させるための有酸素運動（エアロビクスダンス）と、身体の核となる「コア」を鍛え、各自の基礎代謝を上げることと身体バランスを整えること、そして健康に関する正しい知識を身に付け、深めることを目的とします。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学講義Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関する入門的講義を行う。主に、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目的とする。また、現状の体力の把握や緊急時の対応などを学習することを通して、自他の健康への意識を高め、生涯の健康をより発展的に捉えられることも課題として位置づける。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学講義ⅡA	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡA」は、春学期の開講科目である。本講義では主に、健康管理・安全管理を中心に講義していく。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学講義ⅡB	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。本講義では主に、生活習慣病や体づくり、トレーニング理論を中心に講義していく。	
基盤教育	キャリア・健康	スポーツ健康科学演習Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関して、演習形式で授業を展開する。主に、「スポーツ」という現象について受講生が各々の関心事に基づいてテーマを設定し、研究・発表・討論を行う。本授業を通して、スポーツの専門的な知識を習得すること、選択したテーマについて周知な準備を行い多角的な観点から報告ができること、他者の報告について批判的に討論できることが目的となる。複数のグループを編成し、グループごとにテーマを選定することが通例である。	
基盤教育	総合・学際	全学総合ⅠA	2000年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時刻に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合ⅠB	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
基盤教育	総合・学際	全学総合ⅡA	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十八年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
基盤教育	総合・学際	全学総合ⅡB	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目 English for Academic PurposesⅠA Listening/Speaking	TOEFL-ITPで450点以上取得するためのアカデミックな内容を学ぶ。ネイティブスピーカーを対象としたリスニング教材を用いてアカデミックな内容についてディスカッションをする。質問のプロセスや様々な質問のパターンを学ぶ。本格的な教材を用いるため取り組む課題の多い内容である。語学能力試験でスコアを高めるために必要なスキルとストラテジーを学ぶ。	
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目 English for Academic PurposesⅠB Reading/Writing	TOEFL-ITPで450点以上を取得するためにアカデミックな内容を学ぶ。本格的なリーディング資料を用いてアカデミックな内容についてディスカッションを行う。取り扱うリーディングはネイティブの人々が使う内容であり、アカデミックな語彙が必要である。正確な文法、句読点や言葉の使い方はアカデミックレポートライティングの重要な構成要素である。論文作成能力を向上させる基礎を学ぶ。さらには、語学能力試験で最大限スコアを向上させるためのストラテジーやスキルを学ぶ。	
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目 English for Academic PurposesⅡA Listening/Speaking	交換留学に必要なTOEFL-ITPで500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。チャレンジングで本格的なリスニング内容を使用し、海外の大学レベルのディスカッションや講義で語られる事柄について話をする訓練を行う。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。	

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目	English for Academic Purposes II B Reading/Writing	交換留学に必要なTOEFL-ITP試験500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。実際に大学等のアカデミックな場面で使用される内容や幅広いアカデミックな語彙を使用する。アカデミックエッセイを書くことが要求される。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。		
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad College Study Skills	アカデミックな目的のための上級英語である。TOEFL-ITP500点をすでに取得済の学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を強化する。プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークへの参加、速読、スキミングとスキヤニング、クリティカルシンキング、ノートテイキングを学ぶ。内容は、アカデミックなものであり、授業内での高いパフォーマンスが求められる。		
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	アカデミックな内容を目的とした高度な英語のライティングクラス。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。基礎的なライティングスキルからアカデミックな内容までを扱う。アカデミックエッセイで組み合わさる様々なジャンルのライティングを練習する。プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して練習をする。		
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	アカデミックな内容を目的とした高度な英語レベルのライティングクラスである。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。さらに、PSA-Basic Academic Writingを履修していることを前提としている。長文のペーパー執筆が課される。自由研究をする中で、言い換え、要約、引用、アカデミックな資料の収集・整理が課される。海外留学を成功させるための質の高い課題の提出が求められる。		
基盤教育	留学支援	英語特別教育科目	Business English Communication	本科目では、コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキルなどの効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行などのビジネススキルを身につけさせることも目的としている。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・日本文化科目	Integrated Japanese I	本科目は、留学生を対象とした日本語の言語科目である。日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級前半レベルの総合的な技能を習得し、日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙などを学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・日本文化科目	Integrated Japanese II	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Integrated Japanese I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、初級後半レベルの総合的な日本語コミュニケーション能力を身につけることである。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な文法や語彙などを学習し、身近な出来事について表現し、日本語のメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。		

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Integrated Japanese III	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Integrated Japanese II」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、中級前期から中期レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学習者の身近なトピックについてディスカッションを交えながら読む・聞く・話す・書くの四技能が総合的に高められるように構成されている。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Integrated Japanese IV	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Integrated Japanese III」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、中級中期から後期レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学生の身近なトピックから評論文などまで幅広い題材を扱い、ディスカッションを交えながら読む・聞く・話す・書くの四技能が総合的に高められるように構成されている。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Japanese Reading and Composition I	本科目は、留学生を対象にした日本語の読解と作文のクラスである。日本語能力レベルは初級前半であり、主な目的は日本語の四技能の中でも、特に読み書きの基礎的な能力を身につけることである。授業では、簡単な初級前半レベルに必要な読み書きができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や日常会話、メッセージを書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Japanese Reading and Composition II	本科目は、「Japanese Reading and Composition I」を履修した学習者もしくはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象にした日本語の読解と作文のクラスである。目的は、日本語の四技能の中でも、特に初級後半レベルの基礎的な読み書きの能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な読み書きができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や簡単な会話、メッセージを書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Japanese Reading and Composition III	本科目は、「Japanese Reading and Composition II」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。大学生活に必要な作文力と読解能力の習得を目的とし、論理的な文章を読むトレーニングや、説明文、意見文、短いレポートを書くといった文章表現技術を学ぶ活動を行う。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Japanese Reading and Composition IV	本科目は、「Japanese Reading and Composition III」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。論理的な文章の読解力とアカデミックライティングの力を育成する。活動の中心は「読む」・「書く」であるが、ほかに話し合いや発表を通して、主体的にかつ論理的に理解・表現できるようになることを目指す。履歴書やエントリーシート、研究計画書の書き方といった卒論や卒業後の進路に関わるものについても概説し、実践活動に取り組む。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Kanji Literacy I	本科目は、留学生を対象にした漢字クラスである。取り扱う漢字は、初級前半レベルの約100の基本的な漢字であり、学期末までにそれらをマスターすることを目的としている。授業では、毎週約10ずつ学習し、ペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な漢字、語彙を中心に学び、それらを使って簡単な文を書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・日本文化教育科目	Kanji Literacy II	本科目は、「Kanji Literacy I」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、初級後半レベルの約100の基本的な漢字であり、学期末までにそれらをマスターすることを目的としている。授業では、毎週約10ずつ学習し、ペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な漢字、語彙を学習し、それらを使って簡単な文を書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。		

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Kanji Literacy III	本科目は、「Kanji Literacy II」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、中級前期から中期レベルの漢字（125～250）であり、読み・書きともに習得することを目的としている。また、学生生活を営む上で必要な漢字を関連するものとして取り扱う。当該漢字のルーツや成り立ちについて、あるいは熟語についてディスカッションを通して学ぶ活動も行われる。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Kanji Literacy IV	本科目は、「Kanji Literacy III」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、中級中期から後期レベルの漢字（125～250）であり、読み・書きともに習得することを目的としている。学生生活を営む上で必要な漢字からアカデミックライティングに必要な漢字まで扱う。当該漢字のルーツや成り立ちについて、あるいは熟語についてディスカッションを通して学ぶ活動も行われる。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Project Work I	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプロジェクト・ワークに取り組む。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Project Work II	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work I」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象としている。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Project Work III	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work II」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館などの施設での野外調査も行う。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Project Work IV	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work III」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。アカデミックスキルとしての情報活用や分析、プレゼンテーションの方法を学ぶことを目的とし、レポートや口頭発表の手法、実践、相互評価に取り組む。公的な場、あるいは、アカデミックな場における表現についても学ぶ。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語・教育科目・日本文化	Japanese Listening Comprehension I	本科目は、留学生を対象にした日本語の聴解クラスである。目的は、初級前半レベルの日本語の四技能の中でも、特に聴解能力に焦点を当て、コミュニケーション能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な基本的な聞き取りができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や会話を聞き取る練習などを行う。週1回、全15回開講される。		

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Japanese Listening Comprehension II	本科目は、「Japanese Listening Comprehension I」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象とした初級後半レベルの日本語の聴解クラスである。目的は、日本語の四技能の中でも、特に初級後半レベルの基礎的な聴解能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な聞き取りができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や会話を聞き取る練習などを行う。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Japanese Listening Comprehension III	本科目は、「Japanese Listening Comprehension II」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。聴解力を向上させるために必要なストラテジーを学ぶトレーニングに取り組みながら、徐々に生の情報（テレビやラジオのニュース、インタビュー番組、CM、ドラマ、対談、アニメーションなど）に触れ、学生生活に必要な聴く力を育てる。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Japanese Listening Comprehension IV	本科目は、「Japanese Listening Comprehension III」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。聴解力を向上させるために必要なストラテジーを学びながら、ある程度の長さを持つ発話や物語（講義、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど）を聴き取る活動に取り組み、一定の情報の中から要点を聴き分ける能力、すべての語が理解できなくとも大意を把握する能力、判別できない語を類推する能力などの育成も行う。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Japanese Culture and Society A	本科目は、留学生を対象に、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、授業では様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップなどが行われる。授業は英語で行われ、主に「歴史」「芸術」「スポーツ」「教育」「住宅」「家族」などのキーワードを中心に授業を展開していく。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Japanese Culture and Society B	本科目は、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、授業では様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップなどが行われる。授業は英語で行われ「落語」「和太鼓」「日本舞踊」「祭り」「ソーラン節」などの日本文化を中心に扱う。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Introduction to Japanology A	本科目は、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学ぶ。週1回、全15回開講される。		
基盤教育	留学支援	日本語教育・科目日本文化	Introduction to Japanology B	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化などと併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら進められる。週1回、全15回開講される。		

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報連携学 基盤教育	基盤科目	情報連携学概論	(概要) 現代社会では、様々な学問分野、システム、組織が、情報通信技術を軸に連携しながら動いている。情報連携学概論では、本学部の趣旨である「情報通信技術を軸とした連携」の考え方と、その中でのビジネス、シビルシステム、デザイン、エンジニアリング各コースの計8つの研究分野の位置付けを学ぶ。本講義では、情報通信技術を軸とした連携の全体像を示した後、各研究分野の教員による研究紹介をオムニバス形式で行う。また、実際の社会における様々な実務の現場の事例紹介も交えながら、最先端の情報通信技術が、どのように社会を動かしているかを学習する。 (オムニバス方式／全15回) (1 坂村健/1回) 情報連携学の概要 (18 富田亜紀/1回) ビジネス・インキュベーション研究分野について (2 中村周吾/1回) データ・サイエンス研究分野について (4 花木啓祐/1回) インフラ・サービス研究分野について (15 後藤尚弘/1回) クオリティ・オブ・ライフ研究分野について (1 坂村健/1回) コンピュータ・アーキテクチャ研究分野について (20 吉越健治/1回) コンピュータ・ネットワーク研究分野について (8 中村光宏/1回) デジタル・デザイン研究分野について (11 神場知成/1回) ユーザ・エクスペリエンス研究分野について (1 坂村健/6回) 情報連携の事例学習	オムニバス方式
情報連携学 基盤教育	基盤科目	情報連携のための数学A	情報連携のための基礎となる数学知識を体系的に身につけることを目標とし、特に解析学の初歩となる微積分について学ぶ。微積分の考え方は、例えば実世界現象のモデリングやシミュレーション、データ解析や信号処理など、コンピュータ・サイエンスの様々な分野において多用される。本講義では、初等関数の微分、置換積分と部分積分などの微積分の初歩を学習した後、偏微分と全微分といった多変数関数の微積分を学ぶ。	
情報連携学 基盤教育	基盤科目	情報連携のための数学B	情報連携のための基礎となる数学知識を体系的に身につけることを目標とし、特に線型代数学の初歩について学ぶ。コンピュータ・サイエンスにおいて行列演算は基本的なツールの1つであり、身近なところではPCの画面描画はGPUによる高速な行列演算により実現されている。本講義では、行列とベクトルの演算、逆行列、固有値と固有ベクトル、対角化、線形結合などの概念を学習する。	
情報連携学 基盤教育	基盤科目	情報連携のための確率・統計学A	情報連携のためのデータサイエンスの基礎となる確率・統計学について、その初歩的な考え方と方法を身につけることを目標とする。本講義では、まず統計的な考え方の特徴を学び、情報連携におけるデータ分析の重要性を議論する。続いて、度数分布や記述統計の各指標を整理し、確率の概念や確率分布についての理解を深める。これらの理解のもとで、標本分布と統計的推論（推定、信頼区間など）の初歩に触れることを目指す。	
情報連携学 基盤教育	基盤科目	情報連携のための確率・統計学B	情報連携のためのデータサイエンスの基礎となる確率・統計学について、その初歩的な考え方と方法を身につけることを目標とする。本講義では、統計的推論の初歩に触れることを目指し、推定と仮説検定の考え方を学び、データに基づいた議論の枠組みを理解する。また、2変量の関係を見る相関分析の考え方や、各種グラフを用いることでデータに潜むパターンを見出す探索的データ解析の初歩についても学ぶ。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報連携学基盤教育	基盤科目	情報連携のための物理学A	情報連携のための基礎となる物理学知識として、特に古典的なニュートン力学について体系的に学ぶ。本講義では、まず運動の3法則を学び、運動方程式と微積分の関係を理解した上で、エネルギー保存則を学ぶ。また、等速度運動、等加速度運動、等速円運動、単振動運動といった基本的な運動について、その具体的な挙動を、現実世界での例とともに理解する。また、古典力学以外の量子力学と現在の情報通信技術との関係も紹介する。	
情報連携学基盤教育	基盤科目	情報連携のための物理学B	情報連携のための基礎、特にコンピュータ・サイエンスを支える電子回路や電磁波を理解するために必須となる物理学知識として、電磁気学の基礎を学ぶ。本講義では、主に次の3点を扱う。第1に、電場の概念を理解することを目的に、クーロンの法則とガウスの法則を学ぶ。第2に、直流、交流電流について学ぶ。第3にフレミングの法則、アンペールの法則、ローレンツ力を学び、電流と磁場の関係を理解する。	
情報連携学基盤教育	分野別科目	情報連携ビジネス概論	(概要) 情報連携ビジネス概論では、ビジネス・インキュベーション研究分野と、データ・サイエンス研究分野の概論を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (18 富田亜紀・2 中村周吾/1回) (共同) ガイダンス (18 富田亜紀/7回) ビジネス・インキュベーション研究分野は、アイデア自体ではなくそれをお金に変えるビジネスモデルの構築について研究することを踏まえ、学生が自分の専門性を見極めることを支援するために、会計論（ビジネスを金額で表現する）、経営論（ビジネス・インキュベーションの方法）、消費者行動とマーケティング論（消費者を振り向かせ、顧客を創造する）、知的財産権論（アイデアやデザインの法律上の権利化）の入門的な内容を取り扱う。 (2 中村周吾/7回) 情報連携の重要な一分野であるデータ・サイエンスが目指すところやその内容について、研究と応用の実際例を示しながら初歩的な理解を得ることを目標とする。情報連携ビジネスという視点から、ビッグデータ、オープンデータ、データ可視化、データ・マイニング、ウェブ・マイニング、人工知能など多岐に渡るテーマを概観し、データ・サイエンスの基礎を学習する。	オムニバス方式・共同 (一部)
情報連携学基盤教育	分野別科目	情報連携シビルシステム概論	都市及び地域の計画の基本的な考え方を学ぶと共に、日本が直面している人口減少問題と高齢化の中で質の高い居住を可能にするために、衣食住の質の向上、日常利便性、健康・医療サービス、教育サービス、安全と安心の保障、社会的な交流と文化的な活動の促進などについて学ぶ。とりわけ、実際の社会のコミュニティの中でそれらを提供する際の基本的な要件と課題について理解する。さらに、情報技術が都市の解析、都市活動の維持に果たす役割に関する基礎を学ぶ。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報連携学 基盤教育	分野別科目	情報連携エンジニアリング 概論	(概要) 情報連携エンジニアリング概論では、コンピュータ・アーキテクチャ研究分野と、コンピュータ・ネットワーク研究分野の概論を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (1 坂村健・20 吉越健治/1回) (共同) ガイダンス (1 坂村健/7回) 情報通信技術のうち、情報を処理するコンピュータそのものを扱う技術を支えるコンピュータ・アーキテクチャ研究分野を概観する。ここでは、ハードウェアとしてのコンピュータ、それを仮想化するオペレーティングシステム、その上で実行されるソフトウェアという基本的な階層とその役割を俯瞰し、さらにソフトウェアを実現するためのプログラミング言語やアルゴリズムなどの役割を学ぶ。 (20 吉越健治/7回) 情報通信技術のうち、情報を処理するコンピュータをつなぐ技術を支えるコンピュータ・ネットワーク研究分野を概観する。ここでは、重要な社会インフラとなっているインターネットを中心に高度にネットワーク化した現代社会を、どのような要素技術が実現しているのかを俯瞰的に学ぶ。インターネットの基本的な仕組みのほか、無線ネットワーク技術、ネットワーク・セキュリティなどのトピックも紹介する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
情報連携学 基盤教育	分野別科目	情報連携デザイン概論	(概要) 情報連携デザイン概論では、デジタル・デザイン研究分野と、ユーザ・エクスペリエンス・デザイン研究分野の概論を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (8 中村光宏・11 神場知成/1回) (共同) ガイダンス (8 中村光宏/7回) デジタル・デザインの意義を理解するために、社会における商品企画から製品化に至るプロセスの中でのデザインの果たす役割を学ぶ。特にプロダクトデザイン、インタフェースデザイン、コミュニケーションデザインが、このプロセスにどのように関与するかを、具体的な事例を交えながら紹介する。 (11 神場知成/7回) コンピュータ・サイエンスにおけるユーザ・エクスペリエンス・デザインの変遷を、これまでのコンピュータの発展の歴史と照らし合わせながら概観する。また今日のユーザ・エクスペリエンス・デザイン分野の重要なトピックとして、拡張現実論、コンピュータ・グラフィックスといった研究分野や、Webデザインなどの実践的側面についても紹介する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
コミュニケーション 科目	必修コミュニケーション 科目	リスニング・スピーキング 演習Ⅰ (英語)	英語の基礎的な四技能のうち、リスニングとスピーキングのレベルアップに重点を置いた授業であり、特にITに関連する一般的な話題でのコミュニケーション能力の向上を目的としている。具体的には、英語を正確に聞き取る力・話す力を身につけるだけでなく、ディスカッションやプレゼンテーション等で必要とされる、相手の意図をくみ取る力や論理的な話し方、相手と協議をして結論を導き出すスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅱ（英語）	リスニング・スピーキング演習Ⅰを継承し発展させた内容で、特にITに関連するやや専門的な話題でのコミュニケーション能力の向上を目的としている。具体的には、ディスカッションやプレゼンテーション等で必要とされる、相手の意図をくみ取る力や論理的な話し方、相手と協議をして結論を導き出すスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅰ（英語）	英語の基礎的な四技能のうち、リーディングとライティングのレベルアップに重点を置いた授業であり、特に2年次以降、英語で行われる講義にも対応できるように、ITに関連する一般的なトピックを題材にした文章理解やアカデミックライティングの基礎的能力を養うことを目的としている。入念な事前学習を行ったうえで、授業ではトピックをより深く理解することを目標とする。また専門科目で文章を読み書きする際に必要とされる、専門分野で一般的に用いられる語彙や表現なども学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅱ（英語）	リーディング・ライティング演習Ⅰを継承し発展させた内容で、ITに関わるやや専門的なトピックを題材にした文章の読解力やアカデミックライティングスキルを向上させることを目的としている。入念な事前学習を行ったうえで、授業ではトピックをより深く理解することを目標とする。また専門科目で文章を読み書きする際に必要とされる、専門分野で一般的に用いられる語彙や表現なども学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅰ（日本語）	日本語をまったく、あるいは少ししか勉強したことのない学生を対象とする。初歩的な文法と「聴く」「話す」ことを中心に学習し、日常生活を支障なく送れる程度の日本語の習得を目指すとともに、アカデミック・ジャパニーズの基礎につながる授業内容とする。 なお、この授業科目は「演習」なので、「聴く」「話す」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅱ（日本語）	「リスニング・スピーキング演習Ⅰ（日本語）」の修了者を対象として開講する。日常生活の様々な場面において応用できる実用的な日本語表現能力を身に付けることを目標とする。また、講義を聴きとる力、プレゼンテーションをする技術の初歩を学ぶ。 なお、この授業科目は「演習」なので、アカデミックジャパニーズに関するスキルを修得するのに役立ついろいろなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅰ（日本語）	日本語をまったく、あるいは少ししか勉強したことのない学生を対象とする。かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な作文を学ぶ。「読む」「書く」ことを中心に学習し、日常生活を支障なく送れる程度の日本語の習得を目指し、アカデミック・ジャパニーズの基礎につながる授業内容とする。 なお、この授業科目は「演習」なので、「読む」「書く」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅱ（日本語）	「リーディング・ライティング演習Ⅰ（日本語）」の修了者を対象として開講する。基礎的な語彙・文型・表現を学習しながら、日常生活の様々な場面において応用できる実用的な日本語表現能力を身に付けることを目標とする。また、講義資料を読む力、レポートを書く技術の初歩を学ぶ。 なお、この授業科目は「演習」なので、「読む」「書く」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅲ（英語）	1年次の英語科目を発展させた内容で、総合的な英語力のレベルアップを目的とした授業であるが、特にITに関連するトピックでの実践的なコミュニケーション能力を養うことを目的としている。具体的には英語を正確に聞き取る力・話す力を身につけるだけでなく、その内容について自分の考えを述べたり、相手と協議をしたりするスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」で、グループワークやディスカッションが中心となるため、学生は授業に積極的に参加し、英語を使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅳ（英語）	リスニング・スピーキング演習Ⅲを継承した内容で、総合的な英語力のレベルアップを目的とした授業であるが、特にITに関わるトピックでの実践的なコミュニケーション能力を養うことを目的としている。具体的には英語を正確に聞き取る力・話す力を身につけるだけでなく、その内容について自分の考えを述べたり、相手と協議をしたりするスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」で、グループワークやディスカッションが中心となるため、学生は授業に積極的に参加し、英語を使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅲ（英語）	1年次の英語科目を発展させた内容で、卒業後のビジネスの世界で役立つ実用的・実践的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、ITビジネスに関連するトピックについて、読解する力や文章を書く力を養うことを目標としており、トピックに関するリサーチを行い、その内容を自分の言葉でまとめたり、自分の考えを記述したりするスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅳ（英語）	リーディング・ライティング演習Ⅲを継承した内容で、卒業後のビジネスの世界で役立つ実用的・実践的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、ITビジネスに関連するトピックについて、読解する力や文章を書く力を養うことを目標としており、トピックに関するリサーチを行い、自分の考えを記述したりするスキルを学んでもらう。 なお、この授業科目は「演習」なので、学生は事前学習に取り組み、授業では英語を積極的に使用することが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅲ（日本語）	講義を聴きとる力、プレゼンテーションをする技術について、初歩的な能力が身についているのかを確認した後、音声教材を利用しながら「聴く」力を高めるとともに、受講者がプレゼンテーションを実際に行うことにより、実践的な日本語運用能力を身に付ける授業とする。 なお、この授業科目は「演習」なので、「聴く」「話す」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リスニング・スピーキング演習Ⅳ（日本語）	「リスニング・スピーキング演習Ⅲ（日本語）」に接続する授業科目である。「聴く」「話す」それぞれの力の一層の伸展を図る。この授業科目の修了により「聴く」「話す」についてより上のレベルの日本語能力を身につける。 なお、この授業科目は「演習」なので、「聴く」「話す」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅲ（日本語）	講義資料を読む力、レポートを書く技術について、初歩的な能力が身につけているのかを確認する。その後、より上のレベルの長い文章を読み、その内容を確実に読みとる読解力を身に付け、さらに自らが理解した内容を的確に言語表現できることを目標とする。 なお、この授業科目は「演習」なので、「読む」「書く」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
コミュニケーション科目	選択コミュニケーション科目	リーディング・ライティング演習Ⅳ（日本語）	「リーディング・ライティング演習Ⅲ（日本語）」に接続する授業科目である。「読む」「書く」それぞれの力の一層の伸展を図る。この授業科目の修了により「読む」「書く」については、より上のレベルの日本語能力を身に着ける。 なお、この授業科目は「演習」なので、「読む」「書く」ことに関するタスクやさまざまなテーマについての事前調査、クラスでのディスカッション及びまとめを受講者が積極的に行うことが求められる。	
専門科目	情報連携基礎科目	コンピュータシステム概論Ⅰ	コンピュータは、ハードウェアやソフトウェアが階層に分かれ、互いに連携して動作している。それがアプリケーションの開発のしやすさ、高速処理、信頼性など様々な利点に繋がっている。本講義ではコンピュータが問題を高速に処理する仕組みの基本概念を学ぶ。コンピュータを活用する分野で今後様々な構成要素を設計する際に、その他の構成要素を知り、それらをどのように活用し、また自分自身がどのような機能をサポートすべきか、考える上で必要な基本的な知識の習得を目標とする。	
専門科目	情報連携基礎科目	コンピュータシステム概論Ⅱ	世の中でコンピュータが扱うデータ量が増え続けている。扱うデータ量が2倍、3倍と増えるとき、データの処理速度も同様に増えるようにシステムを設計すべきである。本講義ではコンピュータの並列処理と性能評価の基本概念を学ぶ。今後コンピュータの構成要素を設計する際には並列性の活用は避けて通れない。コンピュータシステムでよく知られる様々な形態の並列処理、並列処理できることとできないことの区別、目の前のシステムの動作の効率を改善すべきか判断する手法の習得を目標とする。	
専門科目	情報連携基礎科目	ソフトウェア開発概論Ⅰ	コンピュータの性能向上とともに、多岐にわたる分野においてコンピュータの利用が欠かせなくなった。コンピュータに計算をさせるために、何をどのように計算したら望む結果が得られるのかを考え、計算の段取りをプログラミング言語で具体的に記述する。本講義ではアルゴリズム、プログラミング言語、データ構造などソフトウェア開発の基本概念を学ぶ。コンピュータで解くべき課題を目の前にしたとき、これらの基本概念をどのように活用すればソフトウェアができるかについての理解を目標とする。	

授業科目の概要				
(情報連携学部 情報連携学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携基礎科目	ソフトウェア開発概論Ⅱ	コンピュータの様々な利用分野におけるデータの形態は、単純な数値や文字列を基本に、構造をもった人間が理解しやすいものとなっている。1つのデータの中に別の複数のデータを埋め込んだり、別々のデータの間にそれらを関連付けるリンクをつけるなど様々な形態がある。本講義ではそうしたデータ形態とその記述方法を学ぶ。計算課題に適切なデータ形態の選び方やプログラミング言語で提供される標準的データ型の活用を中心に、正しく動作するプログラムの効率よい開発についての理解を目標とする。	
専門科目	情報連携基礎科目	コンピュータ社会概論	情報通信技術が普及した現代社会における、基本的な倫理と道徳を学ぶ。具体的には、インターネットが遍在化した世界における、セキュリティやプライバシーに関する様々な技術と課題、オープンソース等とも密接に関連するデジタル著作権に関する現状を、それぞれ事例とともに学び、情報通信技術が普及した現代社会でどのように振る舞えばよいのか、基本的な素養を身につける。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野 会計論Ⅰ	会計論Ⅰでは財務会計論（基礎）と原価計算を学習する。財務会計論は、株主や債権者といった企業の利害関係者に対して経営成績や財務状態を報告するための財務諸表（損益計算書や貸借対照表等）の考え方や財務諸表を作成するための規則である会計基準を取り扱う。原価計算は、経営管理のために企業内部で材料、仕掛品及び製品などの棚卸資産評価並びに製品に関する売上原価の計算を行うものである。財務会計論については、トライアングル体制や企業会計原則、資産・負債・収益・費用会計の基礎的な事項について学習する。原価計算については、原価の意義、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算等について学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野 経営論Ⅰ	経営論Ⅰでは、マネジメントの基本的なフレームワークとビジネス・インキュベーションの代表的な方法論を学習する。ビジネス・インキュベーションの方法論として、米国General Electric社も導入している「リーン・スタートアップ」（エリック・リース）を学習する。“The Lean Startup: How Today's Entrepreneurs Use Continuous Innovation to Create Radically Successful Businesses”（Eric Ries, 2011）に基づき、「顧客開発」「顧客実証」「顧客開拓」「組織構築」の4つのステップ、仮説検証サイクル「構築・計測・学習」、実用最小限の製品（MVP）、軌道修正（Pivot）、革新会計（Innovation Accounting）といった概念を、マネジメントの基本的なフレームワーク（Planning, Structuring, Controlling, Leading）を踏まえて学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野 統計とデータ分析Ⅰ	情報連携の基礎となる統計データ分析について、その理論と応用をⅠ、Ⅱのシリーズで講義する。同シリーズの前半となる講義Ⅰでは、記述統計の各指標や確率分布の復習を経た後に、母集団と標本（サンプリング）の概念を整理し、各種標本分布の解説をおこなう。その後、統計的推論の議論に進み、推定概念と手法について理解を深める。また、2変量の間接関係を扱う方法としての相関分析、回帰分析についても解説する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野 会計論Ⅱ	会計論Ⅱでは財務会計論（上級）と管理会計論を学習する。管理会計は経営者が資金をその事業に投下して効率的に運用するための財務情報を経営者に提供するためのものである。財務会計論（上級）については、資産・負債・収益・費用会計（上級）、連結財務諸表、国際財務報告基準（IFRS）について学習する。管理会計論については、CVP分析、予算管理、原価企画、差額原価収益分析、設備投資の経済性計算等について学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野 経営論Ⅱ	経営論Ⅱでは財務分析とコーポレート・ファイナンスの基礎について学習する。財務分析とは、企業の実態を明らかにするために、企業の財務情報に基づいて、収益性や安全性、生産性、成長性等を分析することである。コーポレート・ファイナンスとは投資家の視点で企業価値を向上させることである。経営論Ⅱでは、株主や債権者の視点を理解することを目指して、複利計算と時間価値、DCF法と現在価値、資本コスト、CAPM、NPV法、MM理論等コーポレート・ファイナンスの基礎を学習する。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	統計とデータ分析Ⅱ	統計データ分析の理論と応用を講義するシリーズの後半である講義Ⅱでは、統計的推論における仮説検定の概念と各手法を議論する。具体的には、検定の考え方および検出力の概念を説明した後に、平均に関する検定、平均の差に関する検定、相関係数に関する検定、線形回帰に関する検定についての解説をおこなう。また、適合度に関する検定などノンパラメトリック検定の手法についても解説する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	経営論Ⅲ	ピーター・ドラッカーが「事業とは顧客の創造である」と指摘しているように、ビジネス・インキューベーションにおいてマーケティングは極めて重要な役割を担っている。本講義では、マーケティング論と消費者行動論、消費者行動論のマーケティングへの応用について学習する。マーケティング論としては、“Marketing Management”(P. Kotler and K. Keller, 2015)に基づき、マーケティングの概念、マーケティング戦略(調査、セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング、マーケティング・ミックス、実施、管理)、CRM、顧客エンゲージメント、ブランディング、ネットマーケティング等ICT技術のマーケティングへの応用等を取り扱う。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	データ・マイニング論	大量に入手可能なデジタルデータからビジネスに有用な知見を見出す方法としてのデータ・マイニングについて、データベース構築やマーケティング・リサーチとの関連からその歴史と意義を概観するとともに、様々な分析手法を解説する。とくに、探索的データ解析という視点から、主成分分析、クラスター分析、アソシエーション分析、決定木分析などの議論をおこなう。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	人工知能	本講義は、人工知能の基礎と応用について、ビジネスへの応用という視点から、そのアルゴリズムおよび解析手法を概観する。たとえば、履歴情報にもとづく推薦システムの構築を目指した協調フィルタリングの概念や、インターネットやSNSに溢れる大量のデータから有用な情報を見つけ出すウェブ・マイニングの考え方を議論し、遺伝的アルゴリズムや機械学習などの理論を解説する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ディープ・ラーニング	本講義では、画像認識・音声認識の分野への応用をはじめとして、新たな人工知能として注目を集めているディープ・ラーニングについて、その歴史と応用を議論するとともに、その基礎となる手法の概観をおこなう。とくに、ニューラルネットワークや機械学習の理論と手法について、ベイズ推定やマルコフモデルなどととも解説する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	知的財産権論	アイデアや創作物は競争優位の源泉となるよう、知的財産として保護することが求められる。知的財産権論では、知的財産に関する基礎知識、その創出(権利化なども含む)、管理、活用などについて学習する。特許法、意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法を中心に、知的財産関連の条約なども扱う。技術保護、ブランド保護、コンテンツ保護、デザイン保護とそれらの活用に関する知的財産戦略、知的財産に関する国際的な争いなどを中心に議論をしていく。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ビックデータ解析	ネットワークやクラウド・コンピューティング環境の整備、および各種センサ・モニタリング技術の発展により、詳細で多様なデータが大量かつリアルタイムに取得可能となっている。これらのデータから必要な情報を選別し、ビジネスに有効利用するための解析手法について議論する。機械学習、言語処理、ニューラルネットワーク、可視化、多変量解析などテーマは多岐に渡る。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ビジネス・インキュベーション論Ⅰ	ビジネス・インキュベーション論Ⅰでは会計論Ⅰ・ⅡについてICT分野のスタートアップ企業であることを前提として発展的な内容を学習する。例えば、「研究開発費等に係る会計基準」等ソフトウェアに関する会計処理や、ソフトウェア開発における収益の認識、バランス・スコアカードにおける内部ビジネス・プロセスに関する指標等が挙げられる。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ビジネス・インキュベーション論Ⅱ	ビジネス・インキュベーション論Ⅱでは経営論Ⅰ・ⅡについてICT分野のスタートアップ企業であることを前提として発展的な内容を学習する。例えば、ICT分野のビジネス・インキュベーションの実際の事例について、「顧客開発」「顧客実証」「顧客開拓」「組織構築」の4つのステップがどのように行われたのかを確認する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ビジネス・インキュベーション論Ⅲ	ビジネス・インキュベーション論Ⅲでは「経営論Ⅲ」についてICT分野のスタートアップ企業であることを前提として発展的な内容を学習する。例えば、多くのチャレンジを繰り返すためには情報連携ビジネスのためのエコシステムの形成が不可欠であろう。そこで、「顧客開発」「顧客実証」「顧客開拓」「組織構築」の4つのステップのためのプラットフォームの構築について学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	ビジネス・インキュベーション論Ⅳ	ビジネス・インキュベーション論Ⅳでは「知的財産権論」についてICT分野におけるスタートアップ企業であることを前提として発展的な内容を学習する。例えば、マッシュアップにより実現したサービスに関するアイデアの特許化や、デザインについての意匠権取得について学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	データ・サイエンス論Ⅰ	本講義では、近年、技術革新により爆発的にデータが増大し、IT企業が次々参入するなど新たなビジネス分野を生み出している生命科学データについて、その情報学的な解析手法の基礎を学習する。膨大なデータが生成されている背景、構築されている多種多様なデータベース、そこからのデータ抽出手法を概説する。また、相同性解析、統計的手法・機械学習法の応用による解析など、ゲノム塩基配列、アミノ酸配列の解析手法の基礎を解説・議論する。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	データ・サイエンス論Ⅱ	本講義は、爆発的に増大しているウェブ上の情報を取得・解析して、有用なデータを取り出すための方法の基礎を学習する。形態素解析、ステミング、重み付け法などを用いた文書集合からのキーワード抽出、構文・照応解析などの、自然言語処理の原理とその応用を解説・議論する。また、機械学習法をベースとしたウェブデータの分類・予測手法の実例や、ウェブ上の情報の可視化法についても学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	データ・サイエンス論Ⅲ	本講義では、機械学習の理論と手法について、テキスト処理や言語学習などの応用分野を念頭に、基礎的な確率・統計の概念、クラスタリング分析、確率過程モデルなどを議論する。また、音声・画像認識などを目的としたデータ処理の技法や、人工知能・ディープラーニングとの関連に関する発展的課題も扱う。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	ビジネス分野	データ・サイエンス論Ⅳ	本講義では、オープンシステムや分散コンピューティングなど、情報処理に関する最新的话题を概観する。また、ユビキタスコンピューティングやセンサネットワークによるリアルタイムでの状況認識に焦点を当て、基本的な技法や将来の課題と展望についても議論をおこなう。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	環境科学と政策	環境に関する学問を、理工学的側面と人文社会科学的な側面の両者から取り上げて学ぶ。大気や水の汚染等の従来型の公害問題、廃棄物、資源消費問題の理論的基礎と、対策技術を学ぶ。また環境政策としての、環境基本計画の立案、環境影響評価、直接的な排出規制、環境税などの環境経済的な手法の適用、気候変動や生物多様性に関わる国際的な環境政策の枠組み、企業の環境監査、環境教育などを学ぶ。これらの講義を通じて、環境分野の基本的な態度を身につける事を目標とする。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	建築デザイン	住宅、オフィスなどの建築物が果たすべき役割、形成される建築空間について理論を学ぶと共に、目的が異なる各種の建築の設計に必要な事項についてその実際、建築基準法をはじめとした法制度を学ぶ。人間の知覚、行動と建築物の設計、情報技術による快適な環境の創出、省エネルギーの達成、などの高度な管理についても学ぶ。情報技術を生かしたビルエネルギー管理システム、住宅エネルギー管理システムについても学ぶ。これらを通じて建築の設計の基本的な考え方を習得する。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	インフラマネジメント	上下水道、道路、橋梁、トンネル、堤防などのインフラは、社会の安全・安心を維持するための基盤的な施設であるものの、それぞれの構造物によって設計の基本的な理念が異なる。まず、これらの各種のインフラについて、力学を含む基礎的な理論と構造物の施工、特性を理解し、その継続的な維持管理のための情報技術の活用について学ぶ。土木工学の基本的な設計理念と施工、維持管理技術を理解し、身につけ、それによって実際のこれらのインフラに関わる問題の解決への力をつけることが目標である。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	エネルギーと環境インフラ	エネルギー供給側としての系統電力、太陽光発電、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギー、エネルギー需要側としての家庭での照明、冷暖房、家電機器による電力消費に対して、基本的な特性を理解する。ついで、これらの供給と需要を、情報技術を用いて住宅単位、地区単位、あるいは地域単位で最適化する、スマート化について、その技法と効果を学ぶ。環境については、観測、改善技術を学び、その合理的な管理の方法を理解する。これらの基盤施設の基本的な考え方を理解することに目標を置く。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	産業エコロジー	かつて環境問題を引き起こしていた企業の、環境に対する取り組みは大きく変化した。環境への負荷を低減させた企業活動が、あらゆる業種で求められており、それによって社会全体に貢献し、それによって人びとの生活の質を高めることがめざされている。情報技術を活用したサプライチェーンマネジメント、ライフサイクルアセスメント、情報技術による物質や物流の代替など、環境負荷を低減させるための企業の取り組みを学び、そのために必要な情報とその管理について理解を深める。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	都市・地域マネジメント	国土全体の道路ネットワークなどのインフラの総合的な計画、都市及び地域の土地利用の基本計画とマスタープラン、都市計画の歴史及び基本的な理念と制度への展開、都市部における再開発事業などを、世界各地の例を含めながら学ぶ。一方、国あるいは地域が持つ経済的な競争力の維持、さらに、コンパクトシティなどの近年の政策、情報技術を活用したスマートシティの形成など、今日的な動向についても理解を深め、国土および都市計画分野への応用の基本を身につける。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	地理情報システム	人工衛星観測に基づくリモートセンシング情報、建築物情報に基づく情報、スマートフォンなどに基づく人々の行動に関するリアルタイム情報など、多様な情報を地理情報システムとして統合化し、それを都市の長期的な設計、日常的な管理、更に人びとの日常生活に活用するための基礎的な方法から応用による効果までを学ぶ。情報に基づく地理情報システムの作成面と、生活の質の向上を可能にするその利用面の両方の観点から、実際の場への応用を中心にしながら学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	社会資本経営	多額の資金が投入され、人間の活動を支えるために建設された道路、上下水道、建築物など建設された施設は社会が持つ資本であり、健全な姿で次の世代に引き継いでいくことが求められる。しかし、適切な維持を行わなければこれらの施設は劣化し、資本の減耗を招く。長期にわたってこの社会資本を健全な姿で維持するために必要な、建設時の費用便益分析、さまざまなインフラ施設のストックマネジメント、資金計画をはじめとした経営的な手法を学び、安全、安心、資産のバランスを考える重要性を理解する。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	ユビキタスネットワークと生活	人口減少、高齢化とともに、温室効果ガスをはじめとした環境負荷の大幅な低減が求められている。このような社会の中において、ユビキタスネットワークを構成し、活用することによって、人びとの生活の質を高めつつも物質の消費を低減させる方策について学ぶ。年齢、性別、家族構成が異なる多様な人びとの生活を支えるためのユビキタス技術の応用とその効果を学ぶ。これによって、実社会への情報通信技術の応用の際の基本的な問題を人間の生活の立場から理解することを目標とする。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	ライフラインマネジメント	平常時及び災害時のライフラインの確保について学ぶ。電力、上下水道、情報のネットワークは今日の人間活動の基盤となっている。これらのライフラインについて、それぞれの目的、特性に相違があり、設計の思想が異なる。まず、これらそれぞれの基本的な考え方を理解した上で、都市や地域における統合的な管理について学ぶ。一方、平常時とは別に、これらのライフラインの災害時の確保についても、実例を含めて学ぶ。これらの知識を用いて情報通信技術による管理のあり方について理解を深める。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	交通と情報マネジメント	現代の人間の活動を支える交通はその管理によって、効率性、快適性、環境への負荷が大きく異なる。自動車と鉄道を中心にこれらの計画論について学ぶ。自動車交通に関する交通需要の推定、都市交通計画と管理計画について学び、LRTなどの軌道系の計画についても学ぶ。情報技術の応用が進み、今後の発展が期待される、交通需要に基づく自動車交通流の制御、交通制御デバイス、鉄道部門における情報管理システムについても学ぶ。これらを通じて、交通流の原理、インフラ、情報デバイスとシステムについて理解することが目標である。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	持続可能社会と情報マネジメント	環境、社会、経済という3側面を中心とした持続可能性に関して、さまざまな指標の面から評価する。とりわけライフサイクル思考によって全体として環境負荷を評価しつつ高い質の生活を可能にするようなライフスタイルについて学ぶ。ついで、このようなライフスタイルの質を高め、環境負荷を低下させるような情報機器と情報の管理について学生自らが考え、理解する。個別要素に分割せず、全体として事象をとらえる方法論を身につけることが重要な目的である。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	インフラ・サービス論Ⅰ	さまざまな構造物の建設・廃棄および人間活動に伴う資源消費と循環利用に関して、資源循環の観点から学ぶ。個別要素として、建設におけるリサイクルと再生材の利用、都市における水の再利用、などを含む。この学習を通じて、循環型社会における建設物とその運用のあり方を学ぶ。ついで、このような循環を促進するための情報通信技術やビッグデータの活用についてもその可能性を学ぶ。これらを通して、現代社会の趨勢である循環型社会の促進に向けた情報の活用についての基本と応用力を養う。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	インフラ・サービス論Ⅱ	住みやすく、産業競争力のある都市を形成するためには、道路、鉄道などの公共施設と商業施設や住宅などの民間建築とが調和した街づくりが必要である。こうした街づくりを行うためには、市民、関連業者、公共団体等の合意の上での将来像を描くことが必要である。この将来像を実現するために街づくりを行うための資金計画を作成した上で、適切な事業者を選定することも必要になってくる。本講義では、街づくりを行うにあたっての、合意形成や資金計画作成にあたっての基本的考え方と、それらを支援するためのICT技術の活用方策について学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	インフラ・サービス論Ⅲ	情報通信技術を最大限に生かし知的活動を高めるためのオフィスおよび住宅の室内空間および建築物の設計について、新たな考え方と実際の設計について学ぶ。また今後高齢社会の中で導入が期待されるロボットと共生する生活空間デザインについても学ぶ。これらを通じて、情報と連携した建築空間の先進的な設計について理解する。その応用として、情報学と連携した総合的なデザイン力を身につけ、実社会におけるさまざまな建築空間の問題に対処する能力を身につける。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	インフラ・サービス論Ⅳ	情報通信技術の発達により変化する、陸・海・空の国内外の物流および人流の解析と、それらの結節点となる駅・港・空港・内陸輸送ターミナル間のネットワークの設計の基本的な考え方と戦略について学ぶ。システムとしてのネットワーク設計と施設としての駅・港・空港・内陸輸送ターミナルの設計の両者を対象とする。また、それらの運用におけるビッグデータの活用に関して学ぶ。これらを通じて情報と物資の輸送の間の相互関連、あるいは情報によって物資が置き換わる代替効果を学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅰ	成熟社会において量の成長よりも重視されるクオリティ・オブ・ライフ (QOL) を理解し、ビジネス (ソーシャルビジネスを含む) との関連を学ぶ。とりわけ、QOLが持つ、健康、快適性、利便性、社会とのつながりなどの多様な要素を理解する。また手法として、社会調査、統計解析によるQOLのマーケットリサーチ、具体例として生活、環境、交通、医療等におけるQOLを学ぶ。さらに情報通信技術によるQOLの向上効果とそれを可能にするしくみについて理解を深め、自ら考える力を養う。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅱ	人工衛星から得られる情報は、自然現象としては天気予報への活用、日常生活の中ではGPSの利用として普及しているが、さらに応用の可能性は広い。個人や地域社会のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) の向上につなげる方策や、これらの情報を取得し管理するためのシステムを構築する方法について学ぶ。さらに、それを個人情報の管理との兼ね合いに配慮しながら、個人のQOLに反映し、個々の行動に繋げ、行政判断などに生かすための道筋を示し、自ら考える力をつける。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅲ	今日の社会にとって重要度が高まっている社会的な絆とも言えるソーシャル・キャピタルについて、その基本的な内容を学ぶ。その応用として、都市環境管理において市民のソーシャル・キャピタルを活用し、市民が参加するしくみをどのように形成していくか、その際にインターネットなどの情報基盤をどのように活用していくかを検討する。具体的な対象としては、都市における廃棄物問題や温暖化問題などを取り上げ、平時及び災害時のQOL向上に向けたソーシャル・キャピタルの役割を学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	シビルシステム分野	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅳ	人々に求められる環境配慮行動の推進と、安全性・快適性・利便性など生活の質の維持・向上について考えていく。その際、持続可能な社会に向け、ライフサイクル思考や情報技術などを活用しつつ、個人と地球環境問題との関わりを幅広い視野で考え、QOLに関わる市民のライフスタイルのあり方や意思決定、行動決定のあり方について学ぶ。これらの学習に当たっては実際の題材を取り上げ、多面的な議論を行うことによって、課題が持つ複雑性を理解し、多様な解が存在することを体験的に理解する。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・アーキテクチャ	狭義のコンピュータ・アーキテクチャ、すなわち論理回路によるコンピュータの構成方法について学ぶ。ここでは、ノイマン型コンピュータと言われるコンピュータの基本的な構成方法に加え、RISCとCISC、パイプライン処理、記憶階層といったコンピュータ・アーキテクチャの理解に重要となる概念を習得する。また、ARMをはじめとした、現在広く使われているコンピュータ・アーキテクチャも紹介する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	プログラミング言語 I	実社会では、様々なプログラミング言語が用いられている。本講義では、このようなプログラミング言語そのものについての理解を深める。ここでは、関数型言語、手続き型言語、論理型言語といった典型的な言語モデルや、オブジェクト指向、イベント駆動プログラミングなどをはじめとしたプログラミング言語における重要な概念について、具体的な言語を紹介しながら、実践的に理解する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	情報数学	コンピュータ・サイエンスでは、コンピュータの性質上、実世界の連続的な事象を離散的にモデル化して扱うことが求められる。このようなコンピュータ・サイエンスの特徴的な要件を扱うために必要となる数学理論を学ぶ。具体的には、集合理論、記述論理、グラフ理論、情報理論などを学び、他の応用科目の理論的な裏付けを理解するための基礎知識を身につける。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク I	本講義ではコンピュータ・ネットワークの理論について特にアプリケーションから近い階層を学ぶ。ここではOSI参照モデルの7階層の考え方をはじめ、現代の重要な社会インフラとなっているインターネットに焦点を絞って学習する。本講義では特に上位階層のアプリケーション層のプロトコルやTCP、UDPなどのトランスポート層について実践的に学習する。また、Firewallなどのネットワーク・セキュリティ技術についても紹介する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	プログラミング言語 II	本講義では、様々な言語をコンピュータが理解可能な形式に変換するコンパイラの構成法について、およびインタプリタの構成法について小規模なコンパイラ、インタプリタの実装を紹介しながら実践的に学ぶ。さらにプログラム実行時のメモリレイアウトや、ヒープメモリの割り当てやガベージコレクションなどのメモリ管理手法、プログラムの並列化と同期処理のような、実用的なプログラムを作成する際に必須な知識も学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	アルゴリズムとデータ構造 I	本講義では、コンピュータ・サイエンスで扱う古典的なデータ構造とアルゴリズムとそれらを定量的に評価するための基礎知識について学ぶ。具体的にはスタック、キュー、木構造、グラフなどをはじめとした代表的なデータ構造とその特性を身につけ、さらにソーティング、二分探索などの代表的なアルゴリズムを学習する。さらに、計算の難しさを定量的に扱うための計算量の定義と複雑性クラスの定義について学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク II	本講義ではOSI7階層の下位であるネットワーク層やデータリンク層、物理層について学習する。CDMAやCSMA/CDというような通信プロトコルや、パケットのルーティングや転送、ARP、ルータ、スイッチ、無線LANなどの基礎知識に加えて、銅線、光ファイバのようなハードウェアレベルの技術とIPv6やIoT時代を支える無線ネットワーク技術など先進的な技術についても紹介する。さらに、輻輳制御やP2P、CDN、ネットワークの公平性など実践的な内容についても紹介する。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	ソフトウェア・エンジニアリング	プログラミング言語を活用して、実際に実用的なソフトウェアを構築するための方法論を身につける。ここでは、ウォータフォール、スパイラル、アジャイルといったプログラム開発の手法を学ぶほか、頻出するプログラミング手法を纏めたデザイン・パターンなどを身につける。さらに、プロジェクト管理やテストの手法などについても学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	本講義では、ヒープ、ダイクストラ法やA*アルゴリズムといった最短経路探索アルゴリズム、スパニングツリー、正規表現や最長一致法、パターン認識アルゴリズムというようなデータ構造Iよりも高度なアルゴリズムとデータ構造について学習する。さらにベジアンフィルタやSupport Vector Machineというような実社会で利用されている統計的手法についても学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	オペレーティング・システム	多くのコンピュータ・システムでは、ソフトウェアはオペレーティング・システム上で実行される。本講義では、ハードウェアの抽象化という、オペレーティング・システムの基本概念を学んだ上で、スケジューリング、メモリ管理、入出力管理、ファイルシステムといった、オペレーティング・システムの重要な機能について、具体的に学習する。また仮想化技術や、組み込みシステムで活用されるリアルタイムOSなどのトピックについても学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	データベース	多くのコンピュータ・システムでは、データベースを用いて高度に抽象化、効率化されたデータ管理が行われる。本講義では、まず広く利用されている関係データベースをターゲットに、データのモデリング、インデクシング、クエリー処理、トランザクション処理について学習する。また、近年注目を集めるNoSQLと呼ばれるような関係データベース以外のデータベースの動向についても紹介する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・システム	今日のコンピュータ・システムは、ハードウェアの上にOSを載せ、さらにアプリケーションを載せたコンピュータが複数台で協調的に動作している。本講義では、ハードウェアからソフトウェアまで一貫して学習することで、各専門科目で学習したコンピュータの知識を体系的に整理する。さらに並列計算、分散コンピューティングといった複数のコンピュータの協調動作に関する話題や、クラウド・コンピューティングに関しても学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅰ	本講義では、現在IoTとよばれる超機能分散型の実世界志向のコンピュータシステムについて、その歴史から現代にいたるまでの流れ、さらには世界的な動向や制度設計、最先端の研究内容までを含めた俯瞰的な内容を扱う。特に、一貫した哲学のもと30年間IoTを先導してきたプロジェクトの一つであるTRONプロジェクトを中心に、リアルタイムOSといった要素技術から法制度を含む社会全体の設計に至るまでの全容を学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅱ	位置情報サービスは、現在広く利用されている情報サービスの1つである。特にIoT技術の進展は、屋外に限らず屋内などにも、このようなサービスを広げつつある。本講義では、広く使われているGPSを補完する様々な測位手法について、それらの利害得失とともに体系的に解説する。また、歩行者ナビゲーションや障害物移動支援などの位置情報サービスの応用についても、その事例や背景にある技術とともに紹介する。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅲ	身の回りに存在する家電や電子機器をはじめとする組み込み機器においては、リアルタイム・オペレーティング・システム(RTOS)が幅広く用いられている。本講義では、RTOSの特徴やその仕組み、スケジューリング理論についての理論的な側面を踏まえ、RTOSを用いた組み込みシステム開発の設計法・開発法などの実践的なRTOSに関する項目について学習する。講義の終盤では、最新の研究成果等についても紹介する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅳ	コンピュータ・アーキテクチャとは各々のコンピュータでハードウェアがソフトウェアをどのように実行するかを設計したもので、コンピュータの機能や性能、消費電力、コストなどの特性を決める基本となる。それ故に、アーキテクチャとハードウェア技術、中でも半導体技術は互いに連携してコンピュータの発展を支えている。本講義では、半導体技術の進歩がどのようなアーキテクチャを可能にし、コンピュータの特性がどのように改善されてきたのかを具体例で紹介するとともに、IoT時代のアーキテクチャに影響を与える新たな技術についても検討、議論する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク論Ⅰ	IoTの実現にあたって、すべての機器を有線で接続することは現実でないことから、電力制約や通信距離などのさまざまな要件に基づく無線技術が重要である。本講義では、センサーネットワークをはじめとする通信や、その他の通信技術(可視光通信など)についてを学ぶ。具体的な内容としては、6LoWPAN (IPv6 over low-power and lossy networks)やIEEE 802.15.4、Bluetooth Low Energyに加え、周波数帯ごとの特性などについてを学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク論Ⅱ	現代のインターネットの動作を変更したり、より柔軟な制御を行うための仕組みとしてSDN (software defined network)やオーバーレイネットワークが注目を集めている。さらに、IaaS、PaaS、SaaSといったプラットフォームのサービス化が進んでおり、高信頼に分散化されたインターネットシステムを構築できる環境などの技術革新も進んでいる。本講義では、SDNとオーバーレイネットワークを中心に学ぶと同時に、最新のインターネット技術の動向についても学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク論Ⅲ	近年の重要なクラウドシステムにおいては、世界中の多数のユーザーから利用されることで負荷分散やスケーラビリティの問題は避けては通れないものとなっている。本講義では、分散システムの構成法について理論・実践の両面から学ぶ。具体的な内容としては、MPI (multi-programming interface)をはじめとする古典的な内容から、HadoopをはじめとするMapReduce型の分散システムの構築について、さらにはCDN (content distribution network)における分散ハッシュなど、よりアプリケーションに近い内容を含む。	
専門科目	情報連携応用科目	エンジニアリング分野	コンピュータ・ネットワーク論Ⅳ	コンピュータが我々の生活に浸透するにつれて、コンピュータやネットワークのセキュリティの重要性はますます重要なものとなっている。本講義では、IoT時代に求められるネットワーク技術のセキュリティについて、その本質を具体的な例を含めて学ぶ。具体的な内容としては、攻撃手法(バッファオーバーフロー、Man-in-the-Middle、DoSなど)、それらに対する対策(認証、ファイアウォール、IDS、defensive programmingなど)について学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デザイン理論Ⅰ	本講義ではデザインの基礎を学ぶ。デザインの定義、デザインとアートの違いといった議論をベースに、色彩論、レイアウト論、タイポグラフィなどを通じ、デザインの7つの基本要素 (1.Line/線、2.Color/色、3.Shape/形、4.Space/空間、5.Form/フォーム、6.Value/明度、7.Texture/質感)、6つの基本原則 (1.Balance/バランス、2.Gradient/グラデーション、3.Repetition/反復、4.Contrast/コントラスト、5.Harmony/調和、6.Dominance/割合) を体験的に学習する。	

授業科目の概要					
(情報連携学部 情報連携学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅠ	本講義では、ユーザ・エクスペリエンス・デザインに関して、特にコンピュータ・サイエンスの観点から学習する。人とコンピュータの関わりは、コンピュータの成立以来現在に至るまで、常に大きなテーマとなってきた。黎明期のコンピュータのUI、パーソナル・コンピュータ普及期のCUIからGUIへの変遷、近年のモバイル、ウェアラブル、ユビキタスの文脈におけるUIなど、コンピューティング・パラダイムの変遷に伴い、人とコンピュータの関わりがどのように変わってきたかを学ぶ。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	コンピュータ支援設計Ⅰ	(概要) デザインの過程では、アイデアの具現化のためにスケッチが必要とされる。手で描いたスケッチも即時性という観点では必要だが、第3者にプレゼンテーションする場合は、より精緻化されたスケッチを求められる。本講義では、このような精緻化されたスケッチを実現するための、CADをはじめとしたコンピューターを使用したデザイン手法を学ぶ。具体的には、デザイナーが使用する基本ツール群の役割と、その基本操作について学習する。本講義はオムニバス形式で、最初にデザインツールの操作方法を学習した後、複数の教員によるデザイン課題に取り組む。 (オムニバス方式／全15回) (10 椋計人/7回) 2Dデザインツールの操作方法 (5 土屋雅義/4回) デザイン課題の提示と講評 (8 中村光宏/4回) デザイン課題の提示と講評	オムニバス方式
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デザイン理論Ⅱ	本講義では、機能の観点からのデザインを学ぶ。デザインには審美性だけでなく、優れた機能を兼ね備えていることが求められる。その機能を満たすために必要となる知識を学ぶ。具体的には、デザインによって生み出され商品が人と接しどう機能していくのかといった観点について、人間工学、デザイン材料、機械設計、機構学、などデザイン工学的な立場から学んでいく。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デザイン理論Ⅲ	本講義では、デザインのプロセスを学ぶ。デザインという行為が、全体的にどういったプロセスで構成されているのか、5つの基本フェーズ (1. Understand/理解、2. Observation/観察、3. Visualization/視覚化・具体化、4. Refine/改良、5. Implementation/実行) を学習しながら、思考と表現力を結びつけた実践的なトレーニングを行う。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅡ	人間と人工物の関わりを扱うユーザ・エクスペリエンス・デザインにおいては、人工物（製品、アプリ、情報サービス）を利用する人間の認知プロセスを理解することが重要となる。本講義では、ユーザ・エクスペリエンス・デザインに関して、このような人間の認知的側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、認知心理学の視点からのアフォーダンスの概念、人間による空間の認知に関する理論、実践的に人間と人工物の関わりを測定・評価する手法の基礎などについて学習する。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	WEBデザインⅠ	本講義では、HTML5を用いたWebサイトのデザイン手法を学ぶ。WebデザインⅡは、基礎的なスキルを身につけることを目的とし、文書の構造と表示方法が分離されるHTMLの記法を身につける。具体的には、HTMLによる情報のマークアップと、CSS(Cascading Style Sheets)によるスタイル付けについて、それぞれ実践的に身に付ける。	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス評価	人間と人工物の関わりであるユーザ・エクスペリエンスについて、様々な製品・アプリ・情報システムの利用に関する評価手法を体系的に学ぶ。まず、心理的実験とデータ収集の基礎を学び、評価の信頼性・妥当性の概念について議論する。また、ユーザ・エクスペリエンス評価のための質問紙作成・調査法やアンケート回答の質的データ分析について解説する。さらに、ユーザ・エクスペリエンス評価の実践について、地図、GIS、位置情報システムなどの利用を例に解説する。	

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	コンピュータ支援設計Ⅱ	コンピュータ支援設計Ⅰに引き続き、コンピュータを使用したデザイン手法を学ぶ。本講義では、特に3次元のデザインを実現する手法に焦点を当て、そのために必要となる基本ツール群の役割と、その基本操作について学習する。具体的には、3次元モデリング、3次元CADシステムといったソフトウェアツール群や、3Dプリンタなどの機器の基本操作について学習する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	WEBデザインⅡ	本講義では、WebデザインⅠに引き続き、HTML5を用いたWebサイトのデザイン手法を学ぶ。ここでは、より実践的なスキルを身につけることを目的とし、世の中で広く利用されているツールの利用方法を習得する。具体的には、スクリプト言語JavaScriptや、jQueryやBootstrapといったフレームワークを利用したWebサイトのデザイン手法、LESSによる動的なスタイル管理手法についても学習する。またタブレット、スマートフォン等さまざまな画面サイズに対応するためのレスポンシブ・デザインに対応するためのレスポンシブ・デザインなども扱う。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	コンピュータ・グラフィクス	本講義では、コンピュータを利用して画像を生成するコンピュータ・グラフィクスの理論と実践を学ぶ。ここでは、特に3次元CGを対象に、多面体や曲面によるモデリングの方法論や、隠面消去、シェーディング、テクスチャマッピングといったレンダリングにおける様々な処理の方法論を体系的に学習する。より実践的な議論として、GPUやOpenGLなどの3次元CGを実現するためのハード面、ソフト面の技術についても紹介する。また、自然現象をCGで扱うための方法論についても紹介する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	工業デザイン	(概要) 本講義では、工業デザインについて学ぶ。まず工業デザインが生まれてきた背景と歴史を学んだ後、現代社会の中で工業デザインに求められていることや工業デザインが果たす役割を学ぶ。また金型に関する知識や製造方法などといった、工業デザイナーに求められる実践的知識についても習得する。本講義はオムニバス形式で、教員がこれまで関わった事例紹介を交えながら進める。 (オムニバス方式／全15回) (5 土屋雅義/5回) 工業デザインの背景と歴史 (10 椋計人/5回) 現代社会における工業デザイン (8 中村光宏/5回) 工業デザイナーに求められる実践的知識	オムニバス方式	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デジタル・デザイン論Ⅰ	商品提案などの現場で自らのアイデアを理解してもらう上で映像を利用することでその理解度を深くすることが可能となる。映像制作時に必要な技術や作業を基礎から具体的なノウハウまでを学習する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デジタル・デザイン論Ⅱ	私たちが使う「モノ」。デザインという行為は「モノ」を使う「人間」との間に存在するストレスを減らすことでもある。人間工学は科学的に分析された理論に基づき「人間」のことを知る学問である。「人間」のことを考えてものを作るための考え方・方法をまとめたものが人間工学である。人間の生理的・心理的特性をもとに、人間にとっての使いやすさという観点から、もののあり方を学習し「人間」と「モノ」の調和を考え、人に優しい商品デザインを行うことを学習する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デジタル・デザイン論Ⅲ	サステナブルデザインは、地球環境との調和を図りつつ、社会の形や文化の質をリデザインして持続可能でかつ循環型の社会に近づけていくプロセスである。持続可能な社会を実現するためには、今後、技術イノベーション以上に社会イノベーションが求められる。言い換えると、サステナブルデザインは、社会そのものに働きかけるブランドデザインである。ここでは、現在の地球がおかれている環境について考え、環境配慮商品を例にとりながらサステナブル(持続可能)な社会を創り出すためにデザインが果たす役割について学習する。		

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	デジタル・デザイン論Ⅳ	主に住空間を中心にその空間に存在する家具、設備、照明、織物などの室内環境におけるプロダクトデザインを行う上で機能性や快適性にも配慮したデザインとは何か、室内環境全体にかかわる様々なデザインの知識を幅広い視野で学ぶことで人にとって居心地の良い空間とは何かを学習する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅰ	近年急速に普及したスマートフォンやタブレットのユーザ・インタフェースは、様々なセンサを備えている、タッチパネルを前提としている、表示範囲に制約があるといった特徴により、旧来のコンピュータシステムとは異なる進化を遂げている。本講義では、スマートフォンをはじめとしたモバイル端末、タブレット端末、ウェアラブル端末における、ユーザ・インタフェースの考え方を学ぶ。特にスマートフォン向けアプリのユーザ・インタフェース設計については、Android、iOS、WindowsそれぞれのUI設計の比較を交えながら、実践的に学ぶ。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅱ	本講義では、拡張現実 (Augmented Reality) と呼ばれる、比較的新しいユーザ・インタフェースの方法論を学ぶ。拡張現実とは、近年のウェアラブル、モバイルといった文脈で、一般的な技術となりつつある。ここでは、仮想現実/VR、複合現実/MRなどといった類似技術との関連、マーカーを利用する方式とマーカーレスの方式などを、それぞれ学習する。また、拡張現実のベースとなる画像認識処理についても、OpenCVを用いて実践的に学習する。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅲ	ユニバーサルデザインとは、旧来バリアフリーが主に扱ってきた身体障害だけでなく、性別、年齢、国籍、その他あらゆる差異にかかわらず、誰もが利用できることを目指す設計のことである。その対象は、製品や環境に留まらず、近年ではAssitive Technologyなどの文脈で、コンピュータサイエンスにおいても広く取り組まれている。本講義では、ユニバーサルデザインに関わる事例を広く学び、さらに情報システムのユーザ・インタフェースにおける研究動向について深く学ぶ。		
専門科目	情報連携応用科目	デザイン分野	ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅳ	情報連携の重要な手法の一つであるデータの可視化 (ビジュアライゼーション) について、情報の表現・利用という観点からその理論と応用を議論する。とくに、データや分析結果をグラフ・ダイアグラム・地図で表現する際の情報の伝達や、グラフや地図の表現の基礎となる視覚変数の概念を解説する。また、地図やナビゲーション情報の理解という視点からの空間情報学的議論もおこない、「利用者にやさしく」、「効果的」な表現法について考える。		
演習・実習	情報連携基礎演習		情報連携基礎演習	本演習では、現代社会の共通リテラシーとなりつつある、プログラミングの基礎的スキルを身につける。本演習の前半ではPythonを学び、各種演算子、繰り返し、条件分岐などを組み合わせて、一般的なアルゴリズムを記述する方法を実践的に身につける。本演習の後半では、メモリ管理などハードウェアやOSの動作を意識したプログラミングが必要となるC言語を実践的に学び、ソフトウェアであるプログラムがハードウェアであるコンピュータ上でどのように実行されるのか、理解を深める。		
演習・実習	情報連携応用演習	ビジネス演習	情報連携ビジネス演習Ⅰ	情報連携ビジネス演習Ⅰでは商業簿記、財務会計論、原価計算、管理会計論の演習を行う。商業簿記は、購買活動や販売活動など、企業外部との取引を記録・計算する技能で、企業を取り巻く関係者に対して適切かつ正確な報告 (決算書作成) を行うためのものである。商業簿記については、電卓の使い方、複式簿記の仕組み、仕訳、勘定記入、帳簿組織、決算手続等を学習する。財務会計論、原価計算、管理会計論については、会計論Ⅰ及び会計論Ⅱで学習した内容について演習を行う。		
演習・実習	情報連携応用演習	ビジネス演習	情報連携ビジネス演習Ⅱ	情報連携ビジネス演習Ⅱでは、情報連携ビジネスの実務面で重要な要素であるデータ分析について、その手法に焦点を当て、演習形式で学習する。とくに、基本的なデータ分析手法である多変量解析の習得を目指し、実際のデータを対象に、的確な分析をおこない、得られた結果を正しく解釈し、有用な知見を引き出すスキルを学ぶ。具体的な多変量解析手法としては、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、判別分析などを取り上げる。		

授業科目の概要						
(情報連携学部 情報連携学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
演習・実習	情報連携応用演習	ビジネス演習	情報連携ビジネス演習Ⅲ	情報連携ビジネス演習Ⅲでは、これまでに履修したビジネス・インキュベーション研究分野の科目の内容（会計論Ⅰ・Ⅱ、経営論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的財産権論）を踏まえ、リーン・スタートアップに関する事例研究を行う。		
演習・実習	情報連携応用演習	ビジネス演習	情報連携ビジネス演習Ⅳ	情報連携ビジネス演習Ⅳでは情報連携ビジネスの実務面で重要な要素であるデータ分析について、データサイエンスの様々な応用テーマに焦点を当て、演習形式で学習する。具体的には、大量のデータから有用な知見を引き出すことを目的としたウェブマイニングやテキスト処理、履歴データから将来の行動パターンを予測することを目的としたアソシエーション分析や決定木分析、高度な学習の実現を目的としたニューラルネットワークやベイジアンネットワークなどを取り上げる。		
演習・実習	情報連携応用演習	シビルシステム演習	情報連携シビルシステム演習Ⅰ	情報連携シビルシステム演習Ⅰでは、地理情報システムの基礎をまず理解し、ArcViewなどの比較的簡易な地理情報ソフトウェアの利用方法を習得する。地形、土地利用用途、都市施設、鉄道、道路などを情報として持つ国土数値情報を基本的な地理情報として使い、わが国のさまざまな人間活動の分布を表現し、異なる情報の重ね合わせを用いて解析を行う手法に慣れる。これらの地理情報を用いて、国土全体の計画に関するさまざまな試みを学生が自主的に行う方式で演習を進める。 (一部共同) クラス1 (38 楽奕平/全15回) クラス2 (41 青木えり/全15回) クラス3 (39 浦剣・81 相尚寿/全15回) (共同)	一部共同	
演習・実習	情報連携応用演習	シビルシステム演習	情報連携シビルシステム演習Ⅱ	情報連携シビルシステム演習Ⅱでは、実際の地域を対象にして、マスタープランの策定、インフラの整備計画などを行う。この際、詳細な建物情報を含む地理情報を用いるほか、人口と年齢分布、就業構造、中心となる産業、経済力、災害リスク、医療・教育サービス、気候条件などの都市の基本データを収集し、また交通量に関わるデータ解析を行う。これらの検討を元に将来の都市像を描く。学生をグループに分け、異なる都市を対象に検討を行い、その結果を比較することによって、都市と人間活動の多様性と将来像の立て方を理解する。		
演習・実習	情報連携応用演習	シビルシステム演習	情報連携シビルシステム演習Ⅲ	情報連携シビルシステム演習Ⅲでは、都市活動と環境に関わるデータの解析を行う。環境省から提供されている、国内9000カ所程度で常時観測を行っている1時間ごとの大気汚染の膨大なデータ、公共用水域のデータを扱い、環境データの変動、周期性、傾向などの解析を行う。また、人間活動度のデータとして交通量のデータ、鉄道データを利用して、それらのデータから人や物資の流れを推計することの試み、建物のエネルギーマネジメントデータの解析も行い、多様なデータの特徴と解析について理解を深める。		
演習・実習	情報連携応用演習	シビルシステム演習	情報連携シビルシステム演習Ⅳ	情報連携シビルシステム演習Ⅳでは、人間の生活の質を中心として、実際のデータ解析および調査を中心とする。まず、生活の質を表す客観的な指標を全国各都市に対して収集し、それらの統合化と比較を行う。この際、経済的状況、衣食住、医療・教育サービス水準、文化施設、日常利便性などを表すデータの比較を行う。一方、実際の人間側の受け止め方を知るために、実際の地域に対して社会調査を行う。インタビュー、書面あるいはインターネットによるアンケート調査など、さまざまな社会調査の技法の基本を身につける。		

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・実習	情報連携応用演習	エンジニアリング演習	情報連携エンジニアリング演習Ⅰ	コンピュータの小型化や高性能化が進み、スマートフォンをはじめとするモバイル型の端末の意義はこれまで以上に高まっている。本演習では、これらのモバイル型端末上でのアプリケーション開発について、AndroidやiOSといった広く使われているプラットフォームにおける、具体的な開発手法を実践的に習得する。画面や状態遷移などの設計方法や、MVCを意識したプログラミング手法などを総合的に学ぶ。また、Webサービスとのマッシュアップ手法についても扱う。	
演習・実習	情報連携応用演習	エンジニアリング演習	情報連携エンジニアリング演習Ⅱ	現代の多くのコンピュータ・システムにおいて、ネットワークおよびデータベースは、重要な基盤技術となっている。本演習の前半では、TCP/IPをはじめとするインターネット技術について、実習を通して具体的なプログラミング手法を習得する。本演習の後半では、関係データベースにおけるデータモデリング手法を学び、SQLを利用したデータアクセス手法を実践的に習得する。	
演習・実習	情報連携応用演習	エンジニアリング演習	情報連携エンジニアリング演習Ⅲ	身の回りに存在する家電や電子機器は、組み込みシステムと呼ばれる専用化されたコンピュータによって実現されており、我々の生活になくしてはならない技術となっている。本演習では、実際に産業用途に用いられているリアルタイムOSを用いて、様々な周辺回路の搭載された模型自動車の制御に関する様々な実習を通して、組み込み開発の基本的な考え方やスキルを習得する。	
演習・実習	情報連携応用演習	エンジニアリング演習	情報連携エンジニアリング演習Ⅳ	近年インターネットは、多様なアプリケーションシステムを実現するためのプラットフォームとして用いられている。本演習では、広く使われているWebアプリケーション・フレームワークを習得し、MVCを意識したプログラミングを通じて、実用的なWebサービスを構築するためのスキルを習得する。この過程では、AJAXなどの実践的なスキルや、インターネット上の様々なWebサービスとのマッシュアップ手法なども学ぶ。	
演習・実習	情報連携応用演習	デザイン演習	情報連携デザイン演習Ⅰ	情報連携デザイン演習Ⅰでは、まずデジタル・デザイン分野の基本的なスキルセットを身につけることを目的とし、平面・立体表現などの基礎的な造形技法を実技形式で学習する。本演習で扱うトピックとしては、立体に関する理解や透視図法といった図学の基本概念のほか、実際に立体を描くためのスケッチ技法などが含まれる。また、コンピュータ支援設計Ⅰの講義科目と連携し、コンピューターを使用したデザイン手法を実技形式で学ぶ。ここでは、まずは2次元のデザインを実現するための基本ツール群として、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Auto CADなどをはじめとし、世の中で広く利用されているソフトウェアの実践的な操作方法を習得する。	
演習・実習	情報連携応用演習	デザイン演習	情報連携デザイン演習Ⅱ	情報連携デザイン演習Ⅱでは、ユーザ・エクスペリエンス分野の学習において必要となるコンピュータ・サイエンスに関するスキルを身につけることを目的とし、プログラミング言語Javaを学習する。本講義の前半ではオブジェクト指向プログラミングの考え方を習得し、後半ではコンピュータ・グラフィクスに関するアルゴリズムの実装や、初歩的なスマートフォン・アプリケーションの開発といった、実践的なプログラミングにも取り組む。	
演習・実習	情報連携応用演習	デザイン演習	情報連携デザイン演習Ⅲ	情報連携デザイン演習Ⅲでは、コンピュータ支援設計Ⅰに引き続き、コンピュータ支援設計Ⅱの講義科目と連携し、コンピューターを使用したデザイン手法を実技形式で学ぶ。ここでは、3次元のデザインを実現するための基本ツール群として、CINEMA 4D、RhinoCerosといったソフトウェアの実践的な操作方法を習得し、さらに3Dプリンタやレーザー加工機などの使用方法についても習得する。	

授業科目の概要

(情報連携学部 情報連携学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・実習	情報連携応用演習	デザイン演習	情報連携デザイン演習Ⅳ	情報連携デザイン演習Ⅳでは、WebデザインⅠおよびⅡの講義科目と連携し、HTML5を用いたWebデザイン手法を実技形式で習得する。ここでは、講義の中で身につけたHTML、CSSの記述、jQueryやBootstrapといったフレームワークの活用、LESSによる動的なスタイル管理といった知識を活用しながら、実際にPC、スマートフォン、タブレットといった様々な出力対象を想定したWebサイトの構築を行う。	
演習・実習	情報連携実習		情報連携実習Ⅰ	情報連携実習Ⅰでは、他人との連携と協働を行う力を身につけるために、クラスごとにプレゼンテーションとグループディスカッションの実習を行う。前半は、1年次の必修科目である情報連携学概論の内容をベースに、与えられたテーマについて順にプレゼンテーションを行い、他の学生と質疑応答形式でのディスカッションを行う。後半は、各研究分野の概論科目を題材に、各自が発表テーマを考え順にプレゼンテーションを行う。	
演習・実習	情報連携実習		情報連携実習Ⅱ	情報連携実習Ⅱでは、他人との協働を体験するために、コース内でのチームワーク型の実習を行う。本実習では、クラス内で5人程度のチームを組み、それぞれのチームで与えられたテーマを解決するためのグループワークを行う。それぞれのコースの趣旨にあったテーマを教員が事前に用意する。履修生は、チームごとに日々グループワークを進め、週1回の授業においては、チームの進捗報告と担当教員による指導を行う。	
演習・実習	情報連携実習		情報連携実習Ⅲ	情報連携実習Ⅲでは、違うスキルを持つチームで実践的なサービス立ち上げを体験するために、コース横断でのチームワーク型の実習を行う。本実習では、全コースの学生を含む5人程度のチームを組み、チームごとに特定のテーマを解決するためのサービス開発を行う。履修生は、チームごとに日々サービス開発を進め、週1回の授業においては、チームの進捗報告と担当教員による指導を行う。また講義終盤では、全コースの教員の前で、コンペ形式での成果発表を行う。	
演習・実習	情報連携実習		情報連携実習Ⅳ	情報連携実習Ⅳでは、コースごとの専門力を強化し、また一般的な研究の実施方法を習得するために、各コースに所属する研究分野の教員の研究室に配属され、指導担当教員の与えられたテーマに応じた研究を行う。本実習では、当該分野の最先端の研究動向の調査し、未解決の課題の解決方法を提案し、その方法を評価するという一般的な研究の過程を、一年間かけて実施する。	
演習・実習	卒業論文		卒業研究	卒業研究は、情報連携実習Ⅳと連携し、配属された研究室での研究成果を卒業論文にまとめる。	

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

収容定員 ※学部

平成28年度

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a) × 4
第1部			
文学部	916	－	3,664
経済学部	616	－	2,464
経営学部	682	－	2,728
法学部	500	－	2,000
社会学部	750	－	3,000
理工学部	811	－	3,244
国際地域学部	490	－	1,960
生命科学部	226	－	904
ライフデザイン学部	556	－	2,224
総合情報学部	260	－	1,040
食環境科学部	220	－	880
第1部計	6,027	－	24,108
第2部			
文学部	150	－	600
経済学部	150	－	600
経営学部	110	－	440
法学部	120	－	480
社会学部	175	3年次 10	720
第2部計	705	－	2,840
計	6,732	3年次 10	26,948

平成29年度以降

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a) × 4
第1部			
文学部	849	－	3,396
経済学部	616	－	2,464
経営学部	682	－	2,728
法学部	500	－	2,000
社会学部	750	－	3,000
理工学部	811	－	3,244
国際地域学部	0	－	0
生命科学部	226	－	904
ライフデザイン学部	556	－	2,224
総合情報学部	260	－	1,040
食環境学部	220	－	880
国際学部	390	－	1,560
国際観光学部	366	－	1,464
情報連携学部	400	－	1,600
第1部計	6,626	－	26,504
第2部			
文学部	120	－	480
経済学部	150	－	600
経営学部	110	－	440
法学部	120	－	480
社会学部	175	3年次 10	720
第2部計	675	－	2,720
計	7,301	3年次 10	29,224

収容定員 2,276名増

白山キャンパス

平成28年度

白山キャンパス

【所在地:東京都文京区白山5-28-20】

学部名・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
第1部					
文学部	916	-	3,664		
(内訳)					
哲学科	100	-	400	学士(文学)	文学
東洋思想文化学科	100	-	400		
日本文学文化学科	200	-	800		
英米文学科	133	-	532		
英語コミュニケーション学科	100	-	400		
史学科	133	-	532		
教育学科人間発達専攻	100	-	400	学士(教育学)	教育学・保育学
教育学科初等教育専攻	50	-	200		
経済学部	616	-	2,464	学士(経済学)	経済学
経営学部	682	-	2,728	学士(経営学)	経済学
法学部	500	-	2,000	学士(法学)	法学
社会学部	750	-	3,000	学士(社会学)	文学、経済学、 法学
国際地域学部	490	-	1,960		
(内訳)					
国際地域学科国際地域専攻	180	-	720	学士(国際地域学)	文学、経済学、 法学
国際地域学科地域総合専攻	110	-	440		
国際観光学科	200	-	800	学士(国際観光学)	
第1部計	3,954	-	15,816		
第2部					
文学部	150	-	600	学士(文学)	文学
経済学部	150	-	600	学士(経済学)	経済学
経営学部	110	-	440	学士(経営学)	経済学
法学部	120	-	480	学士(法学)	法学
社会学部	175	3年次 10	720	学士(社会学)	文学、経済学、 法学
第2部計	705	-	2,840		
計	4,659	3年次 10	18,656		

収容定員 676名増

平成29年度以降

学部名・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野	変更の事由
第1部						
文学部 (内訳)	849	－	3,396			
哲学科	100	－	400			
東洋思想文化学科	100	－	400			
日本文学文化学科	133	－	532			
国際文化コミュニケーション学科	100	－	400	学士(文学)	文学	定員変更(△67) 学科の設置(届出)
英米文学科	133	－	532			
英語コミュニケーション学科	0	－	0			平成29年4月学生募集停止
史学科	133	－	532			
教育学科人間発達専攻	100	－	400	学士(教育学)	教育学・保育学	
教育学科初等教育専攻	50	－	200			
経済学部	616	－	2,464	学士(経済学)	経済学	
経営学部	682	－	2,728	学士(経営学)	経済学	
法学部	500	－	2,000	学士(法学)	法学	
社会学部	750	－	3,000	学士(社会学)	文学、経済学、 法学	
国際地域学部	0	－	0			
(内訳)						
国際地域学科国際地域専攻	0	－	0	学士(国際地域学)	文学、経済学、 法学	平成29年4月学生募集停止
国際地域学科地域総合専攻	0	－	0			平成29年4月学生募集停止
国際観光学科	0	－	0	学士(国際観光学)		平成29年4月学生募集停止
国際学部	390	－	1,560			学部の設置(届出)
(内訳)						
グローバル・イノベーション学科	100	－	400	学士(グローバル・イノベーション学)	経済学	
国際地域学科国際地域専攻	210	－	840	学士(国際地域学)	社会学・社会福 祉学、経済学	
国際地域学科地域総合専攻	80	－	320			
国際観光学部	366	－	1,464			学部の設置(届出)
(内訳)						
国際観光学科	366	－	1,464	学士(国際観光学)	社会学・社会福 祉学、経済学	
第1部計	4,153	－	16,612			
第2部						
文学部	120	－	480	学士(文学)	文学	定員変更(△30)
経済学部	150	－	600	学士(経済学)	経済学	
経営学部	110	－	440	学士(経営学)	経済学	
法学部	120	－	480	学士(法学)	法学	
社会学部	175	3年次 10	720	学士(社会学)	文学、経済学、 法学	
第2部計	675	－	2,720			
計	4,828	3年次 10	19,332			

川越キャンパス					
【所在地:埼玉県川越市鯨井2100】					
平成28年度					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
理工学部	811	-	3,244		
(内訳)					
機械工学科	180	-	720	学士(理工学)	工学
生体医工学科	113	-	452	学士(理工学)	工学、理学
電気電子情報工学科	113	-	452	学士(理工学)	工学
応用化学科	146	-	584	学士(理工学)	工学
都市環境デザイン学科	113	-	452	学士(工学)	工学
建築学科	146	-	584	学士(工学)	工学
総合情報学部	260	-	1,040		
(内訳)					
総合情報学科	260	-	1,040	学士(情報学)	工学
計	1,071	0	4,284		

平成29年度以降					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
理工学部	811	-	3,244		
(内訳)					
機械工学科	180	-	720	学士(理工学)	工学
生体医工学科	113	-	452	学士(理工学)	工学、理学
電気電子情報工学科	113	-	452	学士(理工学)	工学
応用化学科	146	-	584	学士(理工学)	工学
都市環境デザイン学科	113	-	452	学士(工学)	工学
建築学科	146	-	584	学士(工学)	工学
総合情報学部	260	-	1,040		
(内訳)					
総合情報学科	260	-	1,040	学士(情報学)	工学
計	1,071	0	4,284		

朝霞キャンパス					
【所在地:埼玉県朝霞市岡48-1】					
平成28年度					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
ライフデザイン学部	556	-	2,224		
(内訳)					
生活支援学科生活支援学専攻	116	-	464	学士(生活支援学)	社会学・社会福祉学、教育学・保育学
生活支援学科子ども支援学専攻	100	-	400		
健康スポーツ学科	180	-	720	学士(健康スポーツ学)	社会学・社会福祉学、保健衛生学(看護学を除く)
人間環境デザイン学科	160	-	640	学士(人間環境デザイン学)	社会学・社会福祉学、家政
計	556	0	2,224		

平成29年度以降					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
ライフデザイン学部	556	-	2,224		
(内訳)					
生活支援学科生活支援学専攻	116	-	464	学士(生活支援学)	社会学・社会福祉学、教育学・保育学
生活支援学科子ども支援学専攻	100	-	400		
健康スポーツ学科	180	-	720	学士(健康スポーツ学)	社会学・社会福祉学、保健衛生学(看護学を除く)
人間環境デザイン学科	160	-	640	学士(人間環境デザイン学)	社会学・社会福祉学、家政
計	556	0	2,224		

板倉キャンパス					
【所在地:群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1】					
平成28年度					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
生命科学部	226	-	904		
(内訳)					
生命科学科	113	-	452	学士(生命科学)	理学
応用生物科学科	113	-	452		
食環境科学部	220	-	880		
(内訳)					
食環境科学科フードサイエンス専攻	70	-	280	学士(食環境科学部)	理学、家政
食環境科学科スポーツ・食品機能専攻	50	-	200		
健康栄養学科	100	-	400	学士(健康栄養学)	理学、家政
計	446	0	1,784		

平成29年度以降					
学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
生命科学部	226	-	904		
(内訳)					
生命科学科	113	-	452	学士(生命科学)	理学
応用生物科学科	113	-	452		
食環境科学部	220	-	880		
(内訳)					
食環境科学科フードサイエンス専攻	70	-	280	学士(食環境科学部)	理学、家政
食環境科学科スポーツ・食品機能専攻	50	-	200		
健康栄養学科	100	-	400	学士(健康栄養学)	理学、家政
計	446	0	1,784		

赤羽台キャンパス

【所在地:東京都北区赤羽台1-7-12】

平成28年度

平成29年度以降

学部・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野	変更の事由
情報連携学部	400	—	1,600			学部の設置(届出)
(内訳)						
情報連携学科	400	—	1,600	学士(情報連携学)	工学・経済学	
計	400	0	1,600			

収容定員 1,600名増

収容定員 ※博士前期・修士課程

平成28年度

博士前期・修士課程

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×2
文学研究科	哲学専攻	文学	5	－	10
	インド哲学仏教学専攻	文学	4	－	8
	国文学専攻	文学	10	－	20
	中国哲学専攻	文学	4	－	8
	英文学専攻	文学	5	－	10
	史学専攻	文学	6	－	12
	教育学専攻	教育学・保育学	20	－	40
	英語コミュニケーション専攻	文学	10	－	20
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	10	－	20
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	12	－	24
法学研究科	私法学専攻	法学	10	－	20
	公法学専攻	法学	10	－	20
経営学研究科	経営学専攻	経済学	10	－	20
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	20	－	40
	マーケティング専攻	経済学	10	－	20
理工学研究科	生体医工専攻	工学	18	－	36
	応用化学専攻	工学	12	－	24
	機能システム専攻	工学	15	－	30
	電気電子情報専攻	工学	11	－	22
	都市環境デザイン専攻	工学	8	－	16
	建築学専攻	工学	14	－	28
経済学研究科	経済学専攻	経済学	10	－	20
	公民連携専攻	経済学	30	－	60
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	15	－	30
	国際観光学専攻	経済学	10	－	20
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	20	－	40
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40
	福祉社会システム専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40
	人間環境デザイン専攻	教育学・保育学、体育 家政	10	－	20
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	12	－	24
総合情報学研究科	総合情報学専攻	工学、社会学・社会福祉学	15	－	30
食環境科学研究科	食環境科学専攻	理学、家政	10	－	20
計			416	0	832

平成29年度以降

博士前期・修士課程（1研究科・1専攻設置）

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×2	変更の事由
文学研究科	哲学専攻	文学	5	－	10	
	インド哲学仏教学専攻	文学	4	－	8	
	国文学専攻	文学	10	－	20	
	中国哲学専攻	文学	4	－	8	
	英文学専攻	文学	5	－	10	
	史学専攻	文学	6	－	12	
	教育学専攻	教育学・保育学	20	－	40	
	英語コミュニケーション専攻	文学	10	－	20	
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	10	－	20	
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	12	－	24	
法学研究科	私法学専攻	法学	10	－	20	
	公法学専攻	法学	10	－	20	
経営学研究科	経営学専攻	経済学	10	－	20	
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	20	－	40	
	マーケティング専攻	経済学	10	－	20	
理工学研究科	生体医工専攻	工学	18	－	36	
	応用化学専攻	工学	12	－	24	
	機能システム専攻	工学	15	－	30	
	電気電子情報専攻	工学	11	－	22	
	都市環境デザイン専攻	工学	8	－	16	
	建築学専攻	工学	14	－	28	
経済学研究科	経済学専攻	経済学	10	－	20	
	公民連携専攻	経済学	30	－	60	
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	15	－	30	
	国際観光学専攻	経済学	10	－	20	
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	20	－	40	
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40	
	福祉社会システム専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40	
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学	20	－	40	
	人間環境デザイン専攻	教育学・保育学、体育 家政	10	－	20	
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	12	－	24	
総合情報学研究科	総合情報学専攻	工学、社会学・社会福祉学	15	－	30	
食環境科学研究科	食環境科学専攻	理学、家政	10	－	20	
情報連携学研究科	情報連携学専攻	工学、経済学	20	－	40	研究科の設置（届出）
計			436	0	872	

収容定員 40名増

収容定員 ※博士後期

平成28年度

博士後期課程

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (b)	編入学定員	収容定員 (b)×3
文学研究科	哲学専攻	文学	3	-	9
	インド哲学仏教学専攻	文学	3	-	9
	国文学専攻	文学	3	-	9
	中国哲学専攻	文学	3	-	9
	英文学専攻	文学	3	-	9
	史学専攻	文学	3	-	9
	教育学専攻	教育学・保育学	4	-	12
	英語コミュニケーション専攻	文学	5	-	15
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	3	-	9
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
法学研究科	私法学専攻	法学	5	-	15
	公法学専攻	法学	5	-	15
経営学研究科	経営学専攻	経済学	5	-	15
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	5	-	15
	マーケティング専攻	経済学	3	-	9
			3	-	9
理工学研究科	生体医工専攻	工学	3	-	9
	応用化学専攻	工学	3	-	9
	機能システム専攻	工学	3	-	9
	電気電子情報専攻	工学	3	-	9
	建築・都市デザイン専攻	工学	3	-	9
			3	-	9
経済学研究科	経済学専攻	経済学	3	-	9
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	5	-	15
	国際観光学専攻	経済学	3	-	9
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	4	-	12
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
	人間環境デザイン専攻	教育学・保育学、体育	4	-	12
		家政	4	-	12
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	4	-	12
計			106	0	318

平成29年度以降

博士後期課程（変更なし）

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (b)	編入学定員	収容定員 (b)×3
文学研究科	哲学専攻	文学	3	-	9
	インド哲学仏教学専攻	文学	3	-	9
	国文学専攻	文学	3	-	9
	中国哲学専攻	文学	3	-	9
	英文学専攻	文学	3	-	9
	史学専攻	文学	3	-	9
	教育学専攻	教育学・保育学	4	-	12
	英語コミュニケーション専攻	文学	5	-	15
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	3	-	9
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
法学研究科	私法学専攻	法学	5	-	15
	公法学専攻	法学	5	-	15
経営学研究科	経営学専攻	経済学	5	-	15
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	5	-	15
	マーケティング専攻	経済学	3	-	9
			3	-	9
理工学研究科	生体医工専攻	工学	3	-	9
	応用化学専攻	工学	3	-	9
	機能システム専攻	工学	3	-	9
	電気電子情報専攻	工学	3	-	9
	建築・都市デザイン専攻	工学	3	-	9
			3	-	9
経済学研究科	経済学専攻	経済学	3	-	9
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	5	-	15
	国際観光学専攻	経済学	3	-	9
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	4	-	12
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学	5	-	15
	人間環境デザイン専攻	教育学・保育学、体育	4	-	12
		家政	4	-	12
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	4	-	12
計			106	0	318

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	タケムラ マキオ 竹村 牧男 ＜平成21年9月＞		博士 (文学)		東洋大学 学長 (平成21.9)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 過当たり 平均日数
1	専	教授 (学部 長)	サカムラ ケン 坂村 健 ＜平成29年4月＞		工学博士		情報連携学概論※ 情報連携エンジニアリング概論※ コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅰ 卒業研究	1前 1・2後 4① 4通	1.3 1 2 4	1 1 1 1	東京大学大学院情報 学環 教授 (昭和54.6)	5日
2	専	教授 (学科 長)	ナカムラ シュウゴ 中村 周吾 ＜平成29年4月＞		博士 (農学)		情報連携学概論※ 情報連携ビジネス概論※ データ・マイニング論 人工知能 ディープ・ラーニング ビックデータ解析 データ・サイエンス論Ⅰ データ・サイエンス論Ⅱ 情報連携ビジネス演習Ⅱ 情報連携ビジネス演習Ⅳ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	1前 1・2後 3①・② 3①・② 3③・④ 3③・④ 4① 4② 2通 3通 1通 3通 4通	0.1 1 4 4 4 4 2 2 4 4 2 4 4	1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	東京大学大学院情報 学環 准教授 (平成7.8)	5日
3	専	教授	イムラ リョウ 井村 亮 ＜平成29年4月＞		工学博士		経営論Ⅲ ビジネス・インキュベーション論 Ⅲ 情報連携ビジネス演習Ⅲ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	3①・② 4③ 2通 3通 4通 4通	4 2 2 4 4 4	2 1 1 1 1 1	UC Berkeley Haas School of Business 客員教授 (平成27.10)	3日
4	専	教授	ハナキ ケイスケ 花本 啓祐 ＜平成29年4月＞		工学博士		情報連携学概論※ 社会資本経営 ライフラインマネジメント インフラ・サービス論Ⅰ 卒業研究	1前 3①・② 3③・④ 4① 4通	0.1 2 2 2 4	1 2 2 1 1	東京大学大学院 工学系研究科 教授 (昭和58.4)	5日
5	専	教授	ツチャ マサヨシ 土屋 雅義 ＜平成29年4月＞		準学士 (工学)		コンピュータ支援設計Ⅰ※ デザイン理論Ⅱ 工業デザイン※ デジタル・デザイン論Ⅳ 情報連携デザイン演習Ⅰ 情報連携デザイン演習Ⅲ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	2①・② 2③・④ 3③・④ 4④ 2通 3通 1通 3通 4通	1.1 2 1.4 2 4 4 2 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1	ツチャデザインコン サルディング 代表 (平成26.4)	3日
6	専	教授	ヨコタ タツヤ 横田 達也 ＜平成29年4月＞		工学博士		地理情報システム クオリティ・オブ・ライフ論Ⅱ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	3①・② 4② 1通 3通 4通	2 2 2 4 4	2 1 1 1 1	国立研究開発法人国 立環境研究所地球環 境研究センター 室長 (昭和56.4)	3日
7	専	教授	マスタ ヤスヨシ 益田 安良 ＜平成30年4月＞		博士 (経済学)		ミクロ経済学 マクロ経済学 国際経済学(貿易・開発) 国際経済学(金融・通貨) 金融市場と構造 企業金融と金融健全性	1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④	4 4 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2	東洋大学経済学部 教授 (平成14.4)	5日
	兼任	講師	マスタ ヤスヨシ 益田 安良 ＜平成29年4月＞		博士 (経済学)		ミクロ経済学 マクロ経済学 国際経済学(貿易・開発) 国際経済学(金融・通貨) 金融市場と構造 企業金融と金融健全性	1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④	4 4 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2		
8	専	教授	ナカムラ ミツヒロ 中村 光宏 ＜平成29年4月＞		芸術工学 修士		情報連携学概論※ 情報連携デザイン概論※ コンピュータ支援設計Ⅰ※ デザイン理論Ⅲ コンピュータ支援設計Ⅱ 工業デザイン※ デジタル・デザイン論Ⅱ デジタル・デザイン論Ⅲ 情報連携デザイン演習Ⅰ 情報連携デザイン演習Ⅲ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ	1前 1・2後 2①・② 2③・④ 3①・② 3③・④ 4② 4③ 2通 3通 1通 3通	0.1 1 1.1 4 4 1.3 2 2 4 2 2 4	1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	株式会社サステイナ ブルデザイン研究所 代表取締役 (平成26.9)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
9	専	教授	シミズ トオル 清水 徹 ＜平成30年4月＞		理学博士		コンピュータ・アーキテクチャ オペレーティング・システム コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅳ 情報連携エンジニアリング演習Ⅲ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	2①・② 3③・④ 4④ 3通 2通 4通 4通	4 4 2 4 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1	慶應義塾大学大学院 理工学研究科 特任教授 (平成26. 10)	3日
10	専	教授	ムグラケイト 棕 計人 ＜平成30年4月＞		学士 (造形)		デザイン理論Ⅰ コンピュータ支援設計Ⅰ※ 工業デザイン※ デジタル・デザイン論Ⅰ 情報連携デザイン演習Ⅰ 情報連携デザイン演習Ⅲ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	2①・② 2①・② 3③・④ 4① 2通 3通 2通 4通 4通	4 1.8 1.3 2 4 4 2 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1	ソニー株式会社上海 クリエイティブセン ター 代表 (昭和64. 10)	5日
11	専	教授	カンバ トモナリ 神場 知成 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		情報連携学概論※ 情報連携デザイン概論※ ユーザ・エクスペリエンス・デザイ ンⅠ WEBデザインⅠ WEBデザインⅡ ユーザ・エクスペリエンス・デザイ ン論Ⅲ 情報連携デザイン演習Ⅱ 情報連携デザイン演習Ⅳ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	1前 1・2後 2①・② 3①・② 3③・④ 4③ 2通 3通 2通 4通 4通	0.1 1 4 4 4 2 4 4 2 4 4	1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1	日本電気株式会社中 央研究所 イノベーションプロ デューサー (平成27. 4)	5日
12	専	教授	オガサワラ タケシ 小笠原 武史 ＜平成29年4月＞		博士 (学際情報 学)		コンピュータシステム概論Ⅰ コンピュータシステム概論Ⅱ ソフトウェア開発概論Ⅰ ソフトウェア開発概論Ⅱ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	1①・② 1③・④ 1①・② 1③・④ 1通 3通 4通	2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	日本アイ・ピー・エ ム株式会社東京基盤 研究所 研究員 (平成3. 4)	5日
13	専	教授	ソネ シンリ 曾根 真理 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		インフラマネジメント インフラ・サービス論Ⅱ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	2①・② 4② 2通 4通 4通	4 2 2 4 4	2 1 1 1 1	独立行政法人都市再 生機構都市再生機構 部 チームリーダー (平成27. 4)	3日
14	専	教授	ワタナベ (テラダ) アキコ 渡邊 (寺田) 朗子 ＜平成30年4月＞		博士 (学術)		建築デザイン インフラ・サービス論Ⅲ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	2①・② 4③ 2通 4通 4通	4 2 2 4 4	2 1 1 1 1	東京電気大学未来科 学部 准教授 (平成21. 10)	3日
15	専	教授	ゴトウ ナオヒロ 後藤 尚弘 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		情報連携学概論※ 情報連携シビルシステム概論 産業エコロジー ユビキタスネットワークと生活 クオリティ・オブ・ライフ論Ⅰ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2③・④ 3①・② 4① 2通 4通 4通	0.1 2 4 4 2 2 4 4	1 1 2 2 1 1 1 1	豊橋技術科学大学 エコロジー工学系 准教授 (平成10. 4)	5日
16	専	教授	カワハラ リョウイチ 川原 亮一 ＜平成30年4月＞		博士 (工学)		コンピュータ・ネットワークⅠ ソフトウェア・エンジニアリング コンピュータ・ネットワーク論Ⅲ コンピュータ・ネットワーク論Ⅳ 情報連携エンジニアリング演習Ⅱ 情報連携エンジニアリング演習Ⅳ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	2③・④ 3①・② 4③ 4④ 2通 3通 2通 4通 4通	4 4 2 2 4 4 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1 1	NTTネットワーク基 盤技術研究所 主幹研究員 (平成4. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する週当たり平均日数
17	専	教授	ヒロセ ヤヨイ 廣瀬 弥生 ＜平成31年4月＞		Master of Science (英国)		経営論Ⅰ 経営論Ⅱ ビジネス・インキュベーション論Ⅱ 情報連携ビジネス演習Ⅳ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	2①・② 2③・④ 4② 3通 3通 4通	4 4 2 4 4 4	2 2 1 1 1 1	IDC Japan株式会社 グループマネージャー (平成25. 4)	3日
	兼任	講師	ヒロセ ヤヨイ 廣瀬 弥生 ＜平成30年4月＞		Master of Science (英国)		経営論Ⅰ 経営論Ⅱ	2①・② 2③・④	4 4	2 2	IDC Japan株式会社 グループマネージャー (平成25. 4)	
18	専	教授	トミタ アキ 富田 亜紀 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)		情報連携学概論※ 情報連携ビジネス概論※ コンピュータ社会概論 会計論Ⅰ 会計論Ⅱ ビジネス・インキュベーション論Ⅰ 情報連携ビジネス演習Ⅰ 情報連携ビジネス演習Ⅲ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	1前 1・2後 1③・④ 2①・② 2③・④ 4① 2通 3通 1通 3通 4通	0. 1 1 4 4 4 2 4 4 2 4 4	1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1	株式会社みずほ銀行 産業調査部 参事役 (平成27. 4まで)	5日
19	専	教授	イシカワ トオル 石川 徹 ＜平成31年4月＞		Ph. D. in Geography (米国)		ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅡ ユーザ・エクスペリエンス評価 ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅳ 情報連携デザイン演習Ⅳ 情報連携実習Ⅲ 卒業研究	2③・④ 3①・② 4④ 3通 3通 4通	4 4 2 4 4 4	2 2 1 1 1 1	東京大学大学院情報学環 准教授 (平成18. 4)	5日
	兼任	講師	イシカワ トオル 石川 徹 ＜平成29年4月＞		Ph. D. in Geography (米国)		情報連携のための確率・統計学A 情報連携のための確率・統計学B ユーザ・エクスペリエンス・デザインⅡ	1・2①・② 1・2③・④ 2③・④	4 4 4	2 2 2		
20	専	教授	ヨシゴエ ケンジ 吉越 健治 ＜平成29年4月＞		Ph. D. in Computer Science and Engineering (米国)		情報連携学概論※ 情報連携エンジニアリング概論※ コンピュータ・ネットワークⅡ データベース コンピュータ・システム コンピュータ・ネットワーク論Ⅰ コンピュータ・ネットワーク論Ⅱ 情報連携エンジニアリング演習Ⅱ 情報連携エンジニアリング演習Ⅳ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅳ 卒業研究	1前 1・2後 3①・② 3③・④ 3③・④ 4① 4② 2通 3通 1通 4通 4通	0. 1 1 4 4 4 2 2 4 4 2 4 4	1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	アールカンソー大学リトルロック校 エンジニアリング&インフォメーションテクノロジー学部 教授 (平成16. 8)	5日
21	専	准教授	カワモト キヨミ 川本 清美 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		環境科学と政策 エネルギーと環境インフラ クオリティ・オブ・ライフ論Ⅲ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 情報連携実習Ⅳ	2①・② 2③・④ 4③ 1通 3通 4通	4 4 2 2 4 4	2 2 1 1 1 1	北海道教育大学教育学部(函館校) 准教授 (平成20. 5)	5日
22	専	准教授	カチ リヤス 加知 範康 ＜平成30年4月＞		博士 (環境学)		都市・地域マネジメント 交通と情報マネジメント インフラ・サービス論Ⅳ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ	2③・④ 3③・④ 4④ 2通 4通	4 4 2 2 4	2 2 1 1 1	九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター 助教 (平成25. 4)	5日
23	専	准教授	ライナ シュルツァ Rainer Schulzer ＜平成30年4月＞		Doctor philosophiae (Philosophie) (ドイツ)		井上円了と日本近代思想 哲学概論 異文化交渉論【隔年】 情報技術者の倫理【隔年】	1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4①・③	4 4 4 4	2 2 2 2	チュービンゲン大学 哲学部 研究員 (平成27. 4)	3日

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
24	専	准教授	ホンダ ヒロタダ 本多 泰理 ＜平成30年4月＞		博士 (理学)		情報連携のための確率・統計学A 情報連携のための確率・統計学B 統計とデータ分析Ⅰ 統計とデータ分析Ⅱ データ・サイエンス論Ⅲ データ・サイエンス論Ⅳ 情報連携ビジネス演習Ⅳ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ	1・2①・② 1・2③・④ 2①・② 2③・④ 4③ 4④ 3通 2通 4通	4 4 4 4 2 2 4 2 4	2 2 2 2 1 1 1 1 1	NTTネットワーク 基盤技術研究所 主任研究員 (平成14. 4)	5日
25	専	准教授	ヒラマツ (タカヤマ) アイ 平松 (高山) あい ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		持続可能社会と情報マネジメント クオリティ・オブ・ライフ論Ⅳ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 情報連携実習Ⅳ	3③・④ 4④ 1通 3通 4通	4 2 2 4 4	2 1 1 1 1	東京大学大学院工学 系研究科 特任研究員 (平成17. 10)	3日
26	専	准教授	カワイ リホコ 河井 理穂子 ＜平成30年4月＞		博士 (政策・デザイン)		コンピュータ社会概論 知的財産権論 ビジネス・インキュベーション論Ⅳ 情報連携ビジネス演習Ⅲ 情報連携実習Ⅱ 情報連携実習Ⅳ	1③・④ 3③・④ 4④ 3通 2通 4通	4 4 2 4 2 4	2 2 1 1 1 1	埼玉工業大学人間社 会学部 専任講師 (平成23. 4)	5日
27	専	准教授	イシカワ トモカズ 石川 知一 ＜平成30年4月＞		博士 (科学)		情報連携のための数学A 情報連携のための数学B コンピュータ・グラフィクス ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン論Ⅱ 情報連携デザイン演習Ⅱ 情報連携デザイン演習Ⅳ 情報連携実習Ⅲ 情報連携実習Ⅳ	1①・② 1③・④ 3③・④ 4① 4② 2通 3通 3通 4通	4 4 4 2 2 4 4 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1	東京理科大学理工学 部 助教 (平成28. 4)	3日
	兼任	講師	イシカワ トモカズ 石川 知一 ＜平成29年4月＞		博士 (科学)		情報連携のための数学A 情報連携のための数学B	1①・② 1③・④	4 4	2 2	東京理科大学理工学 部 助教 (平成28. 4)	
28	専	准教授	ベッショ マサヒロ 別所 正博 ＜平成29年4月＞		博士 (学際情報学)		コンピュータシステム概論Ⅰ コンピュータシステム概論Ⅱ ソフトウェア開発概論Ⅰ ソフトウェア開発概論Ⅱ アルゴリズムとデータ構造Ⅰ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅱ 情報連携エンジニアリング演習Ⅰ 情報連携エンジニアリング演習Ⅲ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ 情報連携実習Ⅳ	1①・② 1③・④ 1①・② 1③・④ 2③・④ 3①・② 4② 2通 3通 1通 3通 4通	2 2 2 2 4 4 2 4 4 2 4 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1	株式会社横須賀テレ コムリサーチパーク YRPユビキタス・ ネットワーキング研 究所 研究部長 (平成28. 4)	5日
29	専	准教授	ヤシロ タケシ 矢代 武嗣 ＜平成29年4月＞		博士 (学際情報学)		コンピュータシステム概論Ⅰ コンピュータシステム概論Ⅱ ソフトウェア開発概論Ⅰ ソフトウェア開発概論Ⅱ プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅲ 情報連携エンジニアリング演習Ⅰ 情報連携エンジニアリング演習Ⅳ 情報連携実習Ⅰ 情報連携実習Ⅲ	1①・② 1③・④ 1①・② 1③・④ 2①・② 2③・④ 4③ 2通 3通 1通 3通	2 2 2 2 4 4 2 4 4 2 4	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1	株式会社横須賀テレ コムリサーチパーク YRPユビキタス・ ネットワーキング研 究所 研究員 (平成23. 4)	5日
30	専	准教授	カン エム. ファヒム Khan M. Fahim フェルドウス Ferdous ＜平成29年4月＞		博士 (学術情報学)		コンピュータシステム概論Ⅰ コンピュータシステム概論Ⅱ ソフトウェア開発概論Ⅰ ソフトウェア開発概論Ⅱ 情報数学 情報連携基礎演習 情報連携エンジニアリング演習Ⅲ 情報連携実習Ⅳ	1①・② 1③・④ 1①・② 1③・④ 2①・② 1通 3通 4通	2 2 2 2 4 12 4 4	1 1 1 1 2 3 1 1	東京大学大学院情報 学環 助教 (平成24. 4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 過当たり 平均日数
31	専	講師	ジェイソン リチャー Jason Richard ドバーン Byrne ＜平成29年4月＞		Master of Arts in Teaching English to Speakers of Other Languages (英国)		リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅲ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅳ (英語)	1前 1後 2前 2後	16 16 4 4	4 4 2 2	東海大学外国語教育 センター 特任講師 (平成24.4)	4日
32	専	講師	ジェニファー マリー Jennifer Marie テーズ シミズ Toews-Shimizu ＜平成29年4月＞		修士 (言語学)		リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅲ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅳ (英語)	1前 1後 2前 2後	16 16 4 4	4 4 2 2	早稲田大学基幹理工 学部 非常勤講師 (平成26.4)	4日
33	専	講師	ヨシダ マリコ 吉田 麻里子 ＜平成29年4月＞		修士 (言語学)		リーディング・ライティング演習 Ⅰ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅱ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅲ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅳ (英語)	1前 1後 2前 2後	8 8 4 4	4 4 2 2	聖マリアンナ医科大 学医学部 非常勤講師 (平成27.4)	5日
34	専	講師	オチ ケンタロウ 越智 健太郎 ＜平成29年4月＞		修士 (言語学)		リーディング・ライティング演習 Ⅰ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅱ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅲ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅳ (英語)	1前 1後 2前 2後	16 16 4 4	8 8 2 2	立教女学院短期大学 現代コミュニケー ション学科 非常勤講師 (平成26.4)	4日
35	専	講師	ジェフリー マシュー Jeffry Matthew ムーア Moore ＜平成29年4月＞		修士 (言語学)		リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅲ (英語) リスニング・スピーキング演習Ⅳ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅲ (英語) リーディング・ライティング演習 Ⅳ (英語)	1前 1後 2前 2後 2前 2後	16 16 2 2 2 2	4 4 1 1 1 1	東洋学園大学英語教 育開発センター 非常勤講師 (平成27.9)	4日
36	専	助教	ニシカワ ナホ 西川 尚紀 ＜平成30年4月＞		博士 (工学)		情報連携基礎演習 情報連携ビジネス演習Ⅰ	1通 2通	12 4	3 1	防衛省コンピュータ システムの管理と教 育を担当する部署及 び職務 (平成17.4)	5日
37	専	助教	オン フン 温 文 ＜平成30年4月＞		博士 (心理学)		情報連携ビジネス演習Ⅱ 情報連携エンジニアリング演習Ⅰ 情報連携エンジニアリング演習Ⅱ 情報連携デザイン演習Ⅱ	2通 2通 2通 2通	4 4 4 4	1 1 1 1	東京大学大学院工学 系研究科 特任研究員 (平成26.4)	5日
38	専	助教	レ イピン 楽 奕平 ＜平成30年4月＞		博士 (工学)		情報連携シビルシステム演習Ⅰ 情報連携シビルシステム演習Ⅱ 情報連携シビルシステム演習Ⅳ 情報連携実習Ⅳ	2通 2通 3通 4通	4 4 4 4	1 1 1 1	東京大学国際高等研 究所サステイナビリ ティ学連携研究機構 非常勤研究員 (平成21.10)	5日
39	専	助教	ブー ジェン 浦 剣 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		情報連携シビルシステム演習Ⅰ 情報連携シビルシステム演習Ⅲ 情報連携シビルシステム演習Ⅳ 情報連携実習Ⅰ	2通 3通 3通 1通	2 4 4 2	1 1 1 1	山形大学農学部 食料生命環境学科 助教 (平成27.12)	5日
40	専	助教	チョウソウン 趙 殷恩 ＜平成29年3月＞		博士 (工学)		情報連携シビルシステム演習Ⅱ 情報連携シビルシステム演習Ⅲ 情報連携シビルシステム演習Ⅳ 情報連携実習Ⅱ	2通 3通 3通 2通	4 4 4 2	1 1 1 1	工学院大学建築学部 研究補助員 (平成26.6)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
41	専	助教	アオキ エリ 青木 えり ＜平成30年3月＞		博士 (工学)		情報連携シビルシステム演習Ⅰ 情報連携シビルシステム演習Ⅱ 情報連携シビルシステム演習Ⅲ 情報連携実習Ⅲ	2通 2通 3通 3通	4 4 4 4	1 1 1 1	東京大学国際高等研 究所サステイナビリ ティ学連携研究機構 特任研究員 (平成26.4)	5日
42	専	助教	アサノ サトシ 浅野 智之 ＜平成29年3月＞		修士 (学際情報 学)		情報連携基礎演習 情報連携ビジネス演習Ⅰ	1通 2通	12 4	3 1	ユーシーテクノロ ジー株式会社 社員 (平成25.4)	5日
43	専	助教	キム ジュン 金 智恩 ＜平成29年3月＞		修士 (学際情報 学)		情報連携基礎演習 情報連携ビジネス演習Ⅱ	1通 2通	12 4	3 1	東京大学ソーシャル ICTグローバル・ク リエイティブリー ダー育成プログラム リサーチアシスタ ント (平成25.4)	5日
44	兼担	教授	カワモト ヒデオ 河本 英夫 ＜平成29年4月＞		博士 (学術)		全学総合ⅠA 全学総合ⅠB	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学 文学部 教授 (平3.4)	
45	兼担	教授	アシザワ シンゴ 芦沢 真五 ＜平成29年4月＞		Master of Education (米国)		全学総合ⅠA	1・2・3・4前	2	1	東洋大学 国際学部 教授 (平25.4)	
46	兼担	教授	アサクラ コウイチ 朝倉 輝一 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		井上円了と日本近代思想 哲学概論 異文化交渉論【隔年】 情報技術者の倫理【隔年】	1・2・3・4①・③ 1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③ 1・2・3・4①・③	4 4 4 4	2 2 2 2	東洋大学法学部 准教授 (平成22.1)	
47	兼担	教授	キクチ ノリタカ 菊地 章太 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		全学総合ⅡA	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ライフデザ イン学部 教授 (平17.4)	
48	兼担	教授	コバヤシ マサオ 小林 正夫 ＜平成29年9月＞		理学修士		全学総合ⅠB	1・2・3・4後	2	2	東洋大学 社会学部 教授 (平22.4)	
49	兼担	教授	シオダ トオル 塩田 徹 ＜平成29年4月＞		体育学修士		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学 経済学部 教授 (平20.4)	
50	兼担	教授	シミズ ヒロシ 清水 宏 ＜平成29年4月＞		修士 (法学)		情報と法※	1・2・3・4②・④	2	2	東洋大学法学部 教授 (平成25.4)	
51	兼担	教授	ハヤカワ カズヒロ 早川 和宏 ＜平成29年4月＞		修士 (法学)		情報と法※	1・2・3・4②・④	2	2	東洋大学法学部 教授 (平成27.4)	
52	兼担	准教授	コジマ タコ 小島 貴子 ＜平成29年4月＞		経営学士		キャリアデベロップメント論A キャリアデベロップメント論B	1・2・3・4① 1・2・3・4②	2 2	1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 過当たり 平均日数
53	兼担	准教授	カナダ エイコ 金田 英子 ＜平成29年4月＞		博士 (医学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB スポーツ健康科学講義ⅡA スポーツ健康科学講義ⅡB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 准教授 (平21.4)	
54	兼担	准教授	ヒライ ノリマサ 平井 伯昌 ＜平成29年4月＞		修士 (スポーツ科 学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 准教授 (平25.4)	
55	兼担	准教授	ヤスノリ ヨシカ 安則 貴香 ＜平成29年4月＞		修士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 経営学部 准教授 (平24.4)	
56	兼担	准教授	ニシムラ シノブ 西村 忍 ＜平成29年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB スポーツ健康科学演習Ⅰ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 経営学部 准教授 (平22.4)	
57	兼担	准教授	スナミ シュンスケ 角南 俊介 ＜平成29年4月＞		博士 (学術)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB スポーツ健康科学講義ⅡA スポーツ健康科学講義ⅡB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 経済学部 准教授 (平22.4)	
58	兼担	准教授	セキヤマ タカシ 関山 健 ＜平成29年9月＞		博士 (国際協力 学)		国際キャリア概論 留学のすすめ	1・2・3・4③ 1・2・3・4④	2 2	1 1	東洋大学 国際教育センター 准教授 (平28.4)	
59	兼担	准教授	イチカワ ダイスケ 一川 大輔 ＜平成29年4月＞		博士 (医科学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 准教授 (平22.4)	
60	兼担	准教授	タニガマ ヒロノリ 谷金 尋徳 ＜平成29年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB スポーツ健康科学講義ⅡA スポーツ健康科学講義ⅡB 全学総合ⅡA 全学総合ⅡB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 准教授 (平23.4)	
61	兼担	講師	ジュエル ローリエ Joel Laurier ＜平成29年4月＞		MA in TESOL (米国)		English for Academic Purposes ⅠA Listening/Speaking English for Academic Purposes ⅠB Reading/Writing English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平27.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
62	兼担	講師	キア デコウ Kia DeCou ＜平成29年4月＞		MA in TESOL (米国)		English for Academic Purposes IA Listening/Speaking English for Academic Purposes IB Reading/Writing English for Academic Purposes IIA Listening/Speaking English for Academic Purposes IIB Reading/Writing	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平26.4)	
63	兼担	講師	ヤマカワ フミ 山川 史 ＜平成29年4月＞		博士 (日本語教育学)		Integrated Japanese I Integrated Japanese II Japanese Listening Comprehension III Japanese Listening Comprehension IV Japanese Culture and Society A Japanese Culture and Society B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前	4 4 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平27.4)	
64	兼担	講師	ロバート モレル Robert Morel ＜平成29年4月＞		MA in TESOL (米国)		English for Academic Purposes IA Listening/Speaking English for Academic Purposes IB Reading/Writing English for Academic Purposes IIA Listening/Speaking English for Academic Purposes IIB Reading/Writing	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平27.4)	
65	兼担	講師	ハナダ シンゴ 花田 真吾 ＜平成29年4月＞		M. A. in Higher Education (米国)		全学総合IA 全学総合IB 全学総合IIA 全学総合IIB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 国際学部 講師 (平27.4)	
66	兼担	講師	イヴァン ボテフ Ivan Botev ＜平成29年4月＞		MA in TESOL (ブルガリ ア)		English for Academic Purposes IA Listening/Speaking English for Academic Purposes IB Reading/Writing English for Academic Purposes IIA Listening/Speaking English for Academic Purposes IIB Reading/Writing	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平28.4)	
67	兼担	講師	タナカ ユウスケ 田中 祐輔 ＜平成29年4月＞		博士 (日本語教育学)		Integrated Japanese III Integrated Japanese IV Japanese Reading and Composition III Japanese Reading and Composition IV Introduction to Japanology A Introduction to Japanology B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前	4 4 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平25.4)	
68	兼担	講師	サマンサ グリーン Samantha Green ＜平成29年4月＞		MA in TESOL (米国)		English for Academic Purposes IA Listening/Speaking English for Academic Purposes IB Reading/Writing English for Academic Purposes IIA Listening/Speaking English for Academic Purposes IIB Reading/Writing Pre-Study Abroad College Study Skills Pre-Study Abroad Basic Academic Writing Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平26.4)	
69	兼担	助教	イトウ セツコ 伊藤 摂子 ＜平成29年4月＞		修士 (教育学)		Business English Communication	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学 文学部 助教 (平27.4)	
	兼任	講師	イトウ セツコ 伊藤 摂子 ＜平成31年4月＞		修士 (教育学)		Business English Communication	1・2・3・4前・後	2	1		

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
70	兼任	講師	フナヤマ クミ 舩山 久美 ＜平成29年4月＞		修士 (日本語教育 学)		Kanji Literacy I Kanji Literacy II Project Work I Project Work II	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平28.4)	
71	兼任	講師	タシロ コウジ 田代 浩二 ＜平成29年4月＞		教育学修士		スポーツ健康科学実技IA スポーツ健康科学実技IB スポーツ健康科学実技IIA スポーツ健康科学実技IIB スポーツ健康科学実技IIIA スポーツ健康科学実技IIIB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 講師 (平9.4)	
72	兼任	講師	マツバラ トシフミ 松原 俊文 ＜平成29年4月＞		Ph. D. in Classics (英国)		世界の歴史I 世界の歴史II	1・2・3・4②・④ 1・2・3・4①・③	4 4	2 2	早稲田大学 教育学部 非常勤講師 (平成12.4)	
73	兼任	講師	バンバ ヒロユキ 番場 裕之 ＜平成29年4月＞		文学修士※		スポーツ健康科学実技IA スポーツ健康科学実技IB スポーツ健康科学実技IIA スポーツ健康科学実技IIB スポーツ健康科学実技IIIA スポーツ健康科学実技IIIB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	武蔵野美術大学 造形学部 教授 (平17.4)	
74	兼任	講師	コイケ ヤスシ 小池 康 ＜平成29年4月＞		博士 (言語学)		Kanji Literacy III Kanji Literacy IV Project Work III Project Work IV	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平28.4)	
75	兼任	講師	タカハシ マルヤマオリエ 高橋(丸山) 織恵 ＜平成29年4月＞		修士 (人文)		日本事情A 日本事情B リーディング・ライティング演習 I (日本語) リーディング・ライティング演習 II (日本語) リーディング・ライティング演習 III (日本語) リーディング・ライティング演習 IV (日本語)	1・2・3・4① 1・2・3・4② 1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	亜細亜大学国際交流 センター 非常勤講師 (平成19.9)	
76	兼任	講師	イン タカハシ マイコ 因(高橋) 麻衣子 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		リスニング・スピーキング演習I (日本語) リスニング・スピーキング演習II (日本語) リスニング・スピーキング演習III (日本語) リスニング・スピーキング演習IV (日本語)	1前 1後 2前 2後	4 4 2 2	2 2 1 1	筑波大学留学生支援 センター 非常勤講師 (平成27.3まで)	
77	兼任	講師	コンノ リョウ 今野 亮 ＜平成29年4月＞		修士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ健康科学実技IA スポーツ健康科学実技IB スポーツ健康科学実技IIA スポーツ健康科学実技IIB スポーツ健康科学実技IIIA スポーツ健康科学実技IIIB スポーツ健康科学講義I	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 講師 (平23.4)	
78	兼任	講師	タナベ マコト 田邊 誠 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)		情報連携のための物理学A 情報連携のための物理学B	1・2①・② 1・2③・④	4 4	2 2	早稲田大学先進理工 学部 非常勤講師 (平成21年.4)	
79	兼任	講師	ムスタツェア アレク ムスタツェア アレ サンドラ クサンドラ ＜平成29年4月＞		博士 (人文学) (ルーマニ ア)		Japanese Reading and Composition I Japanese Reading and Composition II Japanese Listening Comprehension I Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学 国際教育センター 講師 (平28.4)	
80	兼任	講師	アイ ヒサトシ 相 尚寿 ＜平成30年4月＞		博士 (工学)		情報連携シビルシステム演習 I	2通	2	1	首都大学東京都市環 境学部 助教 (平成24.10)	
81	兼任	講師	イワサキ ダイ 岩崎 大 ＜平成29年4月＞		博士 (文学)		全学総合IA 全学総合IB	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学 文学部 講師 (平25.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(情報連携学部 情報連携学科)												
調 書 番 号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
82	兼任	講師	ハラ レイラ 原 怜来 ＜平成29年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		スポーツ健康科学実技ⅠA スポーツ健康科学実技ⅠB スポーツ健康科学実技ⅡA スポーツ健康科学実技ⅡB スポーツ健康科学実技ⅢA スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学 法学部 講師 (平27.4)	

- (注)
- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	2人	8人	2人	4人	人	16人	準学士
	修 士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
准教授	博 士	人	2人	8人	人	人	人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	2人	2人	1人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	5人	1人	人	人	人	人	6人	
	修 士	人	2人	人	人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	7人	11人	8人	2人	4人	人	32人	準学士
	修 士	人	4人	2人	2人	1人	人	人	9人	
	学 士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	1人	人	1人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

① 設置の趣旨及び必要性	・・・p. 1
② 学部・学科等の特色	・・・p. 3
③ 学部，学科等の名称及び学位の名称	・・・p. 5
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	・・・p. 6
⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色	・・・p. 7
⑥ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件	・・・p. 9
⑦ 施設、設備の整備計画	・・・p. 10
⑧ 入学者選抜の概要	・・・p. 12
⑨ 管理運営	・・・p. 14
⑩ 自己点検・評価	・・・p. 15
⑪ 情報の公表	・・・p. 16
⑫ 教育内容などの改善を図るための組織的な研修等	・・・p. 19
⑬ 社会的・職業的自立に関する指導及び体制	・・・p. 20

設置の趣旨等を記載した書類

① 設置の趣旨及び必要性

ア 設置の趣旨及び必要性

本学は、明治 20 年に哲学者 井上円了が創設した「私立哲学館」によりその歴史が始まり、昭和 22 年の学校教育法施行により昭和 24 年に文学部を設置し東洋大学として発足、その後の昭和 25 年に経済学部、昭和 31 年に法学部、昭和 34 年に社会学部、昭和 36 年に工学部（平成 21 年に改組し、現在は「理工学部」）、昭和 41 年に経営学部、平成 9 年に国際地域学部と生命科学部、平成 17 年にライフデザイン学部、平成 21 年に総合情報学部、平成 23 年に食環境科学部を設置するなど、社会を先導すべく学問分野の開拓を進めてきており、現在では 11 学部を擁する総合大学である。2012 年に創立 125 周年を迎え「国際化」と「キャリア教育」、「哲学教育」を 3 つの柱と位置づけ、時代や環境の変化に対応し、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財（人という財産）」を育成している。

平成 26 年 9 月には、「スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B）」に採択され、その採択事業である「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の一環として、構想調書にて記載した社会の中核を担う「東洋グローバルリーダー」及び世界の舞台で先端的な役割を担う「ニューエリート」を育成するために、新たに情報連携学部を設置するものである。

情報連携学部は、従来の学問領域を超えた分野で横断的にイノベーションを起こすことが重要であるとの認識のもと、システム間、組織間、分野間の「情報」を通した「連携」のあり方を学問として探求し、世界に対して新しい価値を生み出していくことを目指して設置することにした。そして、その実現のために高度な専門知識とスキルを併せ持ち社会発展に貢献するニューエリートの育成を目指す。

近年、インターネットの普及により、世の中の全てが ICT（情報通信技術）をベースに動いており、本学でも幅広い産業分野や人間的な営みに情報通信技術を的確に応用させるべく、平成 21 年度にいち早く総合情報学部を設置し、情報の創り手・使い手を育成してきた。ここでは、独立した「個人」を尊重し、安心と一体感が感じられる「育てる教育」により、丁寧に情報のスペシャリストを育て、ICT の世界で必要とされる人材を輩出する一翼を担ってきた。そして、今、「個人」から「連携」へ、「育てる教育」から「自分で学ぶ」へと切り口を変えることで、目まぐるしく変化する情報社会に、今までとは違う方向からアプローチできる人材を育成しようと、情報連携学部の設置を構想した。「情報」という同じキーワードではあるが、総合情報学部では情報分野を「システム情報（コース）」「スポーツ情報（コース）」「メディア文化（コース）」の 3 つの専門分野における情報の総合化を指向するのに対して、情報連携学部ではメタレベルでの学際領域を「連携」することで社会にイノベーションを起こすことができる能力の獲得と、新たな課題に取り組む意欲の醸成を実現し、東洋大学として多様性のある人材育成を目指す。

情報通信分野の技術・研究開発の傾向は、多様なシステムを「連携」させてすばやく新

たなシステムを構築することが主流になりつつあり、更に、コンピュータ技術、造形デザイン、機械設計、インフラ設計、制度設計だけでなく、財務、法務、社会、福祉、国際といった従来の学問・研究分野の枠を超えたメタレベルの学際領域で全体を捉えることが重要になっている。これらの傾向を踏まえて、情報連携学部ではコンピュータ・サイエンスをベースとして、他分野と連携して新しいビジネスモデルや新しい考え方を生み出す力を育てることが必須であると考えている。例えば、ビッグデータ解析やディープラーニングなどの ICT を駆使して、蓄積された情報を素早く解析し、そこから知識を獲得し、それを基に意思決定を行うことが求められており、データ分析・解析には ICT の知識が必要だが、経済の仕組みを知って上手く「連携」しなければ、決断を下すことができない。

ネットワークとそれが可能にするオープンネスを中心に世界が大きく変わり、社会の変化のスピードがますます加速し続けている中、そこで戦えるネットワーク時代の新しい人材を育成することは急務である。情報連携学部では今までの教育を ICT ベースで組み直すことで時代に対応し、変化し続ける社会に対峙し得る学生の育成を目指したい。また、本学の強みである実践的哲学を基盤とし、社会や経済の仕組みを理解出来る厚みのある人間性を醸成する機会を提供したい。

これら、情報連携学部が目指しているものは、「東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成する」という本学学士課程の目的とも合致するものである（東洋大学学則第2条）。また、大学改革（グローバル化）を飛躍的に推進させるとともに、本学に期待されている社会からの要請にさらに積極的に応えるため、また、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の実現のためには、必要不可欠なものである。

イ 養成する人材像、教育上の目的

情報連携学部では、コンピュータ・サイエンス教育を基盤とし、チームを組んで、コンピュータを使いこなし、情報を通して連携し、素早くアイデアを形にできるような人材を養成することを目的とする。そのために、一人でゼロから始めるのではなく、様々な人々とシステムを連携させ、情報分野の専門スキル、グローバルなコミュニケーション能力、チームで問題解決する能力を修得させる。

近年、大学教育においてもキャリア教育の充実が求められるようになり、社会に出た後も継続的に必要となる、創造力、言語力、読解力、判断力、協調性などのパーソナルスキルを大学在学中に高めておく必要がある。特に ICT 業界においては、質および量の双方からの人材不足が叫ばれていることから、情報通信技術の専門知識を有していることはもちろんのこと、加えてプロジェクトマネジメント力、企画力、交渉力、説得力、迅速性といった能力が強く求められている。本学部では、チームで問題解決にあたるプロジェクト型の教育を重視し、企業の求める能力の養成を図るとともに、企業との教育連携を推進して、学生の即戦力化を目指すため、これらの能力も無理なく身に付けることができる。

本学部の卒業生は、情報通信技術分野の多岐に亘る専門的な知識を系統立てて学ぶことによって、新しいビジネスをインキュベーションする能力、民生や公共システムを新構築する能力、情報サービス分野を web デザイン・工業意匠等とともに革新する能力、エンジニアとして情報連携を支えて新しいプラットフォームを創造する能力などを発揮し、主導的な立場で社会を担うことが期待される。

総合情報学部では、既に幅広く多様な職種への就職に実績をあげている。本学部では多様な職域を横断する人材として幅広い分野の企業や官公庁への就職をめざす。パーソナルスキルと専門的なスキルを身につけた卒業生の活躍の場として具体的に想定されるのは、情報システムベンダー企業、情報システムユーザー企業、官公庁系組織のほか、本学部と協力関係となるベンチャー企業などがある。また、英語による教育を充実させることで、既にグローバル化を実現している企業への就職にも障壁がなくなる。

さらには本学部の教育に影響を受け新しく起業したり、研究を深めるため大学院へ進学する学生がでてくる事も当然想定される。

ウ 中心的な学問分野

研究対象とする学問分野は、コンピュータ・サイエンス、エンジニアリング、デザイン、インフラ等に関わる工学領域と、そのコンピュータが今日の社会では大きな基盤となっているビジネス等に関わる経済学領域とする。

この全体をまとめ共通の目的に一丸となって向かうための新たな連携の方法を組織をあげてとりくみたい。これを情報連携学という形にまとめあげる事はイノベーションを起こし続けなければならない我が国にとっても重要なことと考えている。

情報連携学部においては、ビジネス分野、シビルシステム分野、エンジニアリング分野、デザイン分野の 4 つの専門分野と、それら全ての基盤となる情報基礎技術であるプログラミングを学ぶが、努力や勤勉だけでこれら専門分野の知識を習得しても、イノベーションを起こすことは非常に難しい。「諸学の基礎は哲学にあり」という本学の建学の精神を通し、ICT 時代の新しい「考え方」の基盤となる情報化時代における哲学を構築し、イノベーションを起こすに必要な、何度でも挑む力の必要性和その為の哲学的背景の重要性にも気づかせたい。

② 学部・学科等の特色

ICT が果てしなく複雑かつ膨大なデータと多様なシステムを扱うようになった今、新しいものを生み出すために、全てを一人で実現しようとする、莫大なコストと時間がかかる。逆に高度に完成された既存のプログラムやシステムが多数オープンに利用できるようになっており、それらをうまく組み合わせられれば、アイデアを素早く形にすることが可能である。低コストでアイデアを素早く形にできれば、それだけ多数回のトライアルができ、より革新的なアイデアを、より良い形で社会に提供してイノベーションを実現するこ

とが可能となる。

そのようにネットワークによるシステムの「連携」を利用して、イノベーションを実現するために必要なのが、人間的「連携」の能力である。米国で成功した少人数によるスタートアップを分析しても、全方位で天才的な個人ではなく、ビジネスやデザインや技術に秀でた人材がコンピュータ・サイエンスの素養をベースとして人間的に連携し、そのチームがインターネットを介してのシステム連携やクラウド・ファンディングやクラウド・ソーシング等を利用し、アイデアを実現し社会に出しているケースが多く見受けられる。最初にチームありきという意味で、「連携」というキーワードを実現するためには、まずはコミュニケーション力が必須である。異なる専門、多様な国籍、様々なバックグラウンドを持つ者同士で、共同で課題解決にあたるには、専門が異なる者同士でもコミュニケーションが取れること—そのために必要な実践的な英語力と、異文化コミュニケーションを含む相互理解という哲学に根ざした人間的教育の深化が必要である。実践的哲学を含む教養を身につけつつ、3年次以降は社会への出口を意識したケーススタディ重視のコンセプトワークの授業を行う。また、多くの教科ではインターネットを活用した授業による知識伝達と教室での演習と討論による知識理解を組み合わせた方式を基本として学生一人ひとりの理解度を把握した指導を行い、学習を助ける。

情報連携学部には、直接的には理工系以外の分野であるビジネスやデザイン分野も含むが、ICTの基礎となるプログラミングを、読み書き算数と同様に特別な専門ではなく、当たり前の素養としてマスターすることが絶対的に必要であると考えている。そのプログラミングの技術とコンピュータ・サイエンスを土台に「情報連携ビジネス」「情報連携シビルシステム」「情報連携エンジニアリング」「情報連携デザイン」の4つのコースを設け、「連携」することでイノベーションを容易にする実践的・専門的な知識とスキルを習得する。以下に各コースの特色を述べる。

<情報連携ビジネス>

ビジネス・インキュベーション、データ・サイエンス分野を中心に、マネージメント、マーケティング、経営戦略などを学び、現在世界的にも注目されているデータに基づいた新しい経営を身につけた新しいビジネスモデルを構築できるマネージャー人材の養成を目指す。

<情報連携シビルシステム>

インフラ・サービスやクオリティ・オブ・ライフなど、実社会で直面している公共性の高い問題解決につながるような視点から情報連携を考える。環境や高齢者社会、エネルギーなど、制度面から連携を支え、新しい情報サービスの社会への出口を確保し、また連携による新しい公共をシステムとして構築できるコーディネーター人材の養成を目指す。

<情報連携エンジニアリング>

コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ネットワークという基幹重要分野を軸として、ソフトウェア・エンジニアリング、ユビキタス・コンピューティング、IoT(インターネット・オブ・シングス)さらには、データベースの構築、モバイルの開発、web 開発などが出来るエンジニアとして、技術面から連携を支え、新しい情報サービスを具体化できる人材の養成を目指す。

<情報連携デザイン>

デジタル・デザイン、ユーザ・エクスペリエンス・デザインなどを中心に学び、3D プリンタ等の最先端のツールを使いこなし情報サービス分野を web デザイン・工業意匠等とともに革新する能力を育成し、消費者が使ってみたいと思えるようなデザインを創造する力で連携を支え、新しい情報サービスや製品を具体化できる人材の養成を目指す。

これらの各コースからの学生数人ずつでチームを構成し、在学期間をとおして特質ある個人が協力して問題解決にあたることによって、ネットワーク指向の「協働力」を身に付けさせる。これにより、在学中の資格取得やインターン制度など、実践的な事項にも積極的な姿勢で臨めることが出来るようになる。

また、各コースの専門教育の質を担保するために、標準カリキュラムを設定し、教員力量に左右されず客観的に見ても同等と判断されるような卒業生の「質」を保つ。米国の学会が主導し、グローバルスタンダードとなっている最新版のガイドラインである IEEE/ACM の Curricula Recommendation に準拠させる。

③ 学部、学科等の名称及び学位の名称

近年の情報通信の技術分野での研究開発では、多様な既存システムを「連携」してマッシュアップすることで、素早くシステムを実現する方法が主流となっている。それに反して、日本では自己完結とギャランティの考え方から脱却できておらず、世界から遅れを取っているのが現状である。「情報」にかかわるオープンな「連携」こそが新しいイノベーションを生み出し、グローバル化した時代に必要なキーワードとなる。

以上のことから、学部・学科名称は、教育研究上の目的と特色を最も的確に表現する「情報連携学部」(英訳名称: Faculty of Information Networking for Innovation and Design)、「情報連携学科」(英訳名称: Department of Information Networking for Innovation and Design)とし、学位名称を学士(情報連携学)(英訳名称: Bachelor of Information Networking for Innovation and Design)とする。

このように情報連携学部、及び情報連携学科の名称は大学として適当であるとともに、学部の教育研究上の目的としてふさわしいものであり(大学設置基準 40 条の 4)、また、授与する学位には、適切な専攻分野の名称を付記している(学位規則第 10 条)。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程編成の基本方針

情報連携学部教育課程は、学術の中心としての大学を意識し、「広く知識を受けるとともに、深く専門の学芸を教育研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的」(学校教育法第 83 条)とし、今までの東洋大学での教育方法を踏襲するだけではなく、時代にあった斬新で魅力的な試みを多く取り入れて構成される。大別すると基盤教育、情報連携学基盤科目、コミュニケーション科目、専門科目、演習・実習の 5 つからなり、必要に応じて必修科目、選択必修科目、選択科目を設け、各年次に配置する。

基盤教育は大学生としての社会人基礎力を養う科目群であり、情報連携学基盤科目では情報連携学の導入と全体像を学ぶことが出来る。コミュニケーション科目は日本語を母語とする者には英語を、日本語以外を母語とする者には日本語で実施し、「読む」「書く」「聴く」「話す」コミュニケーション能力を高める。専門科目では、1 年次において、情報連携基礎科目を必修として、社会を支える共通基盤としてのコンピュータ・サイエンスの基礎について全員が学び、2 年次からは「情報連携ビジネス」「情報連携シビルシステム」「情報連携エンジニアリング」「情報連携デザイン」の 4 コースに分かれ専門性を身に付ける。演習・実習はいずれも 35 名程度のクラス編成とし、演習では、1 年次で基礎的なプログラミングスキルを、2 年次からは前述の 4 コース毎に専門知識を深め、実習ではチームを組み共通の課題に取り組む。特に、3 年次ではコースを横断してチームを編成し、起業の擬似スタートアップ型の実地経験を用意する。

イ 教育課程及び科目区分の編成

以下に教育課程の区分ごとに内容と特色などの説明を記す。

(1) 基盤教育

基盤教育は、「哲学・思想」、「経済・金融」、「国際人の形成」、「キャリア・健康」、「総合・学際」の 5 分野と、英語圏への留学を目指す学生向けの「英語特別教育科目」と日本語以外を母語とする留学生向けの「日本語科目」からなる「留学支援」で構成される。哲学を基盤にもつ本学の教養教育の伝統に基づき、市民として持つべき共通の知識、共通の価値観を涵養するように配慮し、幅広い科目を設置して在学期間を通して社会人基礎力、人間力を向上させることが出来るように準備する。

(2) 情報連携学基盤科目

情報連携学基盤科目には、基盤科目群と分野別科目群を配し、情報連携学の全体像、情報連携学を理解するために必要な基礎的な教養、4 つの分野の概要について学び、自分の専門分野を選択し、情報連携学を深く学問するための最初のステップとなる科目を設けている。

(3)コミュニケーション科目

日本語を母語とする者には英語の基礎と応用を、また、日本語以外を母語とする者には日本語の基礎と応用を1年次に必修で徹底的に学ばせ、2年次にはその上級クラスを選択で追加履修できるように配置する。学生が受身に授業を受けるのではなく、語学であっても自宅学習を前提とした反転授業を行い、「読む」「書く」「聴く」「話す」をバランス良く身に付けさせる。

(4)専門科目

専門科目は情報連携学の多様な専門分野を4つに系統立ててコースを設定する。それぞれのコースは「情報連携ビジネス」、「情報連携シビルシステム」、「情報連携エンジニアリング」、「情報連携デザイン」とし、1年次では全ての学生が身につける必要のあるコンピュータ・サイエンス関係の基礎科目を受講させる。また、2年次から3年次はコースに対応した科目を必修とし、4年次では、4年間の学習のまとめとなり、かつ、将来の応用に資する授業を8つのテーマの下に開講する。履修コース毎に2つのテーマが配置され、履修コース以外のものも選択することが可能である。

(5)演習・実習科目

1年次は情報連携基礎演習として通年でプログラミングを全員が履修する。情報連携応用演習は履修コース毎に分かれ、2年次から3年次へと段階を踏んで、実践的なスキルの習得をはかる。一方、情報連携実習では、1年次はコースに関係なくプレゼンテーションなどの実習を行い、2年次にはコース内で、3年次にはコースを横断してチームを作り繰り返しプロジェクト型の実習を行う。4年次では、教員の研究室に配属し、自身の身につけた専門分野における研究の最先端に触れながら、卒業研究を実施する。

ウ 教育課程の特色

1年次では、全ての学生がプログラミングと語学（英語・日本語）によるコミュニケーションを集中的に学び、情報連携の素地を身に付ける。2年次からはそれぞれ2つの研究分野からなる4つのコースに分かれ、専門的な知識を学び、実践的な演習・実習を通じて応用力と連携のスキルを習得する。また、各コースの専門性を活かしつつ、コース横断のチームで擬似スタートアップ型の実習を行う。これらの課程を通じて、自分と違う国籍・考え・技術を持った仲間との連携の重要性に気づき、社会での働き方を見越した専門性を身に付けることが出来る科目配置になっている。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

情報連携学部では、開設予定の平成29年度から31年度にかけて43名の専任教員を採用し、配置する予定である。専任教員の内、約74%が博士の学位を取得しており、学位分野

からは工学寄りにも見えるが、中には、クオリティ・オブ・ライフやビジネス・インキューベーションを専門とする教員、実務家として長年企業の経営に携わってきた教員、あるいは公認会計士の資格を持っている教員も含まれている。また、デジタル・デザイン分野については、その分野の特性から実務実績を重視し博士の学位を有さないがデザインの分野では国際的にも評価の高い教員を配置している。

教員組織の編成においては、学部「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに 授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く」(大学設置基準第 7 条第 1 項) ことを原則にしている。本学部の専任教員数は、大学設置基準第 13 条の別表 1 に定める専任教員数を充足するとともに、同別表第 2 の専任教員数についても、大学全体で充足している。また、「教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮」(大学設置基準第 7 条第 3 項) し、30 代、40 代、50 代、60 代の各年代にバランスよく配置し、これを維持していく方針である。

内訳は以下の通りである。

・ 共通分野 (10 名) :

教授 (60 代) 1 名・(50 代) 1 名

准教授 (40 代) 1 名・(30 代) 1 名

講師 (40 代) 3 名・(30 代) 2 名

助教 (30 代) 1 名

・ 専門分野 (33 名) :

教授 (60 代) 5 名・(50 代) 9 名・(40 代) 4 名

准教授 (40 代) 4 名・(30 代) 4 名

助教 (30 代) 5 名・(20 代) 2 名

学部全体では、60 代 6 名、50 代 10 名、40 代 12 名、30 代 13 名、20 代 2 名

本学の教員の定年は「学校法人東洋大学教職員定年規程」において 65 歳と定められているが、年俸制雇用契約制度においては 70 歳、または情報連携学部及び情報連携学研究科特別教員に関する要項においては 72 歳まで引き続き専任教員として雇用することができる。これは教育評価が高く、心身ともに健康で、かつ本学が必要とする場合に限定しており、本学部の完成年度までに該当する教員は 4 名いるが、いずれも、国内外において非常に評価の高い研究者等であり、学生の教育研究指導のみならず、後進の育成にも不可欠な人材である。退職後には速やかに後任となる教員の補充を行い、教員組織は常にバランスが保たれることとなる。さらに、「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」(大学設置基準第 7 条第 2 項)、学部長を置き、学部内に各種委員会等を設置することになっている。

本学部の教員には特別教員と呼ばれる専任教員が教授と准教授において採用される。特別教員は、週三日程度の勤務で、担当科目数は通常の教授・准教授の半分としているが、いずれも高い専門性を有する教員であり、他の教員と同様、学部の運営や学生の研究教育

指導にあたる。また、本学以外の実務や研究の現場で、違う角度から新しい情報や知見を得られることから、それらを活かして常にアップデートされた授業の提供や研究助言が期待できる。

【資料 01】 学校法人東洋大学教職員定年規程

【資料 02】 年俸契約雇用制度に関する要綱

【資料 03】 情報連携学部及び情報連携学研究科特別教員に関する要項

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法

新設する情報連携学部においては「卒業要件としては 124 単位以上」(大学設置基準第 32 条)を修得することとしている。また、教育を基盤教育、情報連携学基盤科目、コミュニケーション科目、専門科目、演習・実習の 5 つに大別し、専門科目には情報連携基礎科目と情報連携応用科目を、そして演習・実習には情報連携基礎演習、情報連携応用演習、情報連携実習、卒業論文の 4 つに区分し、それぞれの必要単位数を設けている。

授業科目は講義科目、実習科目、演習科目を組み合わせ、また、MOOC を活用した反転型教育を多用することで、従来にないアクティブラーニングを可能にし、組織的で講義内容を把握、共有し、各授業間の格差をなくすることが期待される。

各授業の学生数は、教育効果が十分あげられるように、講義科目の内容に則して柔軟に設定し、実習・演習においてはチーム制を設ける。

履修期間については、一年を春学期・夏学期・秋学期・冬学期の 4 つに分けるクォーター制とし、学力を集中的に鍛え、海外大学の学年暦との協調性に配慮する。また、短期集中の方が受講しやすい社会人にも利用しやすく、モチベーションの維持にも繋がると考えられる。

イ 履修指導方法

1 年次では本学の建学の精神につながる哲学と思想を含む、学問の基礎について広く学び、また、専門科目においてはプログラミングを中心に情報連携学の概論を履修する。同時に、この時期にコミュニケーション科目として英語の授業に力を入れ、2 年次以降には英語の教材を問題なく理解し、日本語を母語としない外国人ともディスカッションを深められるような力を養うことを目標とする。

2 年次以降は、4 つのコース(情報連携ビジネス、情報連携シビルシステム、情報連携エンジニアリング、情報連携デザイン)それぞれの応用科目が始まり、より専門性を意識した履修へと重点が移る。

1 年次から情報連携実習を始め、その集大成として 4 年次では何らかのサービスの立ち上げや、クラウド・ファンディングへの製品提供を行うなど、実践的な演習に力を入れる。

具体的な履修指導方法については、全学的に従来から行ってきた新入生教育時における履修ガイダンス、キャリアガイダンスを本学部でも実施し、大学における学習が高校までといかに違うかを十分に理解させた上で、大学での学習と将来設計とを結び付けて間違いないように履修するよう指導を行う。この際には、履修モデルを提示するなどして、学生が入学から卒業までの全体像を具体的に思い描くことができるように工夫する。（資料 2 履修モデル）また、学生が自らの特性を理解し、各自の目標を設定し、学修に邁進することが出来るよう、各教員はオフィスアワーを設定し、その時間を公表して、随時指導及び支援を行う。

ウ 卒業要件

卒業要件としては「124 単位以上を習得する」（大学設置基準第 32 条）こととし、分野ごとの必須単位は次のように定める。

①基盤教育科目は哲学・思想から 6 単位以上、経済・金融から 4 単位以上を修得し、情報連携学基盤科目は必修科目 2 単位を含む 10 単位以上を修得すること。

②専門科目のうち情報連携応用科目は、指定された科目 24 単位を含む 36 単位以上を修得すること。

③演習・実習のうち情報連携応用演習は、指定された科目 16 単位以上を修得すること。

④コミュニケーション科目は、日本語を母語とする学生は英語科目の、それ以外の留学生を主とする学生は日本語科目の、それぞれ 12 単位以上を修得すること。

なお、履修科目の登録の上限は、年間 48 単位とする。これは、学生が学修すべき科目を精選し、自宅での予習復習を含めてその科目を真に理解し、知識を身に付けるに十分な時間を確保すること、また、正課外活動として人間形成に必要な社会貢献やサークル活動などの時間を確保すること、そして、過度に偏った履修を抑止し在学中にバランスよく授業を受けることで学習効果を高めることなどを観点とするものである。

【資料 04】履修モデル

⑦ 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

情報連携学部が設置される赤羽台キャンパスは、JR 赤羽駅から約 300m の都市型キャンパスである。校地面積が 20,042.92 m²、校舎面積が 17,156.95 m²で、大学設置基準第三十七条の二に定める校舎面積の基準を十分満たしている。教室数は、小教室（35 名以下）が 25 室、中教室（60～80 名）が 10 室、大教室（100 名以上）が 4 室設置される。また、通常教室の他にも、多目的室、機器室、工作室等があり、2 年次に選択するコースによって利用する施設となっている。

敷地内には学内関係者だけではなく、様々な人々に開放するコミュニティースペースを

設置し、また、防災広場としても機能させる。建物側面はステンレスメッシュにプランターボックスを配した緑化壁面とすることで、周辺環境に対する圧迫感を低減する。赤羽台キャンパス全体で、省エネルギー・省資源を実現し、維持管理費や CO2 排出を低減し、環境に負荷を与えない工夫を積極的に取り入れる。

運動場は赤羽台キャンパスの中には設置せず、東京都板橋区清水町の東洋大学総合スポーツセンター（校地面積 16,964.70 m² 校舎面積 1,157.72 m²）を利用する。この東洋大学総合スポーツセンターは、アリーナ、屋内プール、人工芝のグラウンドからなり、路線バスを使用した場合も、列車を使用した場合も、赤羽台キャンパスからの移動時間はいずれも 20 分程度で、スポーツセンター使用料を学生が負担することはない。都内の各キャンパス（赤羽台キャンパスと白山キャンパス）でそれぞれが広大な運動場を整備するよりも、総合スポーツセンターに集約して最新の設備を導入し、さまざまな運動を質の高い空間で実施することで、体力維持や運動能力の向上、リフレッシュメントに高い効果を上げることができる。

赤羽台キャンパスの屋内には、メディアセンター（図書館）、食堂、カフェ、共用スペースを配し、また、屋外には植栽帯を含むオープンスペースを十分確保し、学生がリラックスした雰囲気の中で交流や休憩が出来るようになっている。

イ 校舎等施設の整備計画

情報連携学部では、在学期間を通して機能する少人数のチームを最小ユニットとして行動するため、レンタルオフィスに準拠する多数のチームオフィスを配置する。反転授業とクラウド教育には巨大教室は必要ではなく、大型ディスプレイとネットワーク環境、遠隔カメラとマイクが設置された実習室を十分確保することが重要であり、収容人数の多い講義室をいくつも用意する必要性はない。

ICT 基本インフラを整備することで、赤羽台キャンパス全域で無制限無線 LAN の利用を可能とし、教育用クラウドを使用して、受講、資料入手、演習、レポート作成、プログラム開発、デザイン制作、ファイル共有など、多様なチーム連携活動をサポートする。ただし、クラウド化できない工作実習、プレゼン用試作品作りなどのために、3D プリンタ、工作機械、測定機械を備えた共同利用設備は設置する。

また、専任教員の研究室については、十分な数を有しており、個別の部屋を設けることでオフィスアワーを設定し、学生が自由に学習等の相談ができる環境を確保している。また、教室及び研究室以外にも、情報連携学部で導入する反転授業の教材等を作成するためのスタジオ、学生生活をサポートする医務室や学生相談室、食堂やコンビニエンスストア、サークル活動で利用する部室、赤羽台キャンパスの運営を行う事務室等を設置する。さらに、情報連携学部は入学定員が 400 名という比較的大規模な学部であり、一括した講義やガイダンスのためには講堂が整備される。

【資料 05】赤羽台キャンパス教室稼働率

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

東洋大学に既存する白山キャンパス、朝霞キャンパス、板倉キャンパス及び川越キャンパスにそれぞれ図書館が整備されており、各キャンパス間を毎日巡回しているシャトル便によって、早い場合は希望した翌日に図書を取り寄せることができ、赤羽台キャンパスにしながら他キャンパスの図書館蔵書図書を有効に利用することが可能である。全キャンパスの図書館の蔵書数は、合計で 150 万冊（平成 27 年 3 月 31 日現在）を超えており、学際的な領域を扱う情報連携学部にとって、これらの蔵書は、教育・研究上、非常に有効な資源である。なお、今回の情報連携学部の完成年度には 170 万冊を超える蔵書数になる予定である。

これらの図書および雑誌等の資料は、本学の蔵書検索システム(OPAC)で学内はもとより学外からも検索することが可能であるとともに、他キャンパス図書館資料の取り寄せ申し込みおよび予約も可能である。さらに国立情報学研究所(NII)が提供している NACSIS Webcat により総合目録データベースの情報検索が可能であり、相互貸借システムである NACSIS ILL により他大学図書館および他機関の文献複写や図書資料の取寄せも充実している。さらに利用者に最新の情報を速やかに提供するために、毎年、データベース・電子ジャーナルの充実・整備を図っており、ホームページを通して図書館内はもちろん、各教員の研究室などネットの環境が整備されている場所から利用できる。大学図書館コンソーシアム連合(Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources : JUSTICE)に加入し、電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保することに努めている。

赤羽台キャンパスでは、既存の図書館とは一線を画し、メディアセンターとして、主にオンラインで図書を閲覧することが出来るため、冊子体の蔵書を他キャンパスと同等に増やしていく予定はないが、電子ジャーナルや eBook の充実を目指している。

⑧ 入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、「高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者」(学校教育法第 56 条)としている。また、入学者の選抜では、「公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする」(大学設置基準第 2 条の 2)に従う。

18 歳人口が減少を続け、大学全入時代となった中で、情報連携学部では ICT を軸として世界を相手に戦えるネットワーク時代の新しい人材の育成を標榜し、情報連携学という新しい考え方をビジネス、シビルシステム、エンジニアリング、デザインの幅広い領域を総合的に連携する学問として教育・研究する。そして、そこで実践力を身につけた質の高い卒業生を送り出すためには、入学者の選抜においても、学業成績はもちろんのこと、学習意欲が高く目的意識が明確な学生を確保しなければならない。また、学際的な領域を修め

するためには、単なる学力だけでなく、モラルや人間性、バランス感覚に優れている学生を求めたい。

本学部のアドミッションポリシーは以下の通りである。

1. 情報通信技術が社会を変えていくこと、ネット社会で生活することに共感し、そのことに自身に関わることに興味と意欲をもつ人材を求める。
2. 様々な価値観や興味、生まれ持った国籍など、社会にある多様性を認め、他者との関わりの中で、自分の存在価値を認め、また高められる人材を求める。
3. 失敗を恐れず、何にでも前向きに何回でも取り組める人材を求める

このような観点から、学力試験を含め多様な選抜方法が必要とされ、以下のような複数の選抜方法を採用することとする。

1. 本学独自の入学試験
2. 大学センター試験を利用した入学試験
3. AO 型入学試験
4. 推薦入学試験（附属高校、指定校など）
5. 海外帰国生入試
6. 外国人留学生入試 等

本学独自の入学試験においては、複数の教科においてバランスよく得点できる人材を求めることとする。これとは別に、英語の試験は、TOEIC、TOEFL、英検などの外部試験の活用を実施し、大学入試だけを目的とする英語力ではなく、グローバル化に対応できる英語力を有する学生の獲得につなげる。大学入試センター試験を利用した入学試験は、大学入試センター試験の得点により選抜する。受験の負担を軽減することで、本学部の考え方に共鳴する受験生を全国から集めることを目的として実施する。AO 型入試では、テーマを決めて発表する形式と、実績をアピールする形式を併用し、多様で幅広い可能性を持った学生を選抜する。推薦入学試験については、情報連携学部に特段の興味を有し、かつ素養がある者について試験を行い、本学部に相応しい人材を選抜する。また、海外帰国生入試と外国人留学生入試を実施することで、国籍にこだわることなく多彩な経験を持った学生を受け入れる。

情報連携学部が目指す教育研究活動は、学問領域としては新しい取り組みであり、いかに認知度を上げるかが課題となる。そこで、より広い地域へ情報を発信するため、また、優れた資質を持った学生を全国に求めるべく、大学のキャンパスも含め全国で 20 以上の試験会場を設け、選抜試験を行う予定である。

なお、入学者選抜の前段階として、情報連携学部を理解してもらうために、オープンキャンパスや“学び” LIVE（授業体験）など、本学で実施しているイベントを通して教育研

究の理念や内容などの情報を発信していく。この際、本学部 of 教育研究内容を正しく理解してもらうため、例えば実際にその場でプログラムを書き換え、機械の制御を行う実演や、チームでのサービス開発の事例紹介などを行い、志願者に正確に伝えるようにする。

⑨ 管理運営

「東洋大学学則」第 12 条の規程により、学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を設置している。教授会は、当該学部の専任の教授を持って組織する。また、必要に応じて准教授、その他の教員及び職員を加えることができる。原則月 1 回の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催する。また、教授会に代えて代議員会を開催し、機動的に学部の意思を決定することができる。

学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには会員の 3 分の 2 以上の出席がなければこれを開くことができない。なお、教授会の議題は、以下のとおりである。

(1) 学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項

- ・ 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ・ 学位の授与に関する事項
- ・ 学則の改正に関する事項
- ・ 学部長会議規程の制定改廃に関する事項
- ・ 教授会規程の制定改廃に関する事項
- ・ 学長が意見を求めるとした、諸規程の制定改廃に関する事項
- ・ 附属高校との連携に関する事項
- ・ 全学にかかわる教育研究に関する事項
- ・ 全学にかかわる教員人事に関する事項
- ・ 学生の異動および処分に関する事項
- ・ その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が求める事項

(2) 当該学部の運営に関する事項

- ・ 学部長の推薦に関する事項
- ・ 中期目標・中期計画の推進に関する事項
- ・ 教育研究上の目的に関する事項
- ・ 学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの各方針に関する事項
- ・ カリキュラム編成に関する事項
- ・ 教員人事に関する事項（資格審査基準内規、昇格及び採用に係わる教育研究業績の審査、退職、処分、役職者の選出、名誉教授の推薦）
- ・ 学生生活に関する事項

- ・ハラスメント防止に関する事項
- ・研究力向上に関する事項
- ・研究規範遵守に関する事項
- ・教育力向上に関する事項
- ・哲学教育の推進に関する事項
- ・キャリア教育の推進に関する事項
- ・国際化の推進に関する事項
- ・FD推進に関する事項
- ・自己点検・評価に関する事項
- ・産官学連携の推進に関する事項
- ・社会貢献推進に関する事項
- ・その他、学部長が必要と認める事項

⑩ 自己点検・評価

本学では、学校教育法第 109 条に対応して、東洋大学学則第 3 条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と定めている。

平成 7 年度に「東洋大学自己点検・評価基本構想委員会」のもと、全学的な自己点検・評価活動を実施し、その結果をもって大学基準協会の第 1 回の相互評価を受審して、認定評価を受けることができた。その後、同委員会を「東洋大学自己点検・評価委員会」に改編するとともに、各学部・研究科にも自己点検・評価委員会を設置することで、全学的な自己点検・評価のみではなく、各学部・研究科のレベルにおいても自己点検・評価活動が定着している。

平成 19 年度には、大学基準協会による第 1 期の認証評価を受審した。受審に際しては、「大学評価統括本部」を設置して全学的な自己点検・評価を推し進め、平成 20 年 3 月には「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。なお、この際に指摘された助言 12 項目と、受審の際に完成年度を迎えていなかった学部・研究科の状況については、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて改善状況・完成状況の自己点検・評価を行い、「改善報告書」「完成報告書」として平成 23 年 7 月に大学基準協会に提出した。これらの自己点検・評価の結果等については、学外に向けて公表されている。

さらに平成 23 年度からは、従来の「東洋大学自己点検・評価委員会」を発展的に解消し、新たに「東洋大学自己点検・評価活動推進委員会」を設置した。同委員会は、副学長を委員長として、各学部・各研究科の自己点検・評価に係る委員会の委員長、教務部長、学生部長により構成され、本学全体及び各部署の自己点検・評価活動を支援するための方策、指針の決定や、本学各部署の自己点検・評価活動の検証を行うこととしている。

この体制のもとで、平成 23 年度からは、「学科・専攻等における自己点検・評価の実施

ガイドライン」を定め、全学科全専攻において、毎年度、統一フォーマットによる自己点検・評価を行っていくこととした。評価項目については、大学基準協会の新評価システムに対応したものとし、各学科・各専攻が実施した自己点検・評価結果については、同委員会において結果の集約・検証を行った上で、学長に報告を行っている。また、各学科・各専攻の自己点検・評価結果において、目標への達成度が低かった項目については、自己点検・評価の実施後に、改善方策と改善時期の提出を各学科・専攻に求め、そのことを通じて内部質保証システムの構築を図っている。

平成 26 年度には、大学基準協会による第 2 期の認証評価を受審し、平成 27 年 3 月、第 1 回目に引き続き「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。第 1 期受審の際に指摘された助言は 12 項目であったが、第 2 期受審の際には努力課題として 4 項目の指摘となっている。指摘事項が減少したことは、上述したとおり平成 23 年度に統一フォーマットによる自己点検・評価を行うなど、第 1 期の受審後、果敢に内部質保証システムの構築を進めてきたことが評価されたものである。

上記のことから、本学では、学校教育法第 109 条に則して、本学の教育研究水準の向上に資するために、自己点検・評価に取り組んでいるといえる。

⑪ 情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に対応して、東洋大学学則第 2 条の 2 に「本学は、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。」、また、同第 2 項に「前項に規定するもののほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。」と定め、教育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップ>大学紹介>情報公開>教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html>)

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/69150.html>

イ 教育研究上の基本組織に関すること

- ・組織図

<http://www.toyo.ac.jp/site/oc/oc00-organization.html>

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員数（職名・性別別）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81998.html>

- ・教員数（年齢別）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81814.html>

- ・教員一人当たりの学生数

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81742.html>

- ・専任教員と非常勤教員の比率

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81576.html>

- ・役職一覧（教員）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/20150827.html>

- ・東洋大学研究者情報データベース

<http://ris.toyo.ac.jp/search/index.html>

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・各学部学科、各研究科専攻の入学者に関する受入方針

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/69151.html>

- ・入学者数（学部・学科別（1部／2部）・通信教育部・大学院・編入・附属高校等）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81627.html>

- ・入学者数の推移（過去5年～学部・学科別（1部／2部）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81747.html>

- ・入学者数の推移（過去3年～大学院学生）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81812.html>

- ・定員数（学部・学科別（1部／2部）・大学院・通信教育部・附属高校等）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81422.html>

- ・収容定員充足率 学部・学科別（1部／2部）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81433.html>

- ・学生数（学部第1部・第2部）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81438.html>

（大学院・通信・附属高校等）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/82024.html>

（キャンパス別）

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/82032.html>

- ・卒業者数・修了者数

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/82004.html>

- ・就職状況

<http://www.toyo.ac.jp/site/career/data.html>

- ・主な就職先

<http://www.toyo.ac.jp/site/career/82376.html>

- ・進学者数

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/81877.html>

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・年間授業計画、シラバス、授業概要 <https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/>

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・履修モデル・主要科目の特長・授業評価基準・卒業（修了）認定基準等（履修要覧抜粋） <http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html>

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・各キャンパスの校地・校舎等 学生の教育研究環境

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html>

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・授業料・入学料その他大学等が徴収する費用

<http://www.toyo.ac.jp/site/jyugyou/campuslife-g02-index.html>

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・学生生活支援

<http://www.toyo.ac.jp/life/4/4/>

- ・キャリア形成支援

<http://www.toyo.ac.jp/life/5/5/>

- ・留学生支援

<http://www.toyo.ac.jp/site/award/award-ssa-index.html>

- ・障がい学生支援

<http://www.toyo.ac.jp/site/handicap/campuslife-g03-index.html>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

- ・学則

<http://www.toyo.ac.jp/site/rules/>

- ・設置届出書および履行状況報告書

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/fulfillment.html>

- ・自己点検・評価

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

- ・認証評価

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72906.html>

- ・外部評価

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/out.html>

- ・格付け

<http://www.toyo.ac.jp/site/data/rate.html>

また本学では、教育活動の情報提供について、ステークホルダーにより提供する方法や、媒体に工夫を加えている。特に、父母等に対しては、ホームページ上の公表だけではなく、年 3 回程度発行される「東洋大学報」を毎号発送することや、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科長等が教育活動を中心に大学の活動を報告するなど、積極的に情報の提供を行っている。

⑫ 教育内容などの改善を図るための組織的な研修等

本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に対応して、東洋大学学則第 3 条の 3 に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と定め、教育活動の継続的な改善の推進と支援を目的とした「東洋大学 F D 推進センター」「F D 推進委員会」を設置している。「東洋大学 F D 推進センター」では、以下の 8 点を中心に事業を行っている。

- (1) 教育内容・方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) F D の研究会、研修会及び講演会等の企画・実施・支援
- (3) F D の啓発活動及び情報収集・提供
- (4) 各学部、研究科での F D 活動の情報交換及び調整・支援
- (5) F D 推進センターの P D C A サイクルの確立
- (6) スーパーグローバル大学創成支援 (S G U) の取り組みへの対応
- (7) I R 室と連携した F D 活動の展開
- (8) 学生 F D チームの活動支援体制の構築と活動のサポート

また、F D 推進委員会では委員会全体での活動の他に、5 つの部会（研修部会、大学院部会、教育改善対策部会、編集部会、授業評価手法検討部会）を設け、部会単位でも活動を行っている。各部会の活動概要は以下のとおりである。

(1) 研修部会

- ・ 新任教員の研修会の立案、実施
- ・ 一般教員の研修会の立案、実施
- ・ T A 研修会の立案、実施
- ・ F D 関連研修会、講演会の立案、実施

(2) 大学院部会

- ・ 大学院の F D の概念構築
- ・ F D の実施内容の検討及び実施計画の立案
- ・ 大学院各研究科の F D 活動状況報告会の立案、実施

(3) 教育改善対策部会

- ・ 授業改善のための情報や機会の提供
- ・ 各学部の F D 活動状況報告会の立案、実施
- ・ 授業改善事例シンポジウムの立案、実施

(4) 編集部会

- ・ 事業計画書及び事業報告書の編集
- ・ 出版物の企画・編集
- ・ F D 関連研修会等の報告書のデータベース化

(5) 授業評価手法検討部会

- ・ 全学的な授業アンケートの構築と運用
- ・ 授業アンケートのフィードバックシステムの構築

これらの「東洋大学 F D 推進センター」、「F D 推進委員会」及び各部会での活動に加えて、学生 F D チームによる F D 活動や、各学部・研究科での F D 活動がある。学生 F D チームによる F D 活動は、学生の大学生活の中心である授業を、教員、職員、学生の三位一体で改善、向上させようとする取り組みであり、教職員合同会議の実施や学生を対象としたセミナー・ワークショップの開催、関東圏で学生 F D 活動に取り組む大学と連携して、情報・意見交換やノウハウの共有、研修などを行っている。各学部・研究科での F D 活動では、学部・研究科内に F D 委員会を設けたり、また自己点検・評価委員会と連携したりしながら F D 活動を進めており、毎年発行する「東洋大学 F D 推進センター活動報告書」に各学部、各研究科に掲載し、状況の共有化を行っている。

上記のことから、本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に則して、「当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を実施しているといえる。

⑬ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

社会的・職業的自立に関する指導等の教育課程内での取り組みについては、「キャリアデベロップメント A」「キャリアデベロップメント B」の科目を配置し、併せて「情報連携学

概論」を用意してキャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を指導する。社会が求める人材、個人に求められる素養、働く上で必要とされる能力を知ること、学部専門教育を活かしつつ大学設置基準第 42 条の 2「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るに必要な能力」の修得機会を、入学直後から担保しているといえる。

また、「情報連携実習」では 1 年次から 4 年次まで、チーム制、グループワークを通じて社会が必要とするコミュニケーション能力とチームで課題解決できる能力を身に付ける。

教育課程外での社会的・職業的自立を促す支援としては、シェアオフィスの提供やスポンサーの紹介などの制度を整備し、様々な形でチーム実習のアイデアを形にして起業することをサポートすることとしている。

一方、個人の力を活かして社会で活躍するための支援として、教育課程外でのキャリア及び就職支援体制を整備している。事務職員を中心とした全学組織である「就職・キャリア支援部」を設置、赤羽台キャンパスにおいても、事務職員を中心として就職支援体制を整備し、入学直後から、卒業後の進路選択を見据えた支援プログラムを数多く用意する。

1・2 年次には自身のキャリアを考えて行くためのプログラムや、公務員やインターンシップ等の講座等の実施を計画している。また、3 年次には業界・企業研究セミナーや各種ガイダンス、就職活動対策講座等を運営、4 年次には最終的に進路が決定するまで就職活動を支援するためのバックアップセミナー等のほか、個別相談体制の強化を図り、学生一人ひとりの状況に添った支援を行っていくこととしている。

なお、赤羽台キャンパスでの支援体制に加え、大学本部の白山キャンパスでの支援体制も情報連携学部の学生は活用することができる。白山キャンパスでは、主に白山の在学学生を対象として各学年向けのプログラムやセミナー、個別相談体制を充実させているが、赤羽台と白山は立地的に近接しているため、情報連携学部の学生は赤羽台と白山という都心部の 2 つのキャンパスでの支援体制を最大限活用しながら、多くの企業が立地する都内での就職活動を優位に進めることができると考える。

以 上

資料目次

- 【資料 01】 学校法人東洋大学教職員定年規程
- 【資料 02】 年俸契約雇用制度に関する要綱
- 【資料 03】 情報連携学部及び情報連携学研究科特別教員に関する要項
- 【資料 04】 履修モデル
- 【資料 05】 赤羽台キャンパス教室稼働率

昭和34年4月1日
施行

改正	昭和39年9月1日	昭和40年9月1日
	昭和47年4月1日	平成8年4月1日
	平成14年4月1日	平成23年4月1日
	平成26年8月1日	

第1条 学校法人東洋大学の設置する学校の専任の教員及び専任の事務職員の定年は、大学及び附属高等学校等に在職する教員については満65歳とし、事務職員については満60歳とする。

第2条 前条に該当する教職員は、定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

第3条 この規則の改正は、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

1 この規程は、平成8年4月1日から施行する。

2 第1条の規定にかかわらず、平成7年度以前に専任教員として採用された者については、なお従前の例による。

附 則（平成14年規程第18号）

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第42号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成26年規則第127号）

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

年俸契約雇用制度に関する要綱

（目的）

- 1 この制度は、本学が特に必要と認めた場合に、年俸契約雇用制により専任教員を任用することを目的とする。

（適用対象）

- 2 年俸契約制は、次の場合に適用する。
 - （１）原則として大学院の科目担当者（修士課程研究指導担当以上）を任用する場合
 - （２）全国的に評価の高い学者などを任用する場合
 - （３）その他、本学が特に必要と認めた場合

（契約期間）

- 3 契約期間は１年とし、原則として契約更改の限度は４回とする。

（雇用年齢）

- 4 雇用年齢は、原則として７０才までとする。ただし、この制度により他機関から任用する場合、雇用開始年齢は６５歳未満とすることができる。

（年俸額）

- 5 年俸額は、在職時（前職時）の給与支給額を勘案し定める。

（退職金）

- 6 退職金は支給しない。

（契約）

- 7 契約については別に定める。

附 則

この要綱は、平成８年４月１日から施行する。

附 則

この要綱は、平成１６年４月１日から施行する。

情報連携学部及び情報連携学研究科特別教員に関する要項

(目的)

第1条 この要項は、東洋大学教職員の任免及び職務規程第42条第1項及び東洋大学任期制教員に関する規程に基づき、東洋大学情報連携学部及び情報連携学研究科の教育及び研究体制の充実と活性化を図ることを目的として、特別教員を置き、その任用に関し必要な事項を定める。

(資格)

第2条 特別教員は、当該学部及び大学院教員資格審査基準を満たし、かつ、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 国の内外において高い研究業績を上げている研究者
- (2) 社会的な影響において実績を有する実務家又は研究者
- (3) その他、学部及び大学院の教育及び研究に鑑み、特に必要と認めた者

(任用)

第3条 任用期間は1期5年を上限とし、服務、給与等について定めた雇用契約は、1年毎に1年契約を原則に更新することができる。ただし、当初の契約時から通算年数で10年を超えて契約をすることはできない。

- 2 学校法人東洋大学(以下「本学」という。)が学部及び大学院の教育及び研究において特に必要と認め、かつ、健康な場合は一回に限り、再任することができる。ただし、当初の契約時から通算年数で10年を超えて契約をすることはできない。
- 3 当初の契約時とは、特別教員での当初契約より以前に、有期労働契約を締結していた場合は、雇用契約期間に6か月以上の離職期間がある場合を除き、本学で最初に雇用された身分の有期労働契約での雇用契約日とする。ただし、当初の契約時の起点が平成25年3月31日以前となる場合は、当初の契約時の起点を平成25年4月1日とすることができる。
- 4 同条第2項に定める契約期間終了となった特別教員のうち、理事長の承認を得ることにより、雇用期間延長の特例措置が適用された者で、大学の教員等の任期に関する法律(平成25年12月13日法律第99号)第7条により、雇用形態が転換した場合には、本要項のうち第3条については第3項から第6項までを適用し、身分及び労働条件の変更は行わない。また、雇用形態転換後の雇用年齢は、満65歳の年度末までとする。
- 5 任用及び更新の開始日において満65歳に達している者は、任用及び更新ができない。ただし、本学が認めた場合には、満72歳に達する日の属する年度の末日まで雇用できる。

(任用手続等)

第4条 特別教員候補者の資格審査は、情報連携学部教授会及び情報連携学研究科委員会が行い、適任と認められた場合、情報連携学部長及び情報連携学研究科長が学長に任用の推薦をする。

2 学長は、任用の推薦内容を精査した後、適任と認められた場合、理事長に推薦する。

3 学長の選考に基づき理事長が任命する。

(所属及び身分)

第5条 特別教員は、情報連携学部及び情報連携学研究科に所属し、その身分は、教授又は准教授とする。

(職務)

第 6 条 大学院又は学部における授業を 3 コマ以上担当し、週 3 日以上の勤務とする。

2 オフィスアワー

3 入学試験業務

4 教授会及び学科会議に出席するほか、学部長が必要と認めた会議への出席

5 その他専任教員として必要な職務

(給与等)

第 7 条 給与は、教授の場合で年額 800 万円、准教授の場合で年額 700 万円とし、年俸制で支給する。

2 給与の支払いは、年俸額の 12 分の 1 を毎月の支給額とする。

3 賞与は、支給しない。

4 退職金は、支給しない。

5 通勤手当の支給に関しては、東洋大学通勤手当支給基準を準用する。

6 3 コマを超えて授業を担当した場合は、専任教員に準じて超過授業手当を支給する。

7 研究費及び福利施設の利用は、専任教員に準ずる。

8 日本私立学校振興・共済事業団の定める加入基準により加入し、掛け金は折半とする。

9 雇用保険に加入し、掛け金は法令に基づく。

10 同条第 5 項から第 7 項以外の手当等は、支給は専任教員に準ずる。

(兼業)

第 8 条 特別教員の兼業について、東洋大学就業規則第 5 1 条の規定を適用する。

(その他)

第 9 条 特別教員には、学部長、学科長及び評議員の選挙権並びに被選挙権を付与する。

2 学長の選考に関する推薦資格及び意向投票の資格は、東洋大学長の選任及び選考に関する規則による。

(改正)

第 10 条 この要項の改正は、常務理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

この要項は、平成 27 年 7 月 21 日から施行する。

■《履修モデル》 情報連携ビジネスコース

マネージメント、マーケティング、経営戦略などを学び、現在世界的にも注目されているデータに基づいた新しい経営を身につけた新しいビジネスモデルを構築し、国際企業等で活躍できるマネージャー人材を養成するモデル

学年	学期	基盤教育	情報連携学基盤科目	コミュニケーション科目		専門科目			演習・実習			単位数	
1 年 次	春	井上円了と 日本近代思想 (2)	情報連携学概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅰ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅰ (2)			情報連携基礎演習 (4)	情報連携実習Ⅰ(2)		34	
	夏					ソフトウェア開発概論Ⅰ (2)							
	秋		情報連携ビジネス概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅱ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅱ (2)							
	冬					ソフトウェア開発概論Ⅱ (2)	コンピュータ社会概論 (2)						
2 年 次	春	キャリアデベロップメント論A (2)	情報連携のための数学A (2)			会計論Ⅰ (2)	統計とデータ分析Ⅰ (2)		情報連携ビジネス演習Ⅰ (4)	情報連携ビジネス演習Ⅱ (4)	情報連携実習Ⅱ (2)	34	
	夏	キャリアデベロップメント論B (2)	情報連携のための 確率・統計学A (2)			経営論Ⅰ (2)							
	秋		情報連携シビルシステム概論 (2)			会計論Ⅱ (2)	統計とデータ分析Ⅱ (2)						
	冬	マクロ経済学 (2)				経営論Ⅱ (2)							
3 年 次	春	ミクロ経済学 (2)				経営論Ⅲ (2)	人口知能 (2)		情報連携ビジネス演習Ⅲ (4)	情報連携ビジネス演習Ⅳ (4)	情報連携実習Ⅲ (4)	32	
	夏					データ・マイニング論 (2)	社会資本経営 (2)						
	秋					ディープ・ラーニング (2)	ビックデータ解析 (2)	工業デザイン(2)					
	冬	情報と法 (2)				知的財産権論 (2)							
4 年 次	春	情報技術者の倫理 (2)				ビジネス・ インキュベーション'論Ⅰ (2)			情報連携実習Ⅳ (4)	卒業研究 (4)		24	
	夏	国際経済学(金融・通貨) (2)				データ・サイエンス論Ⅱ (2)							
	秋					ビジネス・ インキュベーション'論Ⅲ (2)	データ・サイエンス論Ⅲ (2)						
	冬					データ・サイエンス論Ⅳ (2)	ビジネス・ インキュベーション'論Ⅳ (2)						
単位数		16	10	12		50			36			124	

■《履修モデル》 情報連携シビルシステムコース

環境や高齢者社会、エネルギーなど、制度面から連携を支え、新しい情報サービスの社会への出口を確保し、また連携による新しい公共をシステムとして構築し、行政機関等で活躍できるコーディネーター人材を養成

学年	学期	基盤教育	情報連携学基盤科目	コミュニケーション科目		専門科目			演習・実習			単位数
1 年 次	春	井上円了と 日本近代思想 (2)	情報連携学概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅰ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅰ (2)			情報連携基礎演習 (4)	情報連携実習Ⅰ(2)		34
	夏					ソフトウェア開発概論Ⅰ (2)						
	秋		情報連携シビルシステム概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅱ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅱ (2)						
	冬					ソフトウェア開発概論Ⅱ (2)	コンピュータ社会概論 (2)					
2 年 次	春	キャリアデベロップメント論A (2)	情報連携のための数学A (2)			環境科学と政策 (2)	インフラマネジメント (2)		情報連携シビルシステム演習Ⅰ (4)	情報連携シビルシステム演習Ⅱ (4)	情報連携実習Ⅱ (2)	34
	夏	キャリアデベロップメント論B (2)	情報連携のための物理学A (2)			建築デザイン (2)						
	秋		情報連携ビジネス概論 (2)			エネルギーと環境インフラ (2)	都市・地域マネジメント (2)					
	冬	マクロ経済学 (2)				産業エコロジー (2)						
3 年 次	春	ミクロ経済学 (2)				地理情報システム (2)	ユビキタスネットワークと生活 (2)		情報連携シビルシステム演習Ⅲ (4)	情報連携シビルシステム演習Ⅳ (4)	情報連携実習Ⅲ (4)	32
	夏					社会資本経営 (2)	コンピュータ・アーキテクチャ (2)					
	秋					ライフラインマネジメント (2)	持続可能社会と 情報マネジメント (2)	工業デザイン(2)				
	冬	情報と法 (2)				交通と情報マネジメント (2)						
4 年 次	春	情報技術者の倫理 (2)				インフラ・サービス論Ⅰ (2)			情報連携実習Ⅳ (4)	卒業研究 (4)		24
	夏	国際経済学(金融・通貨) (2)				クオリティ・オブ・ライフ論Ⅱ (2)						
	秋					インフラ・サービス論Ⅲ (2)	クオリティ・オブ・ライフ論Ⅲ (2)					
	冬					クオリティ・オブ・ライフ論Ⅳ (2)	インフラ・サービス論Ⅳ (2)					
単位数		16	10	12		50			36			124

■《履修モデル》 情報連携エンジニアリングコース

ソフトウェア・エンジニアリング、ユビキタス・コンピューティング、IoTさらには、データベースの構築、モバイルの開発、web開発などが出来るエンジニアとしてICT関連企業等で活躍し、技術面から連携を支え、新しい情報サービスを具体化できる人材を養成

学年	学期	基盤教育	情報連携学基礎科目	コミュニケーション科目		専門科目			演習・実習			単位数
1 年次	春	井上円了と 日本近代思想 (2)	情報連携学概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅰ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅰ (2)			情報連携基礎演習 (4)	情報連携実習Ⅰ(2)		34
	夏					ソフトウェア開発概論Ⅰ (2)						
	秋		情報連携エンジニアリング概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅱ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅱ (2)						
	冬					ソフトウェア開発概論Ⅱ (2)	コンピュータ社会概論 (2)					
2 年次	春	キャリアデベロップメント論A (2)	情報連携のための数学A (2)			コンピュータ・アーキテクチャ (2)	情報数学 (2)		情報連携エンジニアリング演習 Ⅰ (4)	情報連携エンジニアリング演習 Ⅱ (4)	情報連携実習Ⅱ (2)	34
	夏	キャリアデベロップメント論B (2)	情報連携のための物理学A (2)			プログラミング言語Ⅰ (2)						
	秋		情報連携デザイン概論 (2)			コンピュータ・ネットワークⅠ (2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ (2)					
	冬	マクロ経済学 (2)				プログラミング言語Ⅱ (2)						
3 年次	春	ミクロ経済学 (2)				コンピュータ・ネットワークⅡ (2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ (2)		情報連携エンジニアリング演習 Ⅲ (4)	情報連携エンジニアリング演習 Ⅳ (4)	情報連携実習Ⅲ (4)	32
	夏					ソフトウェア・エンジニアリング (2)	ユビキタスネットワークと生活 (2)					
	秋					オペレーティング・システム (2)	コンピュータ・システム (2)	コンピュータ・グラフィクス (2)				
	冬	情報と法 (2)				データベース (2)						
4 年次	春	情報技術者の倫理 (2)				コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅰ (2)			情報連携実習Ⅳ (4)	卒業研究 (4)		24
	夏	国際経済学(金融・通貨) (2)				コンピュータ・ネットワーク論Ⅱ (2)						
	秋					コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅲ (2)	コンピュータ・ネットワーク論Ⅲ (2)					
	冬					コンピュータ・ネットワーク論Ⅳ (2)	コンピュータ・アーキテクチャ論Ⅳ (2)					
単位数		16	10	12		50			36			124

■《履修モデル》 情報連携デザインコース

最先端のツールを使いこなし 情報サービス分野をwebデザイン・工業意匠等とともに革新する能力を育成し、消費者が使ってみたいと思えるようなデザインを創造する力で連携を支え、新しい情報サービスや製品の具体化し、民間企業、グローバル企業で活躍できる人材を養成

学年	学期	基盤教育	情報連携学基盤科目	コミュニケーション科目		専門科目			演習・実習			単位数
1 年 次	春	井上円了と 日本近代思想 (2)	情報連携学概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅰ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅰ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅰ (2)			情報連携基礎演習 (4)	情報連携実習Ⅰ(2)		34
	夏					ソフトウェア開発概論Ⅰ (2)						
	秋		情報連携デザイン概論 (2)	リスニング・スピーキング演習Ⅱ (英語) (4)	リーディング・ライティング演習Ⅱ (英語) (2)	コンピュータシステム概論Ⅱ (2)						
	冬					ソフトウェア開発概論Ⅱ (2)	コンピュータ社会概論 (2)					
2 年 次	春	キャリアデベロップメント論A (2)	情報連携のための数学A (2)			デザイン理論Ⅰ (2)	コンピュータ支援設計Ⅰ (2)		情報連携デザイン演習Ⅰ (4)	情報連携デザイン演習Ⅱ (4)	情報連携実習Ⅱ (2)	34
	夏	キャリアデベロップメント論B (2)	情報連携のための物理学A (2)			ユーザ・エクスペリエンス・ デザインⅠ (2)						
	秋		情報連携エンジニアリング概論 (2)			デザイン理論Ⅱ (2)	ユーザ・エクスペリエンス・ デザインⅡ (2)					
	冬	マクロ経済学 (2)				デザイン理論Ⅲ (2)						
3 年 次	春	ミクロ経済学 (2)				WEBデザインⅠ (2)	コンピュータ支援設計Ⅱ (2)		情報連携デザイン演習Ⅲ (4)	情報連携デザイン演習Ⅳ (4)	情報連携実習Ⅲ (4)	32
	夏					ユーザ・エクスペリエンス評価 (2)	建築デザイン (2)					
	秋					WEBデザインⅡ (2)	工業デザイン (2)	知的財産権論 (2)				
	冬	情報と法 (2)				コンピュータ・グラフィクス (2)						
4 年 次	春	情報技術者の倫理 (2)				デジタル・デザイン論Ⅰ (2)			情報連携実習Ⅳ (4)	卒業研究 (4)		24
	夏	国際経済学(金融・通貨) (2)				ユーザ・エクスペリエンス・ デザイン論Ⅱ (2)						
	秋					デジタル・デザイン論Ⅲ (2)	ユーザ・エクスペリエンス・ デザイン論Ⅲ (2)					
	冬					ユーザ・エクスペリエンス・ デザイン論Ⅳ (2)	デジタル・デザイン論Ⅳ (2)					
単位数		16	10	12		50			36			124

＜赤羽台キャンパス教室稼働率について＞

1) 教室規模別稼働率試算表

	小教室 (0～30)	中教室 (31～99)	大教室 (100～)	合計
教室数	25	10	4	39
週の利用可能時限	30	30	30	30
開講予定科目数	270	128	71	469
規模別教室稼働率 (完成年度)	36.0%	42.7%	59.2%	40.1%

※留学支援(日本語科目)は、上表に含まず(含んだ値は、[備考]を参照)。

2) 科目分野別開講予定コース数表

科目区分		教室規模	科目数	開講予定コース数
基盤教育科目	哲学・思想	大教室	7	14
	経済・金融	大教室	6	12
	国際人の形成	大教室	2	2
		中教室	2	2
	キャリア・健康	小教室	2	2
	総合・学際	大教室	4	4
	留学支援(英語特別教育科目)	小教室	8	8
	留学支援(日本語科目)	小教室	24	24
情報連携学基盤科目	基盤科目	大教室	7	13
	分野別科目	大教室	4	4
コミュニケーション科目	必修コミュニケーション科目	小教室	8	52
	選択コミュニケーション科目	小教室	8	20
専門科目	情報連携基礎科目	大教室	5	20
	情報連携応用科目(ビジネス分野)	中教室	20	32
	情報連携応用科目(シビルシステム分野)	中教室	20	32
	情報連携応用科目(エンジニアリング分野)	中教室	20	32
	情報連携応用科目(デザイン分野)	中教室	20	32
演習・実習	情報連携基礎演習	小教室	12	12
	情報連携応用演習(ビジネス演習)	小教室	4	12
	情報連携応用演習(シビルシステム演習)	小教室	4	12
	情報連携応用演習(エンジニアリング演習)	小教室	4	12
	情報連携応用演習(デザイン演習)	小教室	4	12
	情報連携実習	小教室	4	54
大学院科目	共通科目	小教室	4	4
	専門科目	小教室	16	16
	研究科目	小教室	2	36

[備考]

基盤教育科目の留学支援(日本語科目)については、留学生数によって開講を赤羽台・白山のいずれかで開講となる。

そのため、「教室規模別稼働率試算表」には加算していないが、全科目開講した場合でも

小教室・・・開講予定科目数(294)、教室稼働率(49.0%)

全体・・・開講予定科目数(493)、教室稼働率(48.3%)

となり、運営上問題は生じない。